

第4期江別市地域福祉計画策定に係る
市民アンケート調査報告書

令和2年3月

北海道江別市

目 次

1	調査の概要.....	1
1.1	調査の実施概要.....	1
(1)	調査目的.....	1
(2)	調査方法.....	1
(3)	主な調査項目.....	1
(4)	回収結果.....	1
(5)	集計・分析の留意事項.....	2
1.2	調査結果の概要.....	3
(1)	社会的支援が必要な人の状況.....	3
(2)	近所付き合いについて.....	4
(3)	地域活動やボランティアについて.....	7
(4)	日常生活での不安や悩みについて.....	8
(5)	地域での生活について.....	10
(6)	福祉行政について.....	11
2	調査結果.....	13
2.1	属性.....	13
問1	性別、年齢.....	13
問2	就業状態、職業.....	14
問3	家族構成.....	15
問4	世帯人数.....	16
問5	居住地区.....	17
問6	居住年数.....	18
問7	住まい.....	19
問8	世帯の家計の状況.....	20
問9	収入が少ないことによる影響.....	22
問10	健康状態.....	23
問11	普段の外出の頻度.....	24
問12	外出頻度が低い状況の継続期間.....	26
問13	外出頻度が低い状況の相談意向.....	28
問14	相談したいと思わない理由.....	29
2.2	近所付き合いについて.....	30

問 15	近所の人との付き合い方.....	30
問 16	手助けで感謝しているもの.....	31
問 17	近所に住んでいる高齢者等への手助けの有無.....	33
問 18	近所の高齢者等へ手助けした内容.....	34
問 19	手助けしたことがない理由.....	36
問 20	近所付き合いの満足度.....	37
2.3	地域活動やボランティアについて.....	38
問 21	支援活動の参加の有無.....	38
問 22	活動している団体.....	40
問 23	活動している分野.....	41
問 24	団体の活動に参加していない理由.....	42
問 25	今後活動に参加する場合、活動したい分野.....	43
2.4	日常生活での不安や悩みについて.....	44
問 26	日常生活における問題や不安なこと.....	44
問 27	日常生活の問題や不安なことについての相談相手.....	45
2.5	地域での生活について.....	47
問 28	誰が中心になって取り組むべきか.....	47
問 29	住民同士のつながりやきずなを深めるために必要なこと.....	48
問 30	住民同士のつながりやきずなを深めることが必要ない理由.....	49
2.6	福祉行政について.....	50
問 31	福祉全般に係るサービスなどの情報の入手方法.....	50
問 32	まちぐるみの福祉活動に関する評価.....	51
問 33	地域活動を活発にするために力を入れるべきと思うこと.....	52
問 34	住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切なこと.....	54
3	地域福祉に関する意見・要望.....	56
3.1	医療・介護・福祉等に関すること.....	56
3.2	生活環境に関すること.....	64
3.3	コミュニティに関すること.....	68
3.4	広報・情報発信に関すること.....	71
3.5	人材育成や住民の意識に関すること.....	72
3.6	全般・要望、意見等.....	73
4	その他の内容.....	78
5	調査票.....	92

1 調査の概要

1.1 調査の実施概要

(1) 調査目的

第4期江別市地域福祉計画策定に係る基礎資料として、地域福祉のあり方に関する意見を反映させるため、市民を対象としたアンケート調査を実施しました。

(2) 調査方法

【対象地区】 江別市全域

【対象者数】 江別市に居住する18歳以上の個人（外国人を除く）3,000名

【抽出方法】 住民基本台帳から居住地・性別・年齢の構成比に配慮した層化無作為抽出

【調査方法】 郵送配布・郵送回収

【調査時期】 令和元年8月

(3) 主な調査項目

- ・ 回答者の属性
- ・ 近所付き合いについて
- ・ 地域活動やボランティアについて
- ・ 日常生活での不安や悩みについて
- ・ 地域での生活について
- ・ 福祉行政について

(4) 回収結果

	件数	回収率
配布数	3,000	—
回収数	1,535	51.2%
有効票	1,534	51.1%
無効票	1	0.1%

【地区別の配布数、回収数】

地区別	配布数 (票)	回収数 (票)	回収率
江別地区	1,185	473	39.9%
野幌地区	1,081	621	57.4%
大麻地区	734	379	51.6%
無回答		61	
合計	3,000	1,534	51.1%

【性別の配布数、回収数】

性別	配布数 (票)	回収数 (票)	回収率
男性	1,409	651	46.2%
女性	1,591	868	54.6%
無回答		15	
合計	3,000	1,534	51.1%

【年齢別の配布数、回収数】

年齢別	配布数 (票)	回収数 (票)	回収率
29歳以下	396	101	25.5%
30歳代	342	127	37.1%
40歳代	470	209	44.5%
50歳代	483	240	49.7%
60歳代	547	333	60.9%
70歳以上	762	493	64.7%
無回答		31	
合計	3,000	1,534	51.1%

(5) 集計・分析の留意事項

本報告書内の図表においては、有効回答数を「n」で表記しました。また、クロス集計の場合などは、項目の下にそれぞれの項目に対応する有効回答数を表記しています。

図表中の構成比 (%) は、小数点第2位以下を四捨五入したものであり、端数処理のため、合計は必ずしも100%にならない場合があります。回答者はいるが、端数処理により構成比が0.0となった場合を「0.0%」、回答者がいない場合は「-」と表記しています。

各設問は無回答を含みますが、特段断りのない設問については、無回答を含めて有効回答数としています。

表中の色の違いは以下の通りになっています。

字体:標準/字の太さ:太字	回答者全体の回答より高い(10ポイント以上)
字体:標準/字の太さ:標準	回答者全体の回答より高い(5ポイント以上10ポイント未満)
字体:斜体/字の太さ:標準	回答者全体の回答より低い(5ポイント以上10ポイント未満)
字体:斜体/字の太さ:太字	回答者全体の回答より低い(10ポイント以上)

※Nが30未満の場合は対象外

回答数が30未満の場合は、比率が上下しやすいため、傾向をみるに留めて本文中では触れていない場合があります。

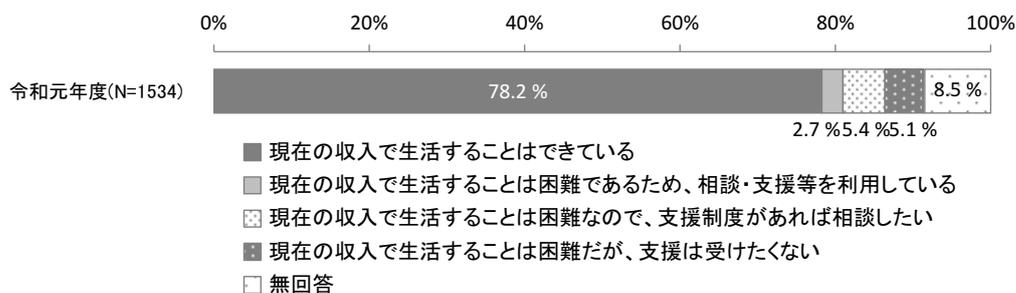
自由記載においては、回答者が記入したコメントをおおむね原文のまま記載しているため、誤字が含まれていることがあります。また、一つのコメントに複数の分類項目の内容が記載されている場合は、各分野に記載しています。

1.2 調査結果の概要

(1) 社会的支援が必要な人の状況

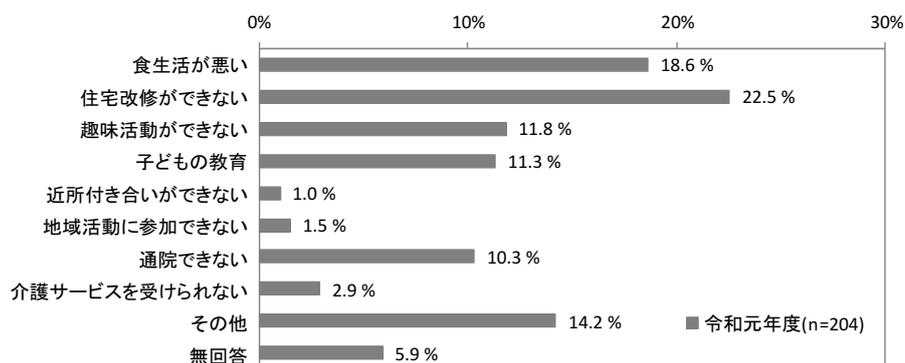
- 世帯の家計状況から、生活が困窮していると想定される回答者（「現在の収入で生活することは困難であるため、相談・支援等を利用している」、「現在の収入で生活することは困難なので、支援制度があれば相談したい」、「現在の収入で生活することは困難だが、支援は受けたくない」の合計）は13.2%となっています。（P20）

【図表 1.2.1.1 世帯の家計の状況】



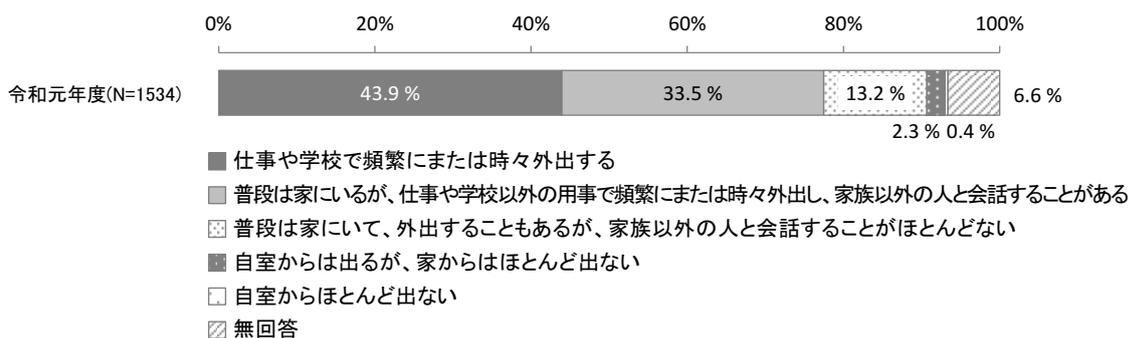
- 現在の収入が少ないことにより、「住宅改修ができない」「食生活が悪い」といった問題が生じています。（P22）

【図表 1.2.1.2 収入が少ないことによる影響】



- 普段の外出の頻度は、「普段は家において、外出することもあるが、家族以外の人と会話することがほとんどない」は13.2%、「自室からは出るが、家からはほとんど出ない」は2.3%、「自室からほとんど出ない」は0.4%となっています。そのうち、その状態が「6ヶ月～5年未満」は43.7%、「5年以上」は46.9%となっており、「6ヶ月以上」の人（6ヶ月以上外出頻度が低い人）は、全体の14.5%（222人/1,534人）となっています。（P24）

【図表 1.2.1.3 普段の外出の頻度】



- ・ 6ヶ月以上外出頻度が低い人は、「60歳以上」が約8割を占めており、全体に比べ就業状態では「無職（年金生活）」、居住年数では「20年以上」の割合が高くなっています。（P27）

【図表 1.2.1.4 就業状態、居住年数（6ヶ月以上外出頻度が低い人・年齢別）】

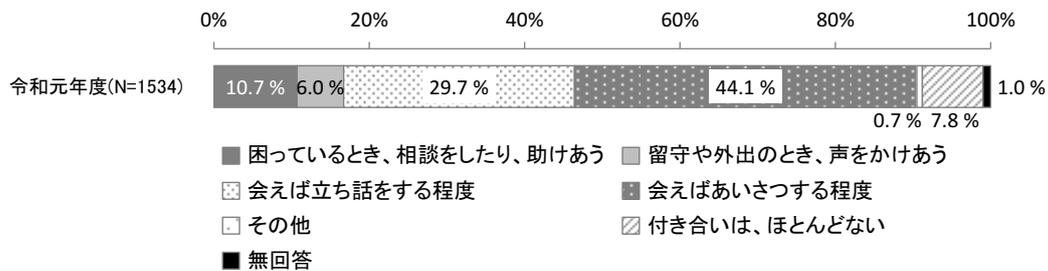
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	6ヶ月以上外出頻度が低い人/年齢						
		6ヶ月以上外出頻度が低い人/全体	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	
回答者数(人)	1534	222	4	10	11	20	175	
就業状態、 職業	自営業	4.2	1.4	0.0	0.0	0.0	5.0	1.1
	正社員	18.9	2.3	0.0	20.0	0.0	10.0	0.6
	契約社員	4.6	0.9	0.0	0.0	9.1	0.0	0.6
	パート、アルバイト	16.4	2.7	0.0	0.0	18.2	5.0	1.7
	公務員	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	家事専業(主婦・主夫を含む)	13.9	21.6	25.0	40.0	45.5	30.0	17.1
	学生	2.8	0.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	1.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
	無職(年金生活)	30.9	58.6	0.0	0.0	9.1	5.0	73.1
	無職(求職活動中)	1.2	4.1	50.0	10.0	0.0	30.0	0.0
	無職(求職活動していない)	1.8	7.2	0.0	30.0	18.2	15.0	4.6
	無回答	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居住年数	1年未満	3.7	2.7	25.0	0.0	0.0	0.0	2.9
	1年以上5年未満	13.2	14.0	25.0	60.0	27.3	5.0	10.9
	5年以上10年未満	11.0	11.7	0.0	20.0	27.3	10.0	10.9
	10年以上20年未満	18.2	13.1	25.0	10.0	18.2	35.0	10.3
	20年以上	52.2	58.1	25.0	10.0	27.3	50.0	64.6
	わからない	0.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
	無回答	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※6ヶ月以上外出頻度が低い人/全体のみ、全体との差を比較しています。

(2) 近所付き合いについて

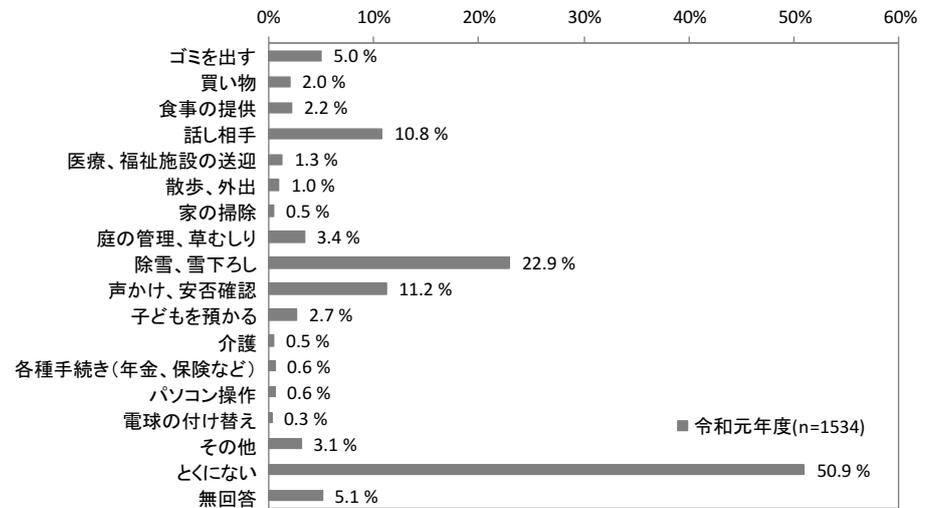
- ・ 近所の人との付き合いについては、「会えばあいさつする程度」が 44.1%で最も多く、「会えば立ち話をする程度」が 29.7%で次いでいます。（P30）

【図表 1.2.2.1 近所の人との付き合い方】



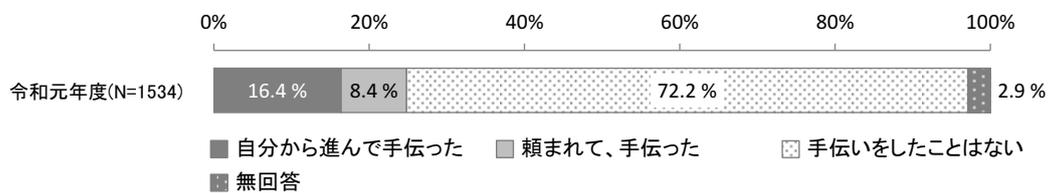
- ・ 困っていたとき受けた手助けで感謝しているものについては、「とくにない」(50.9%)を除くと、「除雪、雪下ろし」が22.9%で最も多くなっています。(P31)

【図表 1.2.2.2 手助けで感謝しているもの】

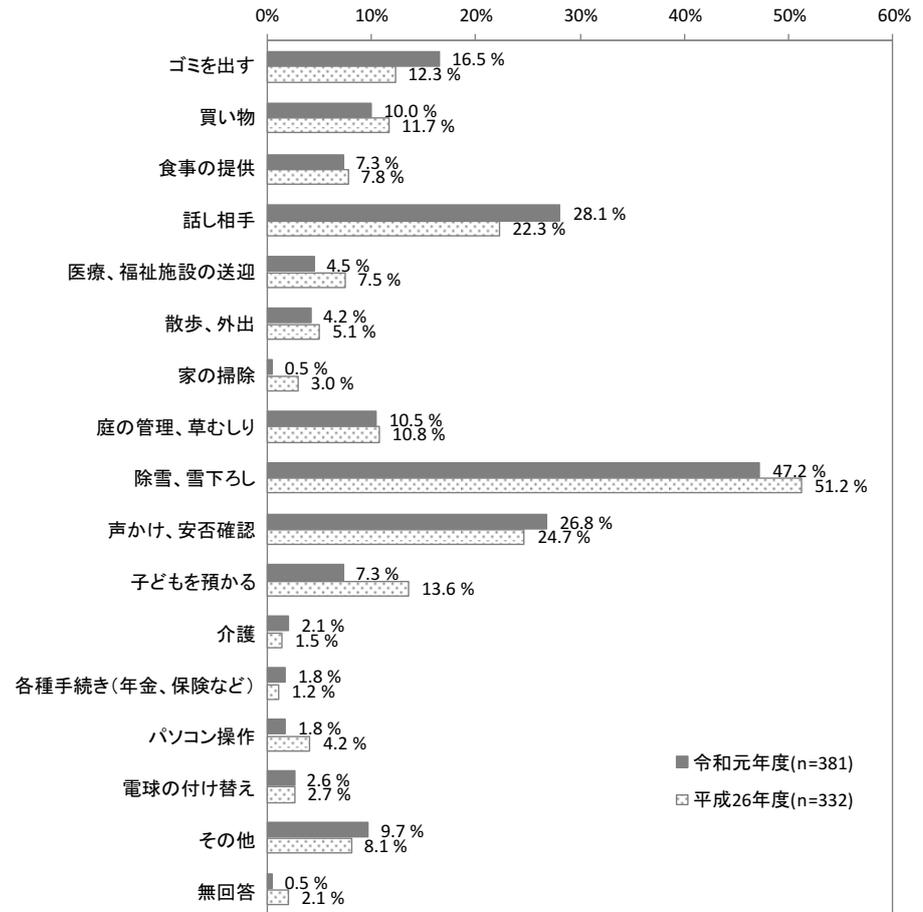


- ・ 近所に住んでいる高齢者等への手助けの有無については、「自分から進んで手伝った」は16.4%、「頼まれて、手伝った」は8.4%、合わせて手伝ったことがある人は24.8%となっています。その内容は、「除雪、雪下ろし」、「話し相手」、「声かけ、安否確認」が上位に上がっています。一方、手助けをしたことがない理由は、「そのような機会がないので」が大半を占めています。(P33～36)

【図表 1.2.2.3 近所に住んでいる高齢者等への手助けの有無】

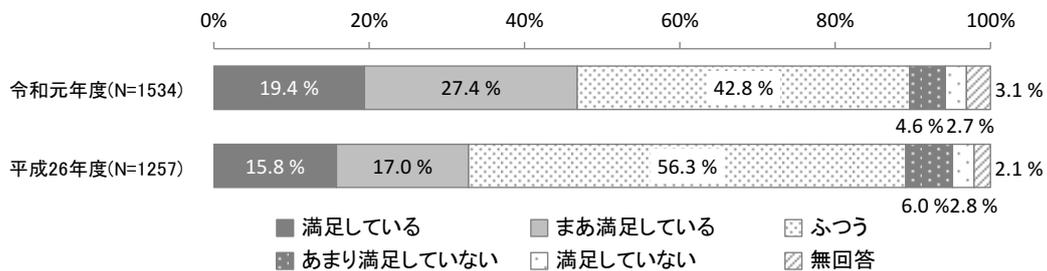


【図表 1.2.2.4 近所の高齢者等へ手助けした内容】



- 現在の近所付き合いの満足度については、「ふつう」が 42.8%で最も多く、満足（「満足している」、「まあ満足している」の合計）との回答は4割以上となっています。平成26年度調査と比較すると、満足（「満足している」、「まあ満足している」の合計）は14ポイント増加しています。（P37）

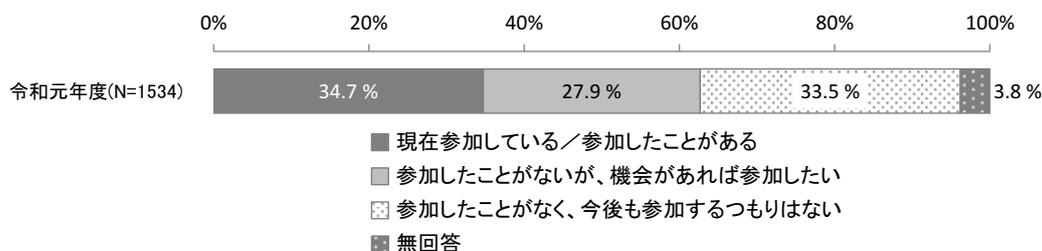
【図表 1.2.2.5 近所付き合いの満足度】



(3) 地域活動やボランティアについて

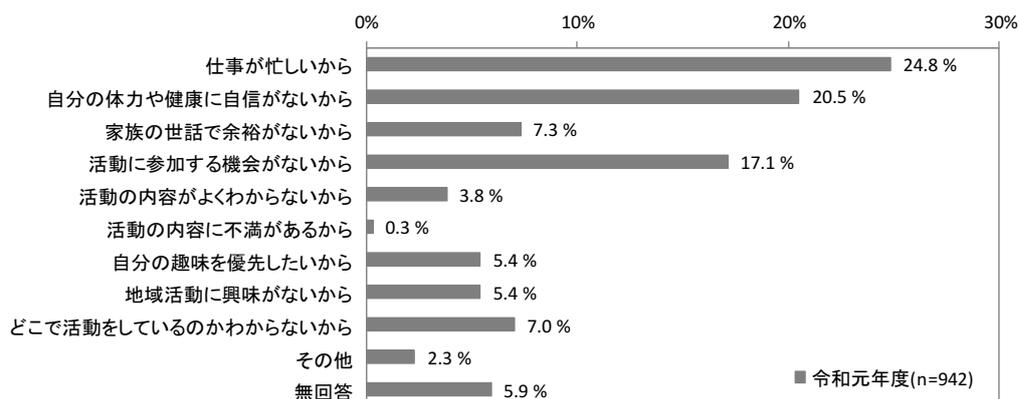
- 地域活動やボランティア活動などの支援活動に参加しているかについては、「現在参加している／参加したことがある」が34.7%、「参加したことがないが、機会があれば参加したい」が27.9%、「参加したことがなく、今後も参加するつもりはない」が33.5%となっています。現在活動している団体については、「町内会・自治会（部会を含む）」が最も多くなっています。また、現在活動している分野については、「環境整備、リサイクル活動」が最も多く、次いで「募金（赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金、日赤など）」となっています。（P38～41）

【図表 1.2.3.1 支援活動の参加の有無】



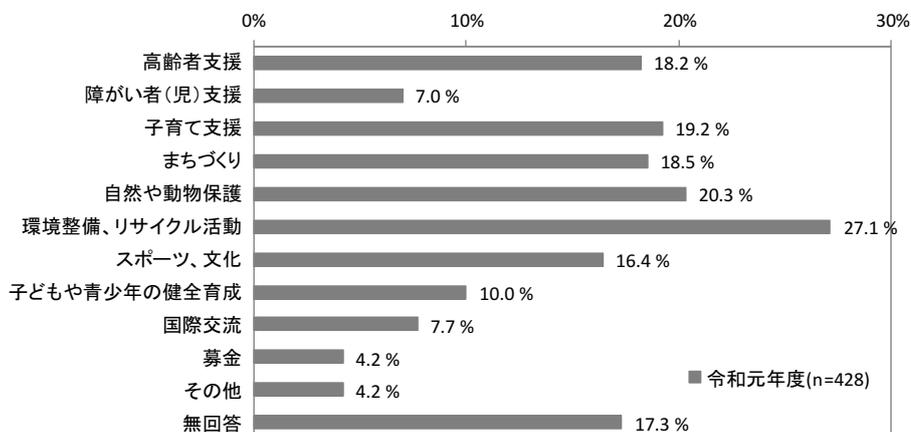
- 団体の活動に参加していない理由については、「仕事が忙しいから」が最も多く、次いで「自分の体力や健康に自信がないから」、「活動に参加する機会がないから」となっています。（P42）

【図表 1.2.3.2 団体の活動に参加していない理由】



- 今後、活動に参加するとしたらどの分野の活動をしたいかについては、「環境整備、リサイクル活動」が最も多く、次いで「自然や動物保護」、「子育て支援」となっています。（P43）

【図表 1.2.3.3 今後活動に参加する場合、活動したい分野】



<現在参加している／参加したことがある人の特徴>

- ・ 「70歳以上」、「無職(年金生活)」、「夫婦二人の世帯」の割合が全体と比べ高くなっています。

<参加したことがないが、機会があれば参加したい人の特徴>

- ・ 「50歳代」、「正社員」の割合が全体と比べ高くなっています。(P39)

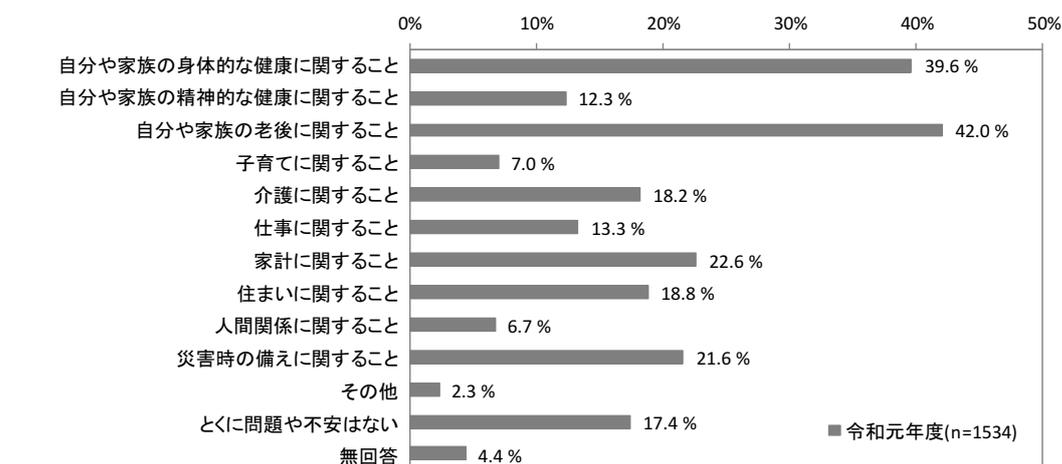
【図表 1.2.3.4 属性（支援活動の参加の有無別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	支援活動の参加の有無			
		現在参加している/ 参加したことがある	参加したことがないが、 機会があれば参加したい	参加したことがなく、 今後も参加するつもりはない	
回答者数(人)	1534	533	428	514	
年齢	29歳以下	6.6	3.9	9.3	7.6
	30歳代	8.3	5.4	10.3	8.9
	40歳代	13.6	12.6	15.2	14.6
	50歳代	15.6	11.8	20.6	16.3
	60歳代	21.7	25.7	22.0	19.1
	70歳以上	32.1	38.8	27.0	31.3
	無回答	2.0	1.7	1.6	2.1
就業状態、 職業	自営業	4.2	5.4	4.7	2.7
	正社員	18.9	13.1	26.2	19.8
	契約社員	4.6	3.4	5.6	5.4
	パート、アルバイト	16.4	15.9	19.4	15.0
	公務員	2.6	2.8	3.0	2.3
	家事専業(主婦・主夫を含む)	13.9	17.3	11.2	12.5
	学生	2.8	2.1	4.9	2.1
	その他	1.4	1.5	0.7	1.6
	無職(年金生活)	30.9	36.2	18.7	33.5
	無職(求職活動中)	1.2	0.6	2.3	1.2
	無職(求職活動していない)	1.8	1.1	1.9	2.5
	無回答	1.3	0.6	1.4	1.4

(4) 日常生活での不安や悩みについて

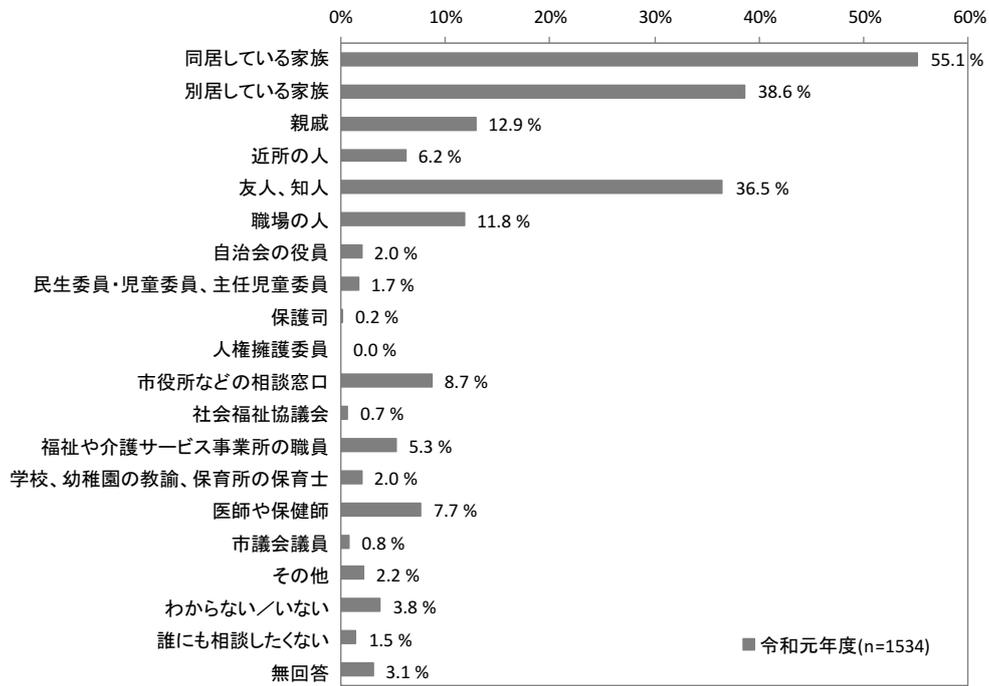
- ・ 日常生活における問題や不安なことについては、「自分や家族の老後に関すること」が42.0%で最も多く、「自分や家族の身体的な健康に関すること」が39.6%で次いでいます。(P44)

【図表 1.2.4.1 日常生活における問題や不安なこと】



- 日常生活の問題や不安なことについての相談先については、「同居している家族」が55.1%で最も多く、「別居している家族」が38.6%で次いでいます。平成26年度調査と比較すると、「同居している家族」が約12ポイント減少しています。(P45)

【図表 1.2.4.2 日常生活の問題や不安なことについての相談相手】



(5) 地域での生活について

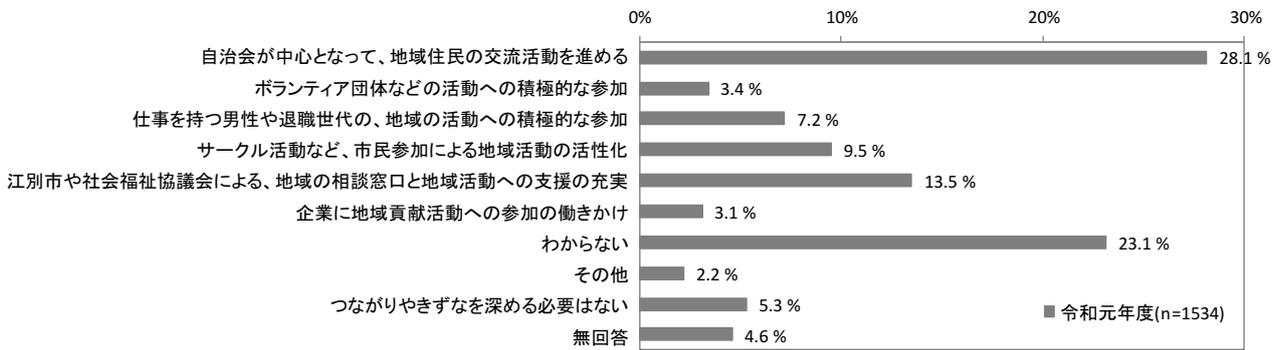
- 誰が中心になって取り組むべきかについては、行政が中心になって取り組むべき（「行政」、「どちらかといえば行政」の合計）の上位3は「災害時の救援体制の整備」（85.1%）、「失業や病気時などの経済支援（貸付金など）」（83.3%）、「日常生活全般から医療や介護についての相談」（76.7%）となっています。一方、住民が中心になって取り組むべき（「住民」、「どちらかといえば住民」の合計）の上位3は「趣味活動など余暇を過ごす活動への参加」（47.0%）、「声かけや安否確認」（45.3%）、「経験や知識などを活かしたボランティア活動への参加」（38.7%）となっています。（P47）

【図表 1.2.5.1 誰が中心になって取り組むべきか】



- ・ 地域で生活するうえで住民同士のつながりやきずなを深めるために必要なことについては、「自治会が中心となって、地域住民の交流活動を進める」が28.1%で最も多くなっています。(P48)

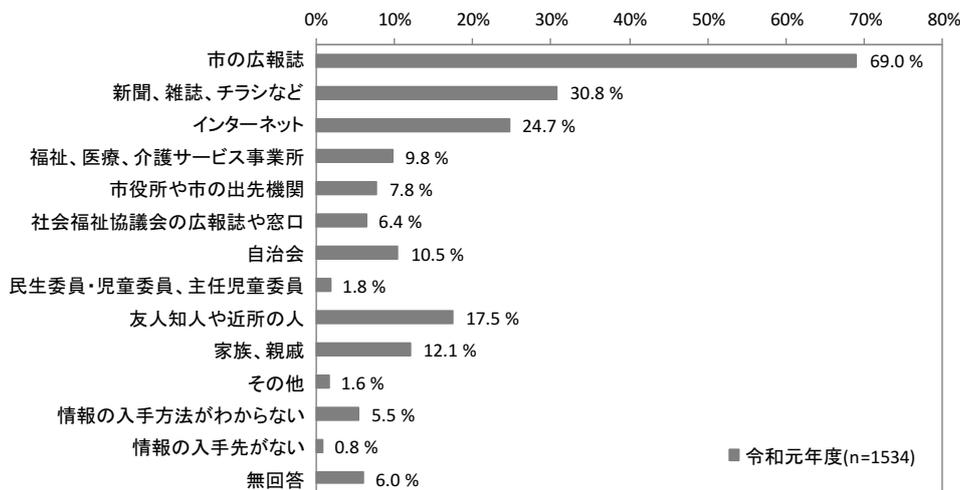
【図表 1.2.5.2 住民同士のつながりやきずなを深めるために必要なこと】



(6) 福祉行政について

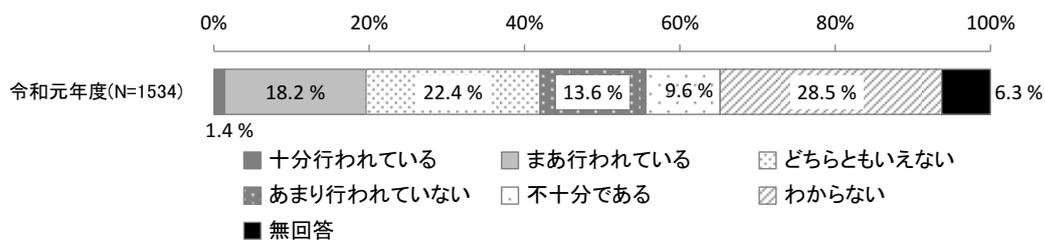
- ・ 福祉全般に係るサービスなどの情報の入手方法については、「市の広報誌」が69.0%で最も多く、「新聞、雑誌、チラシなど」が30.8%で次いでいます。(P50)

【図表 1.2.6.1 福祉全般に係るサービスなどの情報の入手方法】



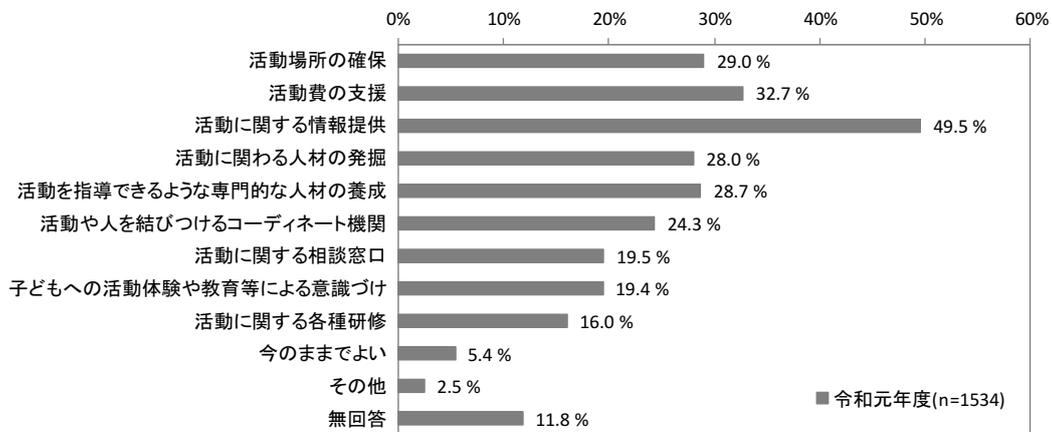
- ・ 江別市では、市と住民が一体となり、協力してまちぐるみの福祉活動が行われていると思うかについては、「わからない」が28.5%で最も多く、「行われている」（「十分行われている」、「まあ行われている」の合計）との回答は2割弱となっています。(P51)

【図表 1.2.6.2 まちぐるみの福祉活動に関する評価】



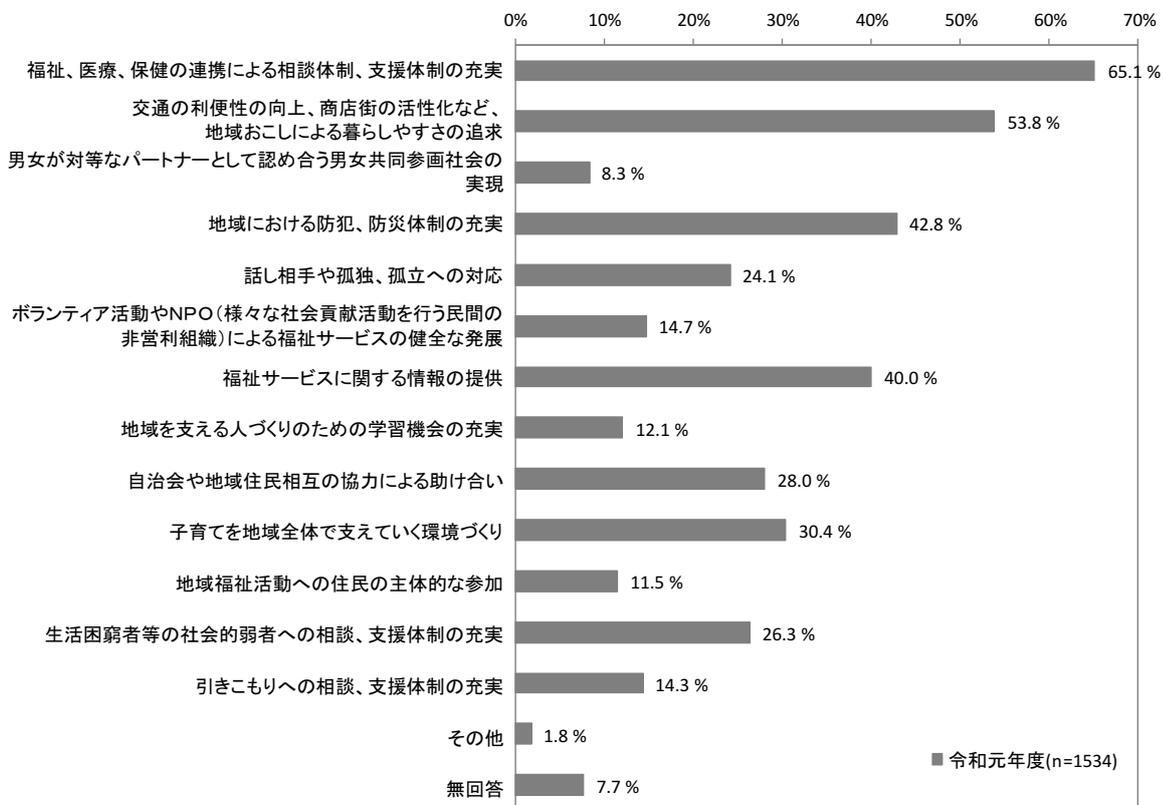
- 今後、地域共生社会を目指していくうえで、地域活動を活性化するために力を入れるべきことについては、「活動に関する情報提供」が49.5%で最も多く、「活動費の支援」が32.7%で次いでいます。(P52)

【図表 1.2.6.3 地域活動を活発にするために力を入れるべきと思うこと】



- 住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切なことについては、「福祉、医療、保健の連携による相談体制、支援体制の充実」が65.1%で最も多く、「交通の利便性の向上、商店街の活性化など、地域おこしによる暮らしやすさの追求」が53.8%で次いでいます。(P54)

【図表 1.2.6.4 住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切なこと】



2 調査結果

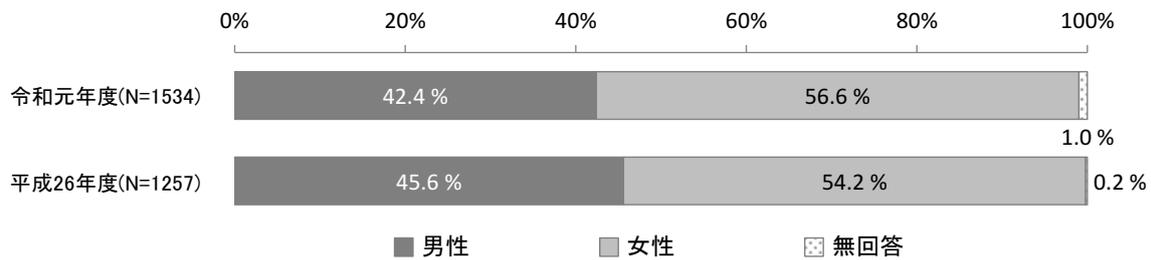
2.1 属性

問1 性別、年齢

あなたの性別、年齢をお答えください。(単数回答)

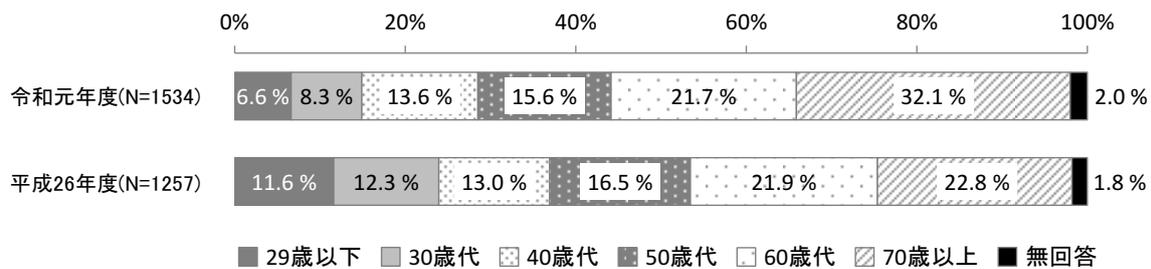
- ・性別については、「男性」が42.4%、「女性」が56.6%となっています。

【図表 2.1.1 性別】



- ・年齢については、「70歳以上」が32.1%で最も多く、「60歳代」が21.7%で次いでおり、60歳以上で半数以上を占めています。
- ・平成26年度調査と比較すると、「70歳以上」が9ポイント増加しています。

【図表 2.1.2 年齢】

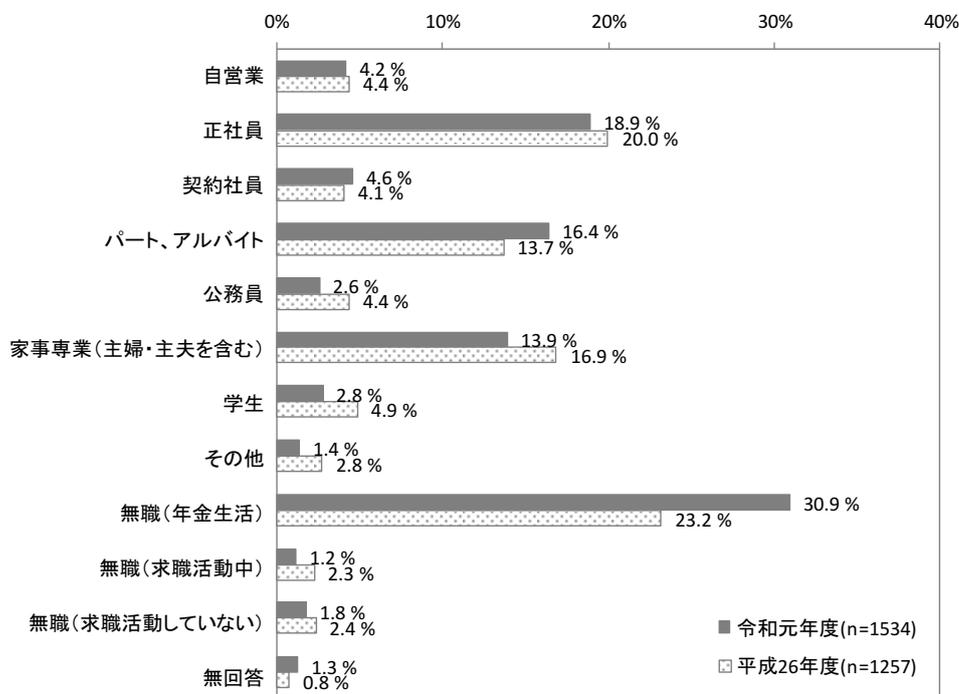


問2 就業状態、職業

あなたの就業状態、職業をお答えください。(単数回答)

- ・就業形態、職業については、「無職(年金生活)」が30.9%で最も多く、「正社員」が18.9%で次いでいます。
- ・平成26年度調査と比較すると、「無職(年金生活)」が8ポイント増加しています。
- ・男女年齢別にみると、男性では50歳代以下で「正社員」の割合が全体と比べ高くなっており、女性では30～59歳で「パート、アルバイト」の割合が全体と比べ高くなっています。また、男女ともに70歳以上の「無職(年金生活)」の割合が高く、男性では83.0%、女性では62.7%となっています。

【図表 2.1.3 就業状態、職業】



【図表 2.1.4 就業状態、職業(男女・年齢別)】

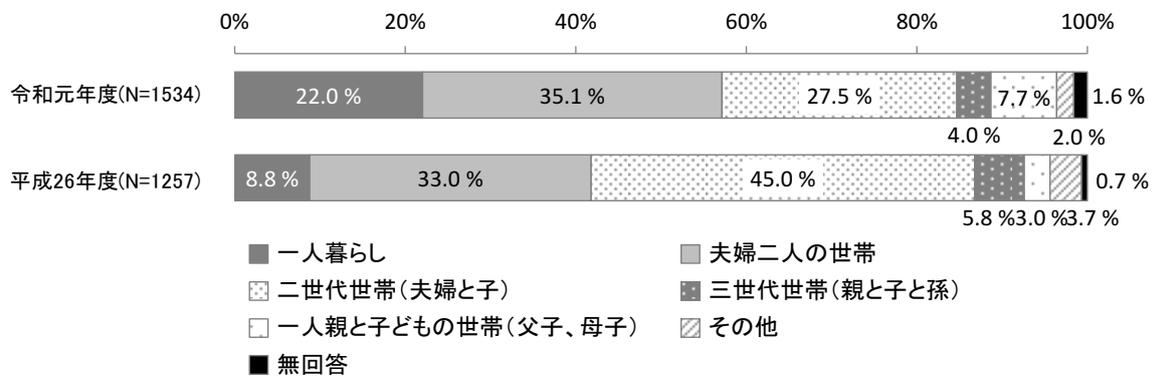
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
自営業	4.2	0.0	2.0	9.1	6.1	8.8	5.4	0.0	1.3	5.0	4.3	2.7	1.9
正社員	18.9	32.4	64.0	61.4	64.6	17.7	2.2	26.6	31.2	14.0	19.1	3.2	0.7
契約社員	4.6	10.8	4.0	6.8	2.0	12.9	3.6	6.3	5.2	6.6	5.0	2.2	0.7
パート、アルバイト	16.4	5.4	12.0	5.7	7.0	17.0	3.7	12.5	35.1	45.5	40.4	24.7	4.7
公務員	2.6	5.4	6.0	10.2	13.1	2.0	0.0	3.1	1.3	1.7	1.4	1.1	0.0
家事専業(主婦・主夫を含む)	13.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.8	19.5	21.5	21.3	31.7	26.9
学生	2.8	40.5	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	39.1	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1.4	2.7	0.0	1.1	2.0	2.7	0.4	0.0	0.0	3.3	2.1	1.1	1.1
無職(年金生活)	30.9	0.0	2.0	7.7	7.0	35.4	83.0	0.0	1.3	0.8	0.7	30.6	62.7
無職(求職活動中)	1.2	2.7	6.0	2.3	7.1	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0
無職(求職活動していない)	1.8	0.0	2.0	2.3	2.0	2.7	1.8	0.0	2.6	1.7	2.1	2.7	1.1
無回答	1.3	0.0	0.0	0.0	1.0	0.7	0.4	1.6	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7

問3 家族構成

あなたが一緒に暮らしているご家族（世帯）の構成についてお答えください。（単数回答）

- ・家族構成については、「夫婦二人の世帯」が35.1%で最も多く、「二世帯世帯（夫婦と子）」が27.5%で次いでいます。
- ・平成26年度調査と比較すると、「一人暮らし」が13ポイント増加、一方、「二世帯世帯（夫婦と子）」が18ポイント減少しています。
- ・男女年齢別にみると、男性では60歳以上で「夫婦二人の世帯」の割合が全体と比べ高くなっており、女性では70歳以上で「一人暮らし」の割合が全体と比べ高くなっています。また、男女ともに40歳代以下では「二世帯世帯（夫婦と子）」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.1.5 家族構成】



【図表 2.1.6 家族構成（男女・年齢別）】

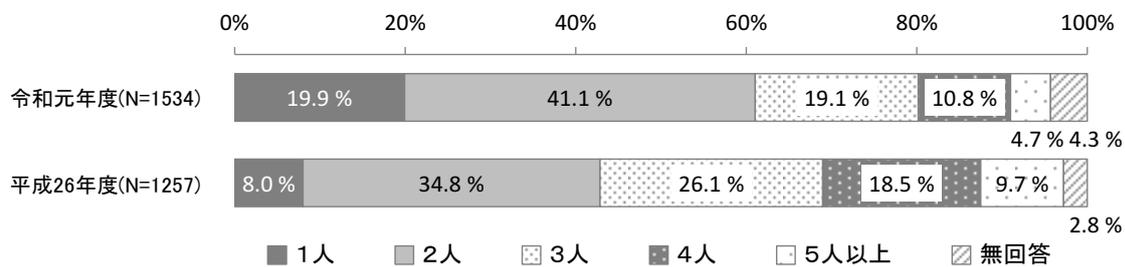
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
一人暮らし	22.0	40.5	18.0	17.4	20.2	19.7	25.0	17.2	7.8	6.6	13.5	23.7	38.8
夫婦二人の世帯	35.1	8.7	6.0	10.2	30.3	49.0	58.0	6.3	11.7	14.9	38.3	50.5	40.7
二世帯世帯(夫婦と子)	27.5	37.8	64.0	60.2	35.4	21.1	10.7	39.1	59.7	53.7	30.5	12.9	10.7
三世帯世帯(親と子と孫)	4.0	0.0	6.0	3.4	2.0	2.0	1.3	10.9	10.4	7.4	4.3	3.2	4.5
ひとり親と子どもの世帯(父子、母子)	7.7	10.8	2.0	11.4	11.1	4.1	2.2	15.6	9.1	15.7	11.3	8.6	3.7
その他	2.0	0.0	2.0	3.4	1.0	3.4	1.3	7.8	1.3	1.7	2.1	1.1	1.1
無回答	1.6	2.7	2.0	0.0	0.0	0.7	1.3	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1

問4 世帯人数

あなたの世帯人数をご記入ください。(単数回答)

- ・世帯人数については、「2人」が41.1%で最も多く、「1人」が19.9%で次いでいます。
- ・平成26年度調査と比較すると、「1人」は12ポイント増加、一方、「4人」は8ポイント減少しています。
- ・男女年齢別にみると、男性では30～49歳で「3人」及び「4人」、60歳代以上は「2人」の割合が全体と比べ高くなっており、女性では40歳代以下で「4人」の割合が全体と比べ高くなっています。また、女性の70歳以上の「1人」の割合が全体と比べ高く、32.8%となっています。

【図表 2.1.7 世帯人数】



【図表 2.1.8 世帯人数（男女・年齢別）】

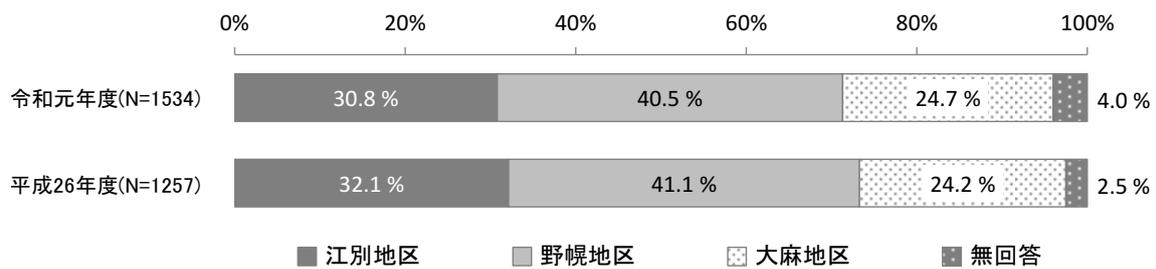
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
1人	19.9	37.8	16.0	13.6	20.2	18.4	21.4	18.8	6.5	5.8	13.5	22.0	32.8
2人	41.1	10.8	10.0	17.0	41.4	54.4	62.5	27.9	16.9	22.3	47.5	57.0	42.5
3人	19.1	13.5	42.0	36.4	24.2	20.4	7.6	15.6	28.6	29.8	27.7	11.8	11.2
4人	10.8	18.9	24.0	22.7	12.1	4.7	2.2	28.1	31.2	28.9	7.8	4.3	2.6
5人以上	4.7	13.5	4.0	10.2	2.0	1.4	2.7	12.5	15.6	12.4	1.4	1.6	2.2
無回答	4.3	5.4	4.0	0.0	0.0	1.4	3.6	3.1	1.3	0.8	2.1	3.2	8.6

問5 居住地区

あなたのお住まいの住所をご記入ください。(単数回答)

- ・居住地区については、「野幌地区」が40.5%、「江別地区」が30.8%、「大麻地区」が24.7%となっています。
- ・男女年齢別にみると、「野幌地区」では男性30歳代、女性50歳代の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.1.9 居住地区】



【図表 2.1.10 居住地区（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
江別地区	30.8	32.4	22.0	37.5	33.3	35.4	30.4	34.4	29.9	33.9	31.2	33.9	24.6
野幌地区	40.5	37.8	46.0	42.0	42.4	41.5	37.5	43.8	42.9	33.9	46.1	41.9	42.2
大麻地区	24.7	21.6	28.0	19.3	21.2	22.4	29.5	17.2	24.7	29.8	20.6	21.5	31.0
無回答	4.0	8.1	4.0	1.1	3.0	0.7	2.7	4.7	2.6	2.5	2.1	2.7	2.2

【図表 2.1.11 居住地区（同居家族別）】

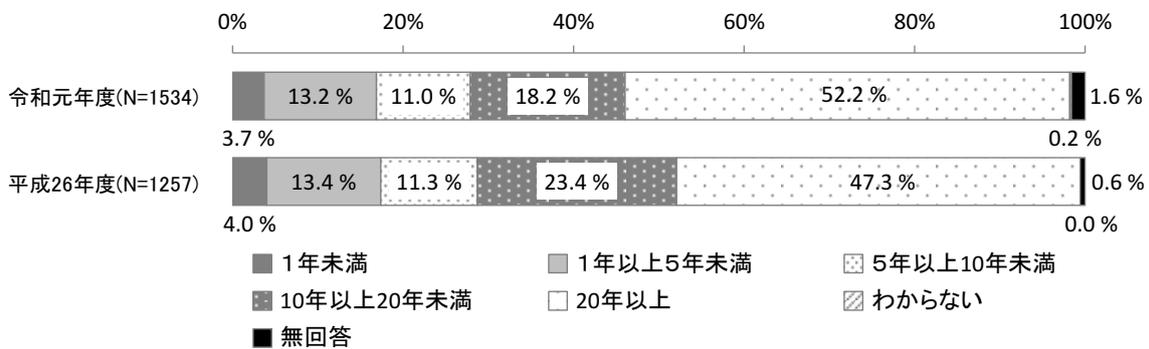
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	家族構成					
		一人暮らし	夫婦二人の世帯	二世帯世帯(夫婦と子)	三世帯世帯(親と子と孫)	ひとり親と子どもの世帯(父子、母子)	その他
回答者数(人)	1534	338	539	422	62	118	30
江別地区	30.8	30.5	33.8	30.1	22.6	32.2	16.7
野幌地区	40.5	39.6	41.4	40.8	45.2	39.0	50.0
大麻地区	24.7	27.8	22.3	26.5	27.4	22.0	33.3
無回答	4.0	2.1	2.6	2.6	4.8	6.8	0.0

問6 居住年数

問5で記載された住所での居住年数をお答えください。(単数回答)

- ・居住年数については、「20年以上」が52.2%で最も多く、「10年以上20年未満」が18.2%で次いでおり、10年以上で7割以上を占めています。
- ・平成26年度調査と比較すると、「10年以上20年未満」「20年以上」は各々5ポイント増加しています。
- ・男女年齢別にみると、年代が高いほどおおむね居住年数が長くなっています。男女ともに60歳以上では「20年以上」の割合が全体と比べ高くなっており、6割を超えています。

【図表 2.1.12 居住年数】



【図表 2.1.13 居住年数（男女・年齢別）】

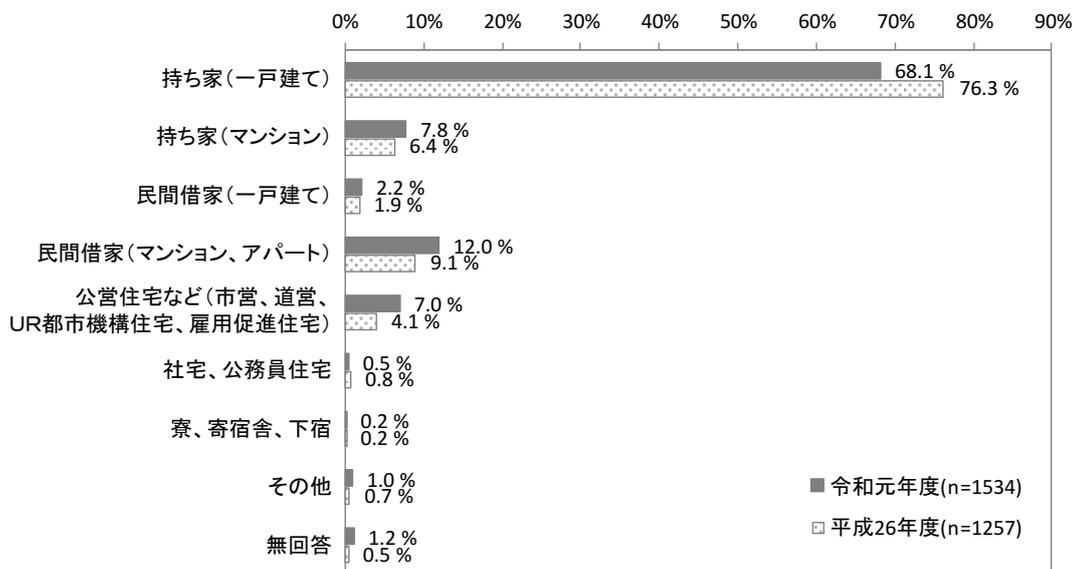
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
1年未満	3.7	5.4	10.0	2.3	3.0	2.7	2.2	21.9	9.1	1.7	4.3	1.6	1.1
1年以上5年未満	13.2	35.1	42.0	23.9	8.1	9.5	4.9	21.9	53.2	14.9	6.4	7.5	6.0
5年以上10年未満	11.0	2.7	18.0	21.6	10.1	9.5	4.9	6.3	23.4	24.8	12.1	8.6	6.3
10年以上20年未満	18.2	21.6	10.0	34.1	37.4	12.9	10.7	23.4	9.1	38.8	21.3	10.8	12.3
20年以上	52.2	32.4	18.0	17.0	40.4	64.6	76.8	23.4	5.2	18.2	56.0	71.5	73.1
わからない	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	1.6	2.7	2.0	1.1	1.0	0.0	0.0	1.6	0.0	1.7	0.0	0.0	1.1

問7 住まい

あなた（あなたのご家族）のお住まいについてお答えください。（単数回答）

- ・住まいについては、「持ち家（一戸建て）」が68.1%で最も多くなっています。
- ・平成26年度調査と比較すると、「持ち家（一戸建て）」は8ポイント減少しています。
- ・男女年齢別にみると、男性では「民間借家（マンション、アパート）」が30歳代以下で30%前後、女性では「民間借家（マンション、アパート）」が29歳以下で35.9%、30歳代で28.6%と全体と比べ高くなっています。

【図表 2.1.14 住まい】



【図表 2.1.15 住まい（男女・年齢別）】

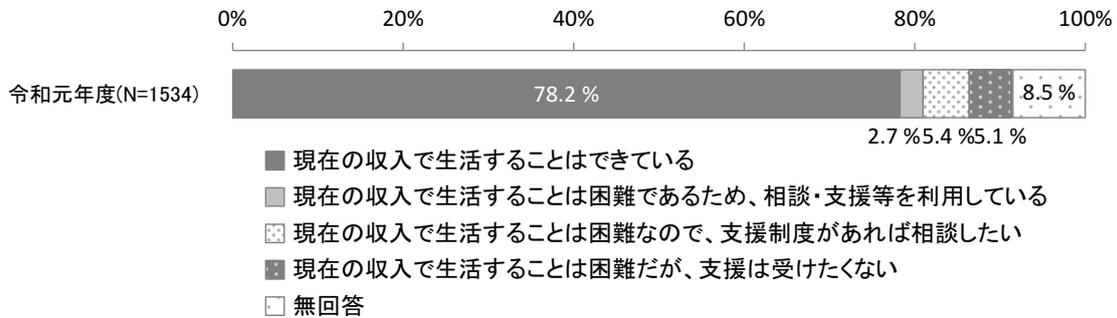
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
持ち家(一戸建て)	68.1	57.4	54.0	67.0	73.7	72.1	76.3	50.0	61.0	70.2	70.9	68.8	67.9
持ち家(マンション)	7.8	2.7	0.0	3.4	9.1	10.9	8.5	7.8	1.3	4.1	7.1	13.4	9.7
民間借家(一戸建て)	2.2	0.0	6.0	3.4	1.0	2.7	1.3	0.0	2.6	3.3	2.8	0.5	3.0
民間借家(マンション、アパート)	12.0	32.4	28.0	19.3	11.1	9.5	6.7	35.9	28.6	14.0	12.8	7.0	3.0
公営住宅など (市営、道営、UR都市機構住宅、 雇用促進住宅)	7.0	2.7	6.0	5.7	4.0	4.8	4.9	1.6	2.6	6.6	6.4	9.7	13.4
社宅、公務員住宅	0.5	0.0	2.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.6	2.6	0.0	0.0	0.5	0.4
寮、寄宿舎、下宿	0.2	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1.0	0.0	2.0	1.1	0.0	0.0	2.2	0.0	1.3	0.8	0.0	0.0	2.2
無回答	1.2	5.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.8	0.0	0.0	0.4

問8 世帯の家計の状況

世帯の家計状況についてお答えください。(単数回答)

- ・世帯の家計の状況については、「現在の収入で生活することはできている」が78.2%となっています。「現在の収入で生活することは困難」(「現在の収入で生活することは困難であるため、相談・支援等を利用している」、「現在の収入で生活することは困難なので、支援制度があれば相談したい」、「現在の収入で生活することは困難だが、支援は受けたくない」の合計)の回答者は、13.2%となっています。
- ・男女年齢別にみると、「現在の収入で生活することはできている」では、男性の50～69歳の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.1.16 世帯の家計の状況】



【図表 2.1.17 世帯の家計の状況 (男女・年齢別)】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
現在の収入で生活することはできている	78.2	81.1	82.0	78.4	84.8	87.1	79.5	78.1	64.9	81.0	78.0	80.1	72.8
現在の収入で生活することは困難であるため、相談・支援等を利用している	2.7	8.1	2.0	4.5	2.0	1.4	0.9	4.7	6.5	5.8	2.1	2.7	1.9
現在の収入で生活することは困難なので、支援制度があれば相談したい	5.4	2.7	8.0	6.8	5.1	1.4	9.4	1.6	6.5	3.3	7.8	3.8	5.6
現在の収入で生活することは困難だが、支援は受けたくない	5.1	0.0	0.0	4.5	5.1	6.1	6.7	1.6	3.9	0.8	5.7	3.8	9.3
無回答	8.5	8.1	8.0	5.7	3.0	4.1	3.6	14.1	18.2	9.1	6.4	9.7	10.4

- ・同居家族別にみると、“夫婦二人の世帯”では「現在の収入で生活することはできている」の割合が全体と比べ高くなっています。また、“三世代世帯（親と子と孫）”及び“一人親と子どもの世帯（父子、母子）”では「現在の収入で生活することは困難であるため、相談・支援等を利用している」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.1.18 世帯の家計の状況（同居家族別）】

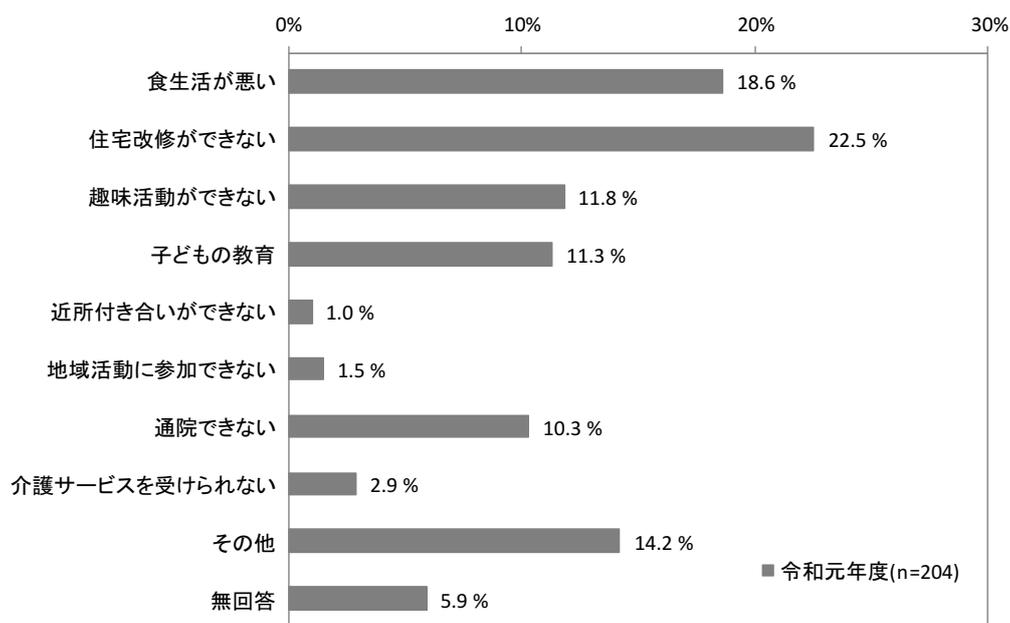
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	家族構成					
		一人暮らし	夫婦二人 の世帯	二世代世帯 (夫婦と子)	三世代世帯 (親と子と孫)	ひとり親と 子どもの 世帯 (父子、母子)	その他
回答者数(人)	1534	338	539	422	62	118	30
現在の収入で生活することはできている	78.2	69.8	85.3	81.8	72.6	69.5	76.7
現在の収入で生活することは困難であるため、 相談・支援等を利用している	2.7	5.6	0.2	1.4	8.1	9.3	0.0
現在の収入で生活することは困難なので、 支援制度があれば相談したい	5.4	6.2	4.6	5.9	4.8	4.2	10.0
現在の収入で生活することは困難だが、 支援は受けたくない	5.1	9.8	4.1	2.1	4.8	8.5	3.3
無回答	8.5	8.6	5.8	8.8	9.7	8.5	10.0

問9 収入が少ないことによる影響

問8で、「2～4（現在の収入で生活することは困難）」を選んだ方
収入が少ないことで、最も悪い影響を及ぼしていることは何ですか。（単数回答）

- ・収入が少ないことによる影響について、「現在の収入で生活することは困難」との回答者が、最も悪い影響と回答したのは、「住宅改修ができない」が22.5%で最も多く、「食生活が悪い」が18.6%で次いでいます。

【図表 2.1.19 収入が少ないことによる影響】

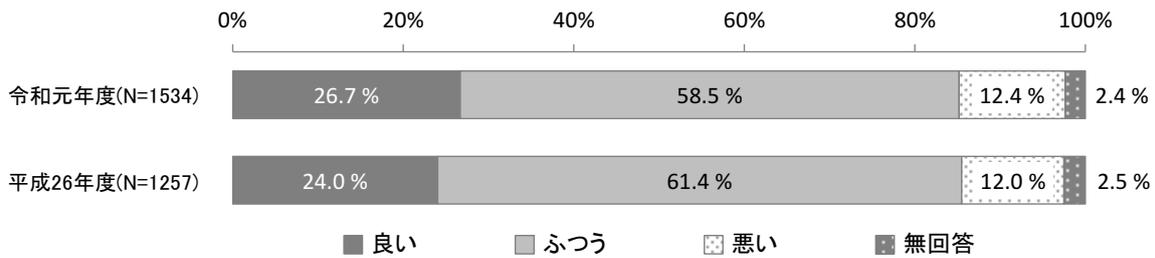


問 10 健康状態

現在の健康状態はいかがですか。(単数回答)

- ・健康状態については、「ふつう」が 58.5%で最も多くなっています。
- ・男女年齢別にみると男女ともに 40 歳代以下では「良い」の割合が全体と比べ高くなっており、反対に 70 歳以上では低くなっています。

【図表 2.1.20 健康状態】



【図表 2.1.21 健康状態（男女・年齢別）】

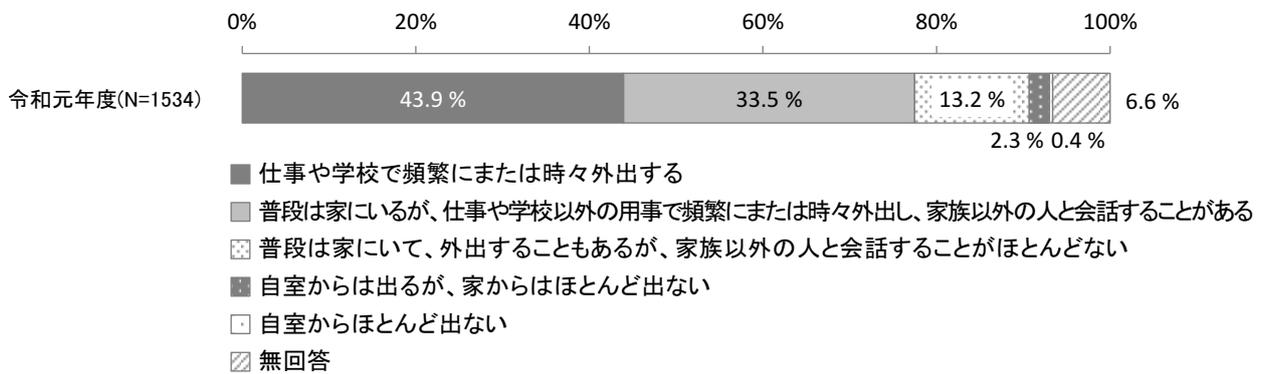
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
良い	26.7	54.1	60.0	40.9	30.3	22.4	14.7	56.3	45.5	38.0	24.8	20.4	12.3
ふつう	58.5	40.5	34.0	51.1	56.6	66.0	65.2	35.9	46.8	56.2	61.7	68.3	62.7
悪い	12.4	2.7	4.0	8.0	10.1	10.2	19.2	6.3	7.8	5.8	11.3	9.1	21.6
無回答	2.4	2.7	2.0	0.0	3.0	1.4	0.9	1.6	0.0	0.0	2.1	2.2	3.4

問 11 普段の外出の頻度

普段の外出の状況についてお答えください。(単数回答)

- ・ 普段の外出の頻度については、「仕事や学校で頻繁にまたは時々外出する」が 43.9%で最も多く、「普段は家にいるが、仕事や学校以外の用事で頻繁にまたは時々外出し、家族以外の人と会話することがある」が 33.5%で次いでいます。
- ・ 男女年齢別にみると、男女ともに 50 歳代以下では「仕事や学校で頻繁にまたは時々外出する」の割合が全体と比べ高くなっており、70 歳以上では低くなっています。

【図表 2.1.22 普段の外出の頻度】



【図表 2.1.23 普段の外出の頻度 (男女・年齢別)】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
仕事や学校で頻繁にまたは時々外出する	43.9	73.0	76.0	83.0	82.8	51.7	73.8	76.6	62.3	65.3	61.7	28.5	8.2
普段は家にいるが、仕事や学校以外の用事で頻繁にまたは時々外出し、家族以外の人と会話することがある	33.5	16.2	12.0	12.5	5.7	31.3	51.8	12.5	19.5	21.5	24.1	47.3	54.1
普段は家において、外出することもあるが、家族以外の人と会話することがほとんどない	13.2	5.4	8.0	2.3	6.1	15.0	22.8	3.7	9.1	7.4	7.8	19.4	18.7
自室からは出るが、家からはほとんど出ない	2.3	0.0	0.0	1.1	2.0	0.7	3.6	1.6	0.0	1.7	0.7	1.1	6.3
自室からほとんど出ない	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.1
無回答	6.6	5.4	4.0	1.1	4.0	7.4	7.1	6.3	9.1	4.1	5.7	3.2	11.6

- ・同居家族別にみると、“二世世代世帯（夫婦と子）”及び“一人親と子どもの世帯（父子、母子）”では「仕事や学校で頻繁にまたは時々外出する」の割合が全体と比べ高く、“夫婦二人の世帯”では「普段は家にいるが、仕事や学校以外の用事で頻繁にまたは時々外出し、家族以外の人と会話することがある」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.1.24 普段の外出の頻度（同居家族別）】

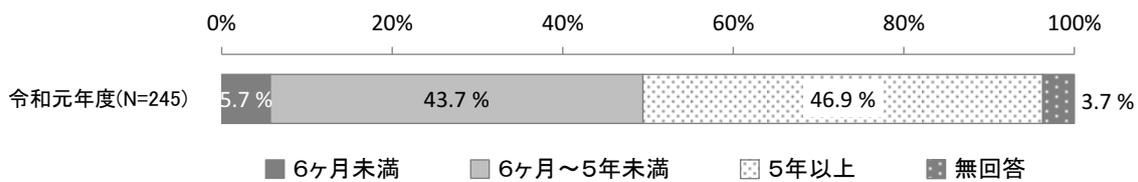
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	家族構成					
		一人暮らし	夫婦二人の世帯	二世世代世帯 (夫婦と子)	三世世代世帯 (親と子と孫)	ひとり親と 子どもの世帯 (父子、母子)	その他
回答者数(人)	1534	338	539	422	62	118	30
仕事や学校で頻繁にまたは時々外出する	43.9	35.8	32.8	62.6	38.7	54.2	56.7
普段は家にいるが、仕事や学校以外の用事で頻繁にまたは時々外出し、家族以外の人と会話することがある	33.5	37.6	44.9	22.7	32.3	18.6	20.0
普段は家において、外出することもあるが、家族以外の人と会話することがほとんどない	13.2	13.0	16.0	8.1	21.0	16.9	6.7
自室からは出るが、家からはほとんど出ない	2.3	4.7	0.7	1.4	3.2	5.9	3.3
自室からほとんど出ない	0.4	0.9	0.0	0.0	1.6	0.0	6.7
無回答	6.6	8.0	5.6	5.2	3.2	4.2	6.7

問 12 外出頻度が低い状況の継続期間

問 11 で、「3～5」を選んだ方
現在の状態となってどれくらい経ちますか。(単数回答)

- ・外出頻度が低い状況「ほとんど外出しない」との回答者の継続期間については、「5年以上」が46.9%と最も多く、「6ヶ月～5年未満」が43.7%で次いでいます。
- ・男女年齢別にみると、70歳以上の男性の「5年以上」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.1.25 外出頻度が低い状況の継続期間】



【図表 2.1.26 外出頻度が低い状況の継続期間（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	245	2	4	3	8	23	61	3	7	11	12	39	70
6ヶ月未満	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.4	3.3	33.3	0.0	18.2	0.0	10.3	1.4
6ヶ月～5年未満	43.7	100.0	50.0	33.3	62.5	39.1	34.4	66.7	71.4	36.4	41.7	43.6	48.6
5年以上	46.9	0.0	50.0	33.3	37.5	43.5	59.0	0.0	14.3	45.5	58.3	46.2	42.9
無回答	3.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	3.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	7.1

- ・同居家族別にみると、“二世帯世帯（夫婦と子）”について「5年以上」の割合が全体と比べ高く、一方で“一人暮らし”では「6ヶ月～5年未満」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.1.27 外出頻度が低い状況の継続期間（同居家族別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	家族構成					
		一人暮らし	夫婦二人の世帯	二世帯世帯(夫婦と子)	三世帯世帯(親と子と孫)	ひとり親と子どもの世帯(父子、母子)	その他
回答者数(人)	245	63	90	40	16	27	5
6ヶ月未満	5.7	6.3	5.6	2.5	12.5	7.4	0.0
6ヶ月～5年未満	43.7	50.8	41.1	37.5	50.0	33.3	80.0
5年以上	46.9	34.9	51.1	57.5	31.3	59.3	20.0
無回答	3.7	7.9	2.2	2.5	6.3	0.0	0.0

・“6ヶ月以上外出頻度が低い人”を全体と比較してみると、就業状態では「無職（年金生活）」、居住年数では「20年以上」の割合が高くなっています。

※“6ヶ月以上外出頻度が低い人”は、問11で「普段は家において、外出することもあるが、家族以外の人と会話することがほとんどない」もしくは「自室からは出るが、家からはほとんど出ない」もしくは「自室からほとんど出ない」と回答した人の中で、問12で現在の状況が「6ヶ月以上」経過していると回答した人を意味しています。

【図表 2.1.28 性別、就業状態、家族構成等（6ヶ月以上外出頻度が低い人・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	6ヶ月以上外出頻度が低い人/年齢						
		6ヶ月以上 外出頻度が低い人 /全体	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	
回答者数(人)	1534	222	4	10	11	20	175	
性別	男性	42.4	41.4	50.0	40.0	18.2	40.0	43.4
	女性	56.6	58.6	50.0	60.0	81.8	60.0	56.6
	無回答	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就業 状態、 職業	自営業	4.2	1.4	0.0	0.0	0.0	5.0	1.1
	正社員	18.9	2.3	0.0	20.0	0.0	10.0	0.6
	契約社員	4.6	0.9	0.0	0.0	9.1	0.0	0.6
	パート、アルバイト	16.4	2.7	0.0	0.0	18.2	5.0	1.7
	公務員	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	家事専業(主婦・主夫を含む)	13.9	21.6	25.0	40.0	45.5	30.0	17.1
	学生	2.8	0.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	1.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
	無職(年金生活)	30.9	58.6	0.0	0.0	9.1	5.0	73.1
	無職(求職活動中)	1.2	4.1	50.0	10.0	0.0	30.0	0.0
	無職(求職活動していない)	1.8	7.2	0.0	30.0	18.2	15.0	4.6
	無回答	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族 構成	一人暮らし	22.0	24.3	25.0	0.0	0.0	10.0	29.1
	夫婦二人の世帯	35.1	37.4	0.0	20.0	9.1	30.0	42.3
	二世帯世帯(夫婦と子)	27.5	7.7	0.0	60.0	45.5	45.0	9.7
	三世帯世帯(親と子と孫)	4.0	5.9	25.0	10.0	0.0	0.0	6.3
	ひとり親と子どもの世帯(父子、母子)	7.7	11.3	0.0	10.0	45.5	15.0	8.6
	その他	2.0	2.3	25.0	0.0	0.0	0.0	2.3
	無回答	1.6	1.8	25.0	0.0	0.0	0.0	1.7
地居 区住	江別地区	30.8	29.3	25.0	30.0	36.4	25.0	29.7
	野幌地区	40.5	40.5	25.0	30.0	54.5	35.0	41.1
	大麻地区	24.7	27.5	25.0	40.0	9.1	35.0	27.4
	無回答	4.0	2.7	25.0	0.0	0.0	5.0	1.7
居住 年数	1年未満	3.7	2.7	25.0	0.0	0.0	0.0	2.9
	1年以上5年未満	13.2	14.0	25.0	60.0	27.3	5.0	10.9
	5年以上10年未満	11.0	11.7	0.0	20.0	27.3	10.0	10.9
	10年以上20年未満	18.2	13.7	25.0	10.0	18.2	35.0	10.3
	20年以上	52.2	58.1	25.0	10.0	27.3	50.0	64.6
	わからない	0.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
	無回答	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
住ま い	持ち家(一戸建て)	68.1	65.3	25.0	40.0	63.6	60.0	68.0
	持ち家(マンション)	7.8	7.7	0.0	0.0	0.0	10.0	8.6
	民間借家(一戸建て)	2.2	1.4	0.0	0.0	0.0	5.0	1.1
	民間借家(マンション、アパート)	12.0	14.0	50.0	50.0	27.3	5.0	11.4
	公営住宅など	7.0	8.6	0.0	10.0	9.1	20.0	7.4
	社宅、公務員住宅	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	寮、寄宿舎、下宿	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	1.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4
	無回答	1.2	0.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※6ヶ月以上外出頻度が低い人/全体のみ、全体との差を比較しています。

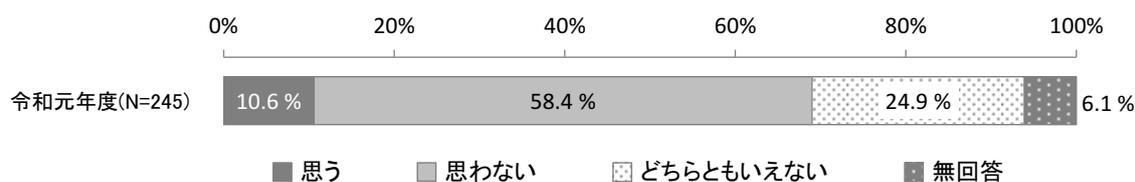
問 13 外出頻度が低い状況の相談意向

問 11 で、「3～5」を選んだ方

現在の状態について関係機関に相談したいと思いますか。(単数回答)

- ・外出頻度が低い状況の相談意向について、「ほとんど外出しない」との回答者が現在の状態について関係機関に相談したいと思うかの回答としては、「思わない」が 58.4%で最も多く、「どちらともいえない」が 24.9%で次いでいます。
- ・男女年齢別にみると、60歳代の女性の「思わない」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.1.29 外出頻度が低い状況の相談意向】



【図表 2.1.30 外出頻度が低い状況の相談意向（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	245	2	4	3	8	23	61	3	7	11	12	39	70
思う	10.6	50.0	25.0	66.7	25.0	4.3	3.3	0.0	0.0	9.1	16.7	2.6	18.6
思わない	58.4	0.0	75.0	0.0	37.5	69.6	60.7	100.0	28.6	72.7	58.3	74.4	48.6
どちらともいえない	24.9	50.0	0.0	0.0	25.0	21.7	32.8	0.0	42.9	9.1	16.7	20.5	25.7
無回答	6.1	0.0	0.0	33.3	12.5	4.3	3.3	0.0	28.6	9.1	8.3	2.6	7.1

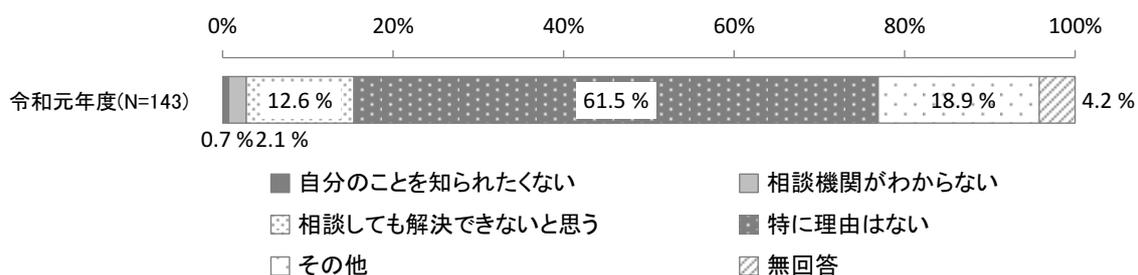
問 14 相談したいと思わない理由

問 13 で、「2」を選んだ方

相談したいと思わない理由は何ですか。(単数回答)

- ・相談したいと思わない理由について、「ほとんど外出しない」との回答者が、現在の状況について関係機関に相談したいと思わない理由については、「特に理由はない」が 61.5%で最も多くなっています。「その他」には、“特に困っていない/不自由を感じていない”といった理由が散見されました。

【図表 2.1.31 相談したいと思わない理由】



【図表 2.1.32 相談したいと思わない理由（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	143	-	3	-	3	16	37	3	2	8	7	29	34
自分を知られたくない	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
相談機関がわからない	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相談しても解決できないと思う	12.6	0.0	33.3	0.0	33.3	6.3	10.8	0.0	50.0	25.0	42.9	6.9	8.8
特に理由はない	61.5	0.0	66.7	0.0	66.7	87.5	64.9	66.7	0.0	25.0	28.6	75.9	50.0
その他	18.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.2	33.3	0.0	37.5	28.6	10.3	35.3
無回答	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	5.9

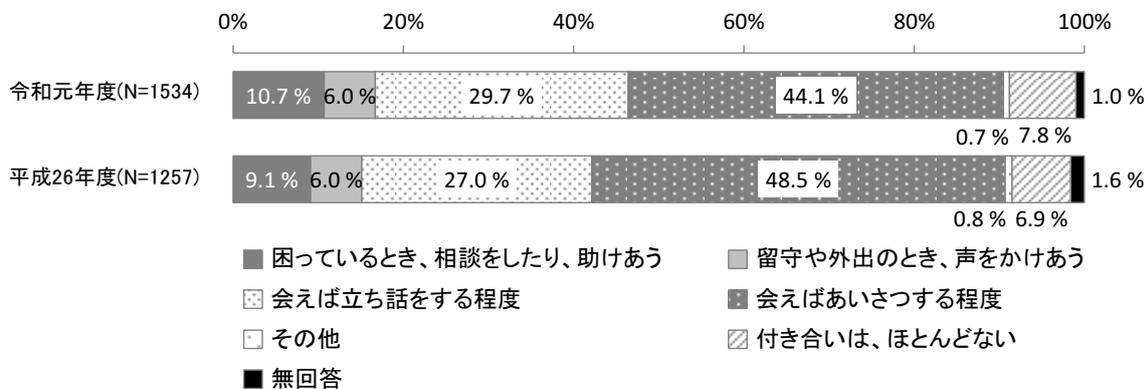
2.2 近所付き合いについて

問 15 近所の人との付き合い方

あなたは日頃、近所の人とどのような付き合いをしていますか。(単数回答)

- ・近所の人との付き合い方については、「会えばあいさつする程度」が44.1%で最も多く、「会えば立ち話をする程度」が29.7%で次いでいます。
- ・男女年齢別にみると、男性では40歳代以下、女性では30歳代以下で「会えばあいさつする程度」が全体と比べ高くなっています。また、男女ともに70歳以上では「会えば立ち話をする程度」が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.2.1 近所の人との付き合い方】



【図表 2.2.2 近所の人との付き合い方（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
困っているとき、相談をしたり、助けあう	10.7	0.0	4.0	4.5	4.0	7.5	11.2	4.7	6.5	14.0	12.1	16.1	15.3
留守や外出のとき、声をかけあう	6.0	0.0	2.0	2.3	6.1	7.5	7.1	3.1	1.3	2.5	2.8	5.9	11.2
会えば立ち話をする程度	29.7	2.7	12.0	17.0	26.3	31.3	41.5	7.8	13.0	26.4	27.7	37.1	41.0
会えばあいさつする程度	44.1	64.9	64.0	63.6	53.5	49.0	32.6	62.5	64.9	49.6	51.1	36.0	23.5
その他	0.7	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	1.8	1.6	0.0	0.0	0.0	0.5	0.7
付き合いは、ほとんどない	7.8	32.4	16.0	11.4	9.1	4.8	4.0	20.3	14.3	7.4	6.4	4.3	4.9
無回答	1.0	0.0	2.0	0.0	1.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4

【図表 2.2.3 近所の人との付き合い方（同居家族別）】

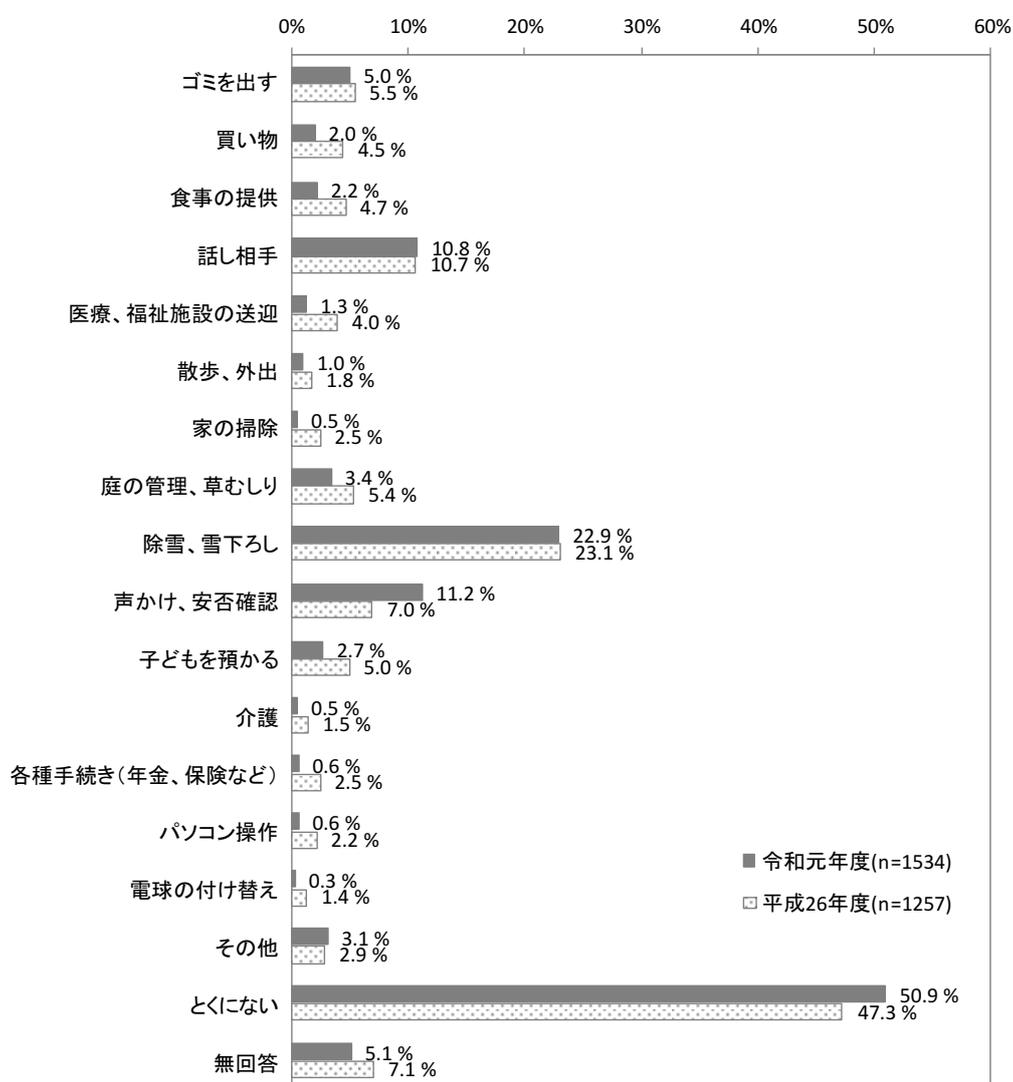
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	家族構成					
		一人暮らし	夫婦二人の世帯	二世帯世帯(夫婦と子)	三世帯世帯(親と子と孫)	ひとり親と子どもの世帯(父子、母子)	その他
回答者数(人)	1534	338	539	422	62	118	30
困っているとき、相談をしたり、助けあう	10.7	13.9	11.3	10.0	3.2	6.8	3.3
留守や外出のとき、声をかけあう	6.0	7.1	7.1	4.7	3.2	1.7	6.7
会えば立ち話をする程度	29.7	28.1	36.4	27.7	24.2	22.0	20.0
会えばあいさつする程度	44.1	35.2	39.1	50.0	64.5	57.6	53.3
その他	0.7	1.5	0.6	0.2	0.0	0.0	3.3
付き合いは、ほとんどない	7.8	13.0	4.5	6.9	3.2	11.9	13.3
無回答	1.0	1.2	1.1	0.5	1.6	0.0	0.0

問 16 手助けで感謝しているもの

あなたは、困っていたとき、近所付き合いで受けた手助けで感謝しているものはどれですか。
(複数回答)

- ・手助けで感謝しているものについては、「とくにない」(50.9%)を除くと、「除雪、雪下ろし」が22.9%で最も多くなっています。
- ・平成26年度調査と比較すると、「声かけ、安否確認」は4ポイント増加しています。
- ・男女年齢別にみると、「除雪、雪下ろし」はいずれも全体と比べ高くなっています。また、40歳代の女性の「子どもを預かる」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.2.4 手助けで感謝しているもの】



【図表 2.2.5 手助けで感謝しているもの（男女・年齢別）】

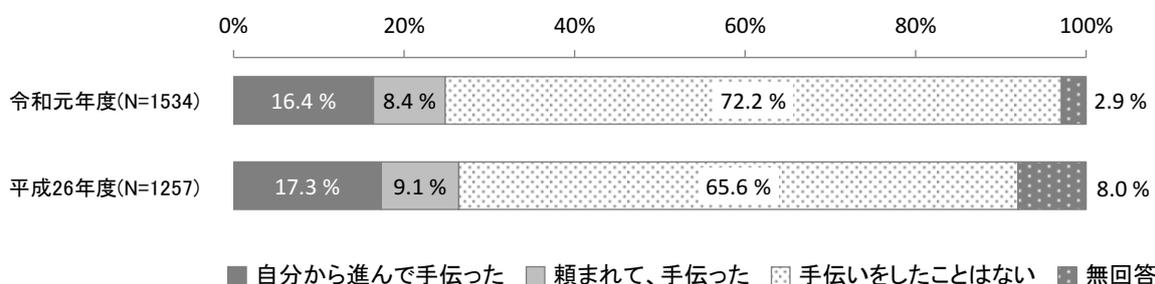
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳 以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上	29歳 以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
ゴミを出す	5.0	5.4	10.0	5.7	4.0	4.8	7.1	1.6	5.2	4.1	6.4	1.6	4.9
買い物	2.0	0.0	2.0	0.0	3.0	0.7	3.1	0.0	1.3	1.7	0.0	2.7	3.4
食事の提供	2.2	2.7	2.0	2.3	3.0	0.7	1.3	1.6	0.0	4.1	0.0	2.2	3.4
話し相手	10.8	2.7	0.0	8.0	9.1	4.8	11.2	9.4	9.1	9.1	9.9	14.0	17.2
医療、福祉施設の送迎	1.3	0.0	2.0	0.0	1.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	3.4
散歩、外出	1.0	2.7	0.0	0.0	1.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	2.1	1.1	1.5
家の掃除	0.5	2.7	0.0	1.1	1.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
庭の管理、草むしり	3.4	0.0	0.0	3.4	3.0	4.1	3.6	3.1	6.5	5.0	2.1	3.2	3.7
除雪、雪下ろし	22.9	21.6	26.0	27.3	30.3	18.4	17.9	25.0	28.6	33.1	25.5	18.8	19.4
声かけ、安否確認	11.2	5.4	8.0	5.7	13.1	6.1	10.7	3.1	14.3	9.9	10.6	14.5	15.7
子どもを預かる	2.7	0.0	2.0	3.4	4.0	0.0	0.9	0.0	3.9	13.2	5.7	1.6	0.4
介護	0.5	2.7	0.0	0.0	1.0	0.7	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
各種手続き(年金、保険など)	0.6	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.4	0.0	1.3	0.8	0.7	0.0	1.1
パソコン操作	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.1
電球の付け替え	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
その他	3.1	2.7	4.0	2.3	2.0	1.4	1.3	1.6	3.9	7.4	2.8	3.2	4.5
とくにない	50.9	70.3	54.0	56.8	45.5	61.9	55.8	62.5	44.2	46.3	53.2	51.6	39.6
無回答	5.1	0.0	2.0	1.1	5.1	4.8	8.0	3.1	0.0	0.0	0.7	5.9	11.6

問 17 近所に住んでいる高齢者等への手助けの有無

あなたは、近所に住んでいる高齢者や障がいのある方、子育てなどで困っている方に対して、手伝いをしたことがありますか。(単数回答)

- ・近所に住んでいる高齢者等への手助けの有無については、「自分から進んで手伝った」は 16.4%、「頼まれて、手伝った」は 8.4%で、手伝ったことがある人は合わせて 24.8%となっています。
- ・平成 26 年度調査と比較すると、「手伝いをしたことはない」は 7 ポイント増加しています。
- ・男女年齢別にみると、いずれも「手伝いをしたことはない」が全体と比べ高くなっています。また、29 歳以下及び 40 歳代の男性、30 歳代以下の女性については特に割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.2.6 近所に住んでいる高齢者等への手助けの有無】



【図表 2.2.7 近所に住んでいる高齢者等への手助けの有無 (男女・年齢別)】

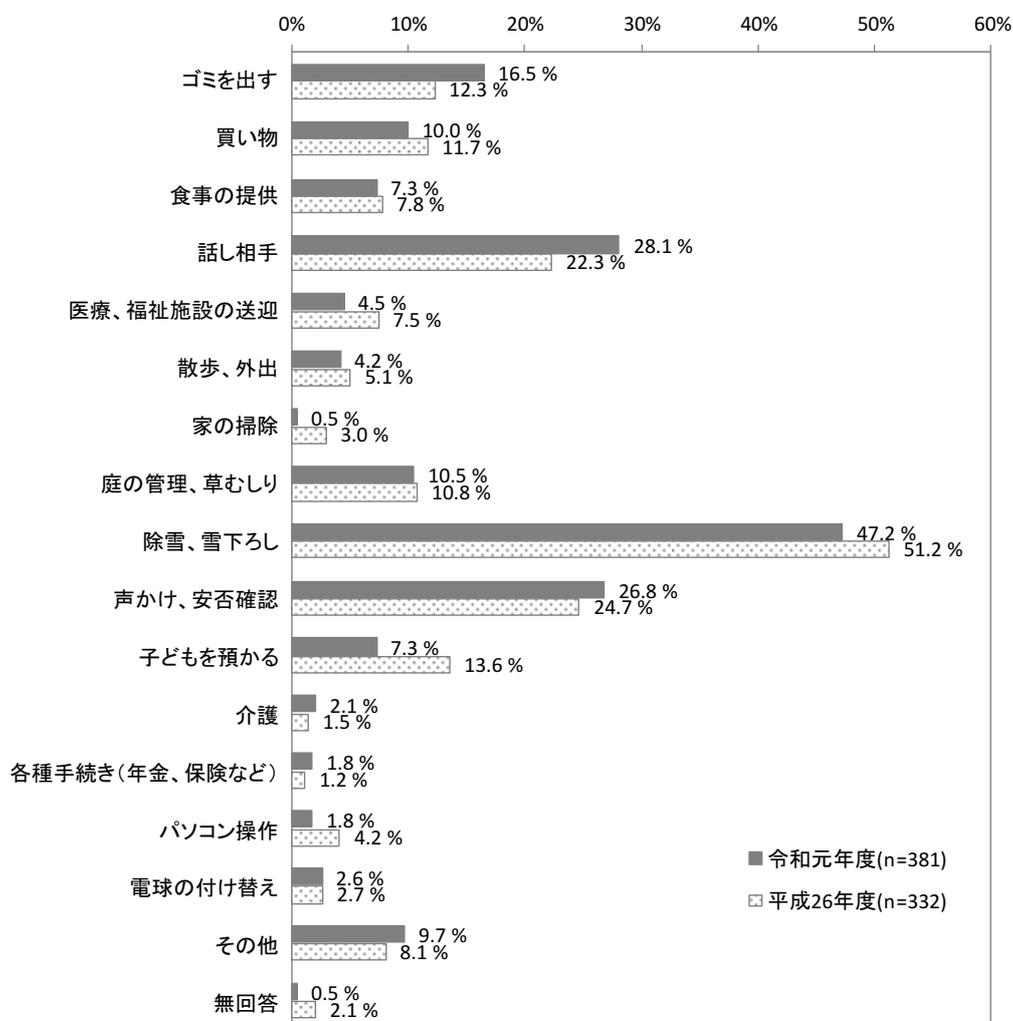
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
自分から進んで手伝った	16.4	5.4	12.0	10.2	21.2	19.7	19.2	9.4	9.1	18.2	14.2	16.1	18.7
頼まれて、手伝った	8.4	2.7	4.0	3.4	7.1	8.8	8.9	1.6	3.9	8.3	7.1	16.7	9.3
手伝いをしたことはない	72.2	91.9	78.0	86.4	70.7	67.3	67.9	89.1	87.0	73.6	78.0	66.1	64.6
無回答	2.9	0.0	6.0	0.0	1.0	4.1	4.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.1	7.5

問 18 近所の高齢者等へ手助けした内容

問 17 で、「1 または 2 (手伝った)」を選んだ方
 どのような手伝いをしたことがありましたか。(複数回答)

- ・手伝ったことがあると回答した人の、近所の高齢者等へ手助けした内容について、「除雪、雪下ろし」が 47.2% で最も多く、「話し相手」(28.1%)、「声かけ、安否確認」(26.8%) などが次いでいます。
- ・平成 26 年度調査と比較すると、「話し相手」は 6 ポイント増加しています。一方で、「子どもを預かる」は 6 ポイント減少しています。
- ・男女年齢別にみると、男性では 60 歳以上で「庭の管理、草むしり」及び「除雪、雪下ろし」の割合が、女性では 70 歳以上で「ゴミを出す」及び「話し相手」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.2.8 近所の高齢者等へ手助けした内容】



【図表 2.2.9 近所の高齢者等へ手助けした内容（男女・年齢別）】

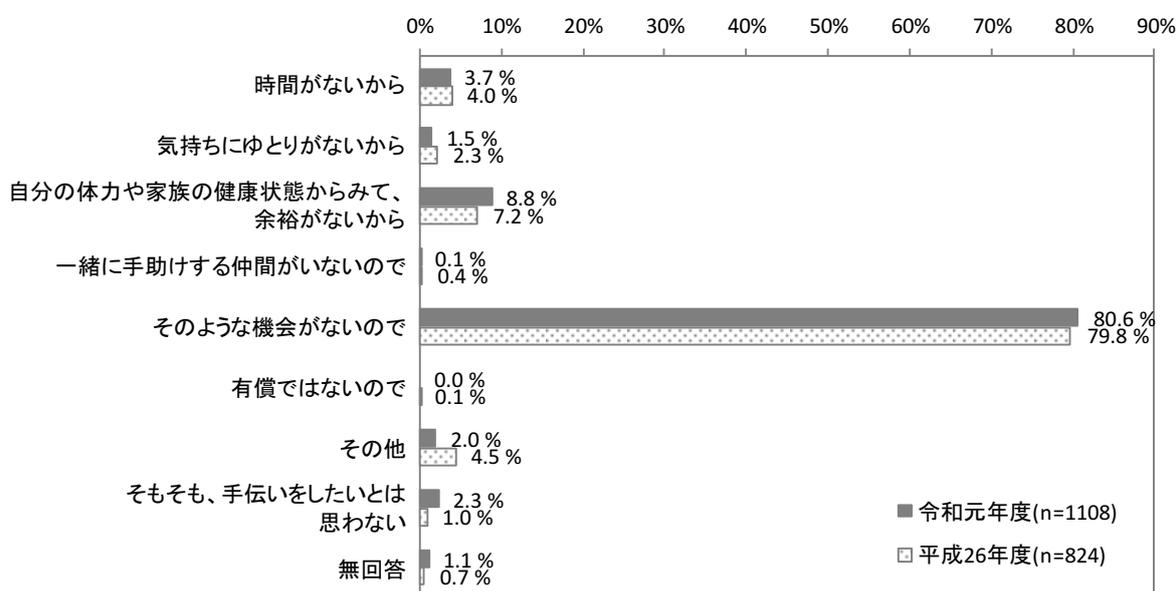
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳 以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上	29歳 以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上
回答者数(人)	381	3	8	12	28	42	63	7	10	32	30	61	75
ゴミを出す	16.5	0.0	0.0	25.0	0.0	9.5	19.0	0.0	10.0	9.4	13.3	24.6	26.7
買い物	10.0	0.0	12.5	16.7	0.0	4.8	3.2	14.3	0.0	3.1	13.3	19.7	16.0
食事の提供	7.3	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	6.3	0.0	10.0	12.5	3.3	6.6	16.0
話し相手	28.1	0.0	37.5	41.7	17.9	11.9	25.4	71.4	10.0	15.6	20.0	37.7	38.7
医療、福祉施設の送迎	4.5	0.0	0.0	0.0	3.6	4.8	4.8	0.0	10.0	6.3	3.3	4.9	5.3
散歩、外出	4.2	0.0	12.5	16.7	3.6	2.4	6.3	0.0	0.0	0.0	3.3	1.6	4.0
家の掃除	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
庭の管理、草むしり	10.5	0.0	0.0	8.3	3.6	21.4	22.2	0.0	10.0	0.0	3.3	3.3	14.7
除雪、雪下ろし	47.2	66.7	62.5	58.3	75.0	78.6	58.7	14.3	30.0	46.9	46.7	26.2	29.3
声かけ、安否確認	26.8	0.0	25.0	16.7	17.9	16.7	33.3	14.3	10.0	25.0	20.0	34.4	32.0
子どもを預かる	7.3	0.0	0.0	0.0	3.6	2.4	3.2	0.0	30.0	31.3	16.7	6.6	2.7
介護	2.1	33.3	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	5.3
各種手続き (年金、保険など)	1.8	0.0	0.0	0.0	3.6	2.4	1.6	0.0	0.0	3.1	3.3	1.6	1.3
パソコン操作	1.8	0.0	0.0	0.0	3.6	4.8	4.8	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0
電球の付け替え	2.6	0.0	0.0	8.3	3.6	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
その他	9.7	0.0	0.0	16.7	10.7	14.3	7.9	14.3	10.0	15.6	13.3	9.8	5.3
無回答	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3

問 19 手助けしたことがない理由

問 17 で、「3 (手伝いをしたことはない)」を選んだ方
 手伝いをしたことがない、最も大きな理由はどれですか。(単数回答)

- ・ 手伝いをしたことがない理由については、「そのような機会がないので」が 80.6%で最も多くなっています。
- ・ 男女年齢別にみると、男女ともに 70 歳以上では「自分の体力や家族の健康状態からみて、余裕がないから」の割合が全体と比べ高くなっています。また、29 歳以下及び 40 歳代の女性で「そのような機会がないので」が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.2.10 手助けしたことがない理由】



【図表 2.2.11 手助けしたことがない理由 (男女・年齢別)】

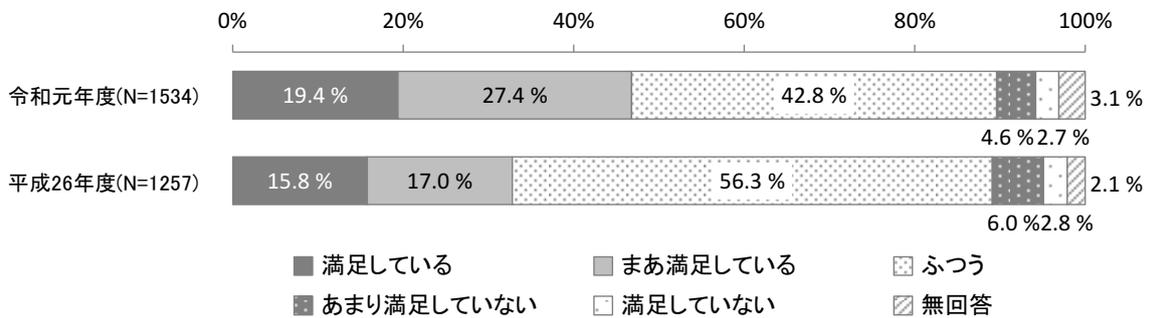
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1108	34	39	76	70	99	152	57	67	89	110	123	173
時間がないから	3.7	0.0	2.6	5.3	10.0	3.0	3.3	1.8	6.0	5.6	5.5	3.3	0.6
気持ちにゆとりがないから	1.5	2.9	5.1	2.6	2.9	2.0	2.0	1.8	0.0	0.0	0.9	1.6	0.6
自分の体力や家族の健康状態からみて、余裕がないから	8.8	2.9	0.0	0.0	4.3	6.1	18.4	3.5	0.0	2.2	5.5	10.6	20.2
一緒に手助けする仲間がいないので	0.1	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そのような機会がないので	80.6	85.3	87.2	82.9	81.4	84.8	88.4	93.0	89.6	91.0	86.4	81.3	88.2
有償ではないので	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	2.0	0.0	2.6	3.9	0.0	0.0	2.0	0.0	4.5	1.1	0.0	1.6	5.2
そもそも、手伝いをしたいとは思わない	2.3	8.8	2.6	3.9	1.4	3.0	4.6	0.0	0.0	0.0	1.8	0.8	2.3
無回答	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	2.9

問 20 近所付き合いの満足度

現在の近所付き合いに、満足していますか。(単数回答)

- ・近所付き合いの満足度については、「ふつう」が42.8%で最も多くなっています。満足（「満足している」、「まあ満足している」の合計）との回答は4割以上となっています。
- ・平成26年度調査と比較すると、満足（「満足している」、「まあ満足している」の合計）は14ポイント増加しています。
- ・男女年齢別にみると、29歳以下の男性で「満足している」の割合が全体と比べ高くなっており、一方で50歳代では低くなっています。

【図表 2.2.12 近所付き合いの満足度】



【図表 2.2.13 近所付き合いの満足度（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
満足している	19.4	27.0	14.0	10.2	6.7	21.1	18.3	21.9	16.9	23.1	23.4	24.2	21.3
まあ満足している	27.4	16.2	30.0	25.0	33.3	26.5	28.1	25.0	29.9	26.4	28.4	30.1	25.0
ふつう	42.8	48.6	44.0	46.6	47.5	40.8	42.0	43.8	46.8	41.3	41.1	39.2	41.8
あまり満足していない	4.6	8.1	6.0	12.5	3.0	6.1	4.5	7.8	0.0	5.0	2.8	1.6	4.9
満足していない	2.7	0.0	2.0	2.3	4.0	3.4	3.6	1.6	3.9	1.7	2.8	2.7	2.2
無回答	3.1	0.0	4.0	3.4	6.1	2.0	3.6	0.0	2.6	2.5	1.4	2.2	4.9

【図表 2.2.14 近所付き合いの満足度（同居家族別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	家族構成					
		一人暮らし	夫婦二人の世帯	二世帯世帯(夫婦と子)	三世帯世帯(親と子と孫)	ひとり親と子どもの世帯(父子、母子)	その他
回答者数(人)	1534	338	539	422	62	118	30
満足している	19.4	20.7	18.2	22.3	14.5	15.3	20.0
まあ満足している	27.4	25.7	28.9	29.6	32.3	17.8	26.7
ふつう	42.8	44.1	41.7	38.6	45.2	53.4	50.0
あまり満足していない	4.6	4.7	4.1	4.5	3.2	9.3	0.0
満足していない	2.7	2.7	3.5	2.4	1.6	1.7	0.0
無回答	3.1	2.1	3.5	2.6	3.2	2.5	3.3

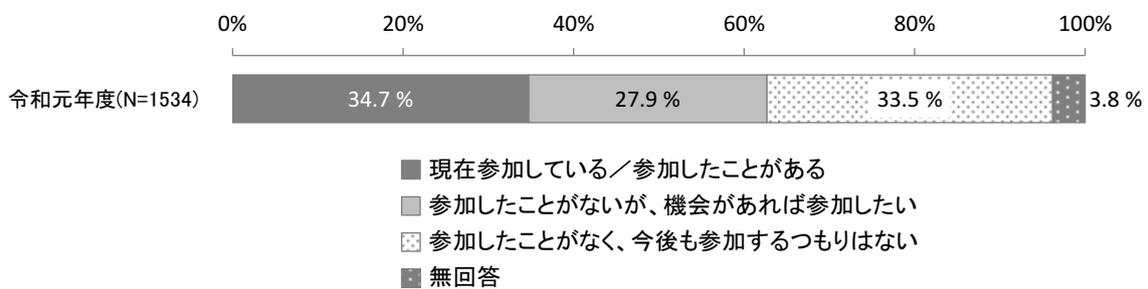
2.3 地域活動やボランティアについて

問 21 支援活動の参加の有無

あなたは、地域活動やボランティア活動などの支援活動に参加していますか。(単数回答)

- ・支援活動の参加の有無については、「現在参加している／参加したことがある」が 34.7%、「参加したことがないが、機会があれば参加したい」が 27.9%、「参加したことがなく、今後も参加するつもりはない」が 33.5%となっています。
- ・男女年齢別にみると、「参加したことはないが、機会があれば参加したい」が男性では 50 歳代で 41.4%、女性では 29 歳以下で 45.3%と全体と比べ高くなっています。

【図表 2.3.1 支援活動の参加の有無】



【図表 2.3.2 支援活動の参加の有無（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
現在参加している／ 参加したことがある	34.7	27.0	20.0	27.3	27.2	42.2	45.5	17.2	24.7	35.5	29.8	40.3	38.8
参加したことがないが、 機会があれば参加したい	27.9	29.7	34.0	30.7	41.4	29.3	20.1	45.3	35.1	31.4	33.3	27.4	16.8
参加したことがなく、 今後も参加するつもりはない	33.5	40.5	42.0	42.0	35.4	27.9	30.8	37.5	32.5	31.4	34.8	30.6	34.3
無回答	3.8	2.7	4.0	0.0	2.0	0.7	3.6	0.0	7.8	1.7	2.1	1.6	10.1

- ・支援活動に“現在参加している／参加したことがある”人は、「70歳以上」、「無職（年金生活）」、「夫婦二人の世帯」の割合が全体と比べ高くなっています。
- ・“参加したことがないが、機会があれば参加したい”人は、「50歳代」、「正社員」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.3.3 属性（支援活動の参加の有無別）】

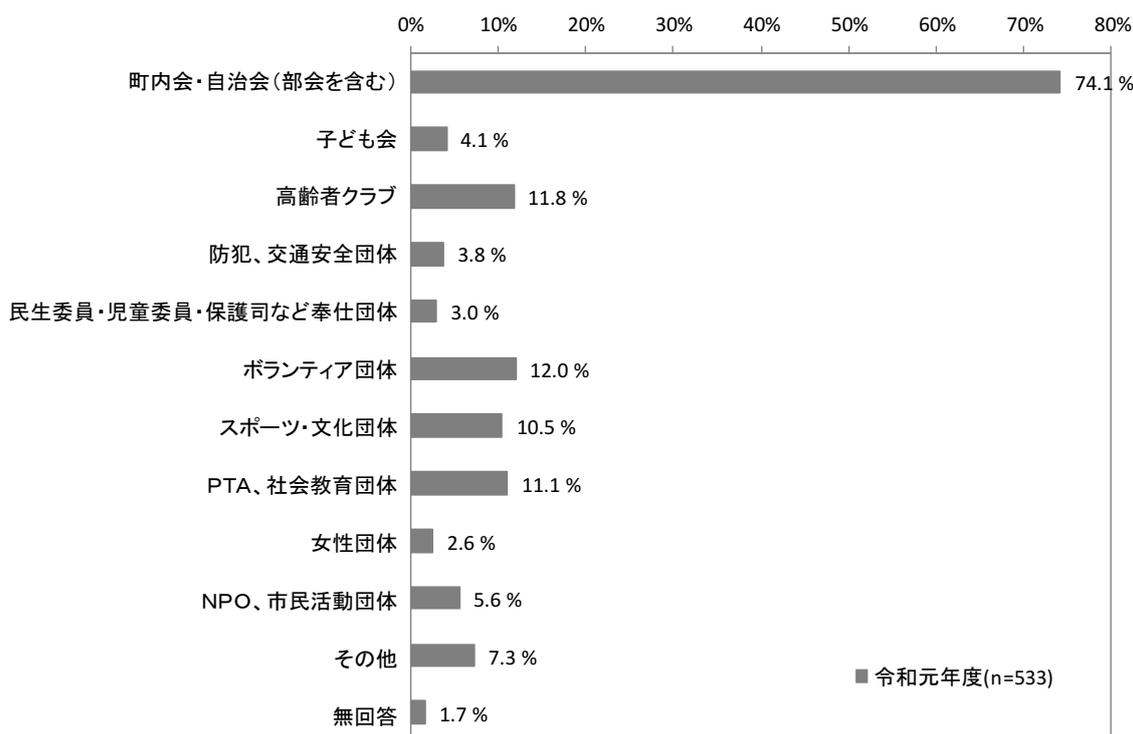
回答者数(人):実数 以下割合(%)		全体	支援活動の参加の有無		
			現在参加している/ 参加したことがある	参加したことがないが、 機会があれば参加したい	参加したことがなく、 今後も参加するつもりはない
回答者数(人)		1534	533	428	514
年齢	29歳以下	6.6	3.9	9.3	7.6
	30歳代	8.3	5.4	10.3	8.9
	40歳代	13.6	12.6	15.2	14.6
	50歳代	15.6	11.8	20.6	16.3
	60歳代	21.7	25.7	22.0	19.1
	70歳以上	32.1	38.8	27.0	31.3
	無回答	2.0	1.7	1.6	2.1
就業 状態、 職業	自営業	4.2	5.4	4.7	2.7
	正社員	18.9	13.1	26.2	19.8
	契約社員	4.6	3.4	5.6	5.4
	パート、アルバイト	16.4	15.9	19.4	15.0
	公務員	2.6	2.8	3.0	2.3
	家事専業(主婦・主夫を含む)	13.9	17.3	11.2	12.5
	学生	2.8	2.1	4.9	2.1
	その他	1.4	1.5	0.7	1.6
	無職(年金生活)	30.9	36.2	18.7	33.5
	無職(求職活動中)	1.2	0.6	2.3	1.2
	無職(求職活動していない)	1.8	1.1	1.9	2.5
	無回答	1.3	0.6	1.4	1.4
	家族 構成	一人暮らし	22.0	21.2	20.8
夫婦二人の世帯		35.1	43.0	33.2	28.8
二世帯世帯(夫婦と子)		27.5	27.4	30.8	25.1
三世帯世帯(親と子と孫)		4.0	2.6	4.4	5.3
ひとり親と子どもの世帯(父子、母子)		7.7	4.7	7.2	11.7
その他		2.0	0.8	1.6	3.5
無回答		1.6	0.4	1.9	1.9
居住 年数	1年未満	3.7	2.1	5.1	4.1
	1年以上5年未満	13.2	6.6	17.8	17.1
	5年以上10年未満	11.0	9.9	13.1	10.1
	10年以上20年未満	18.2	17.6	20.1	17.5
	20年以上	52.2	62.9	42.8	48.8
	わからない	0.2	0.4	0.0	0.2
	無回答	1.6	0.6	1.2	2.1
住ま い	持ち家(一戸建て)	68.1	78.4	63.6	62.3
	持ち家(マンション)	7.8	7.7	7.7	7.2
	民間借家(一戸建て)	2.2	1.5	3.0	2.1
	民間借家(マンション、アパート)	12.0	4.5	17.5	16.1
	公営住宅など(市営、道営、UR都市 機構住宅、雇用促進住宅)	7.0	6.8	5.4	8.9
	社宅、公務員住宅	0.5	0.6	0.9	0.0
	寮、寄宿舎、下宿	0.2	0.2	0.2	0.2
	その他	1.0	0.0	0.2	1.8
	無回答	1.2	0.4	1.4	1.4
外 出 頻 度	頻繁にまたは時々外出する	43.9	37.7	55.4	43.8
	時々外出する	33.5	48.4	25.9	26.5
	外出することもあるが、家族以外との 会話はほとんどなし	13.2	9.0	13.3	18.3
	自室からは出るが、家からはほとんど 出ない	2.3	1.3	0.2	5.1
	自室からほとんど出ない	0.4	0.0	0.2	1.0
	無回答	6.6	3.6	4.9	5.4

問 22 活動している団体

問 21 で、「1（現在参加している／参加したことがある）」を選んだ方
あなたはどのような団体に活動したことがありますか。（複数回答）

- ・活動している団体については、「町内会・自治会（部会を含む）」が 74.1% で最も多くなっています。
- ・男女年齢別にみると、男性では 60 歳以上で「町内会・自治会（部会を含む）」、女性では 40～59 歳で「PTA・社会教育団体」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.3.4 活動している団体】



【図表 2.3.5 活動している団体（男女・年齢別）】

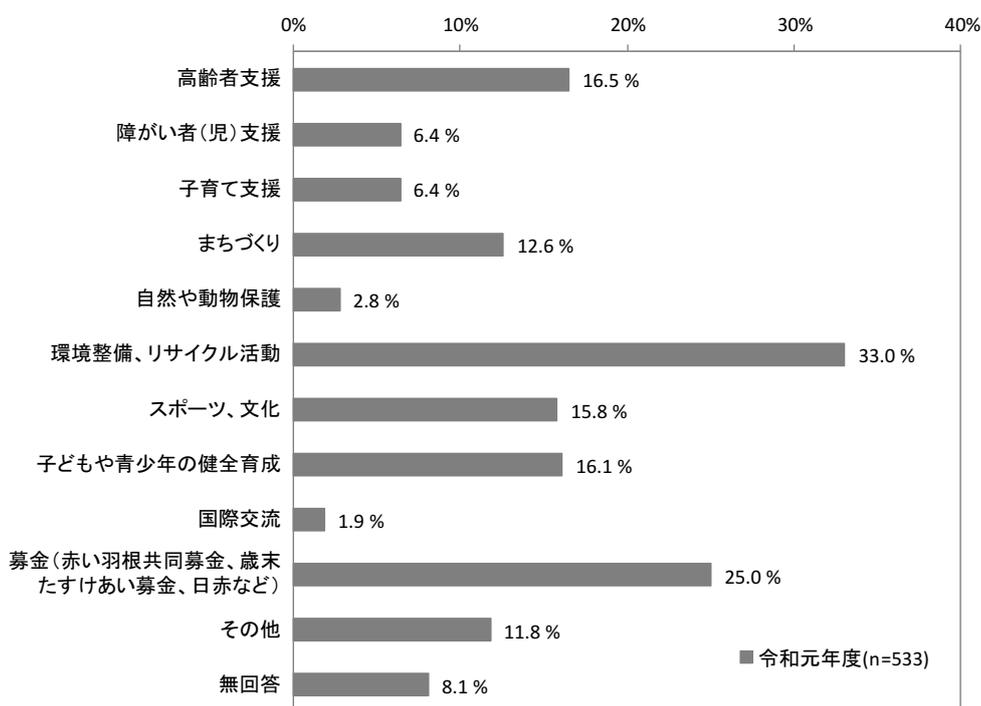
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	533	10	10	24	21	62	102	11	19	43	42	75	104
町内会・自治会 (部会を含む)	74.1	50.0	50.0	62.5	95.2	87.1	84.3	45.5	84.2	79.1	76.2	73.3	67.5
子ども会	4.1	10.0	0.0	4.2	0.0	3.2	1.0	9.1	5.3	7.0	4.8	9.3	1.9
高齢者クラブ	11.8	0.0	0.0	4.2	0.0	6.5	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	26.0
防犯、交通安全団体	3.8	10.0	0.0	0.0	0.0	8.1	6.9	0.0	5.3	2.3	4.8	2.7	1.0
民生委員・児童委員・ 保護司など奉仕団体	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	4.9	9.1	0.0	0.0	2.4	1.3	5.8
ボランティア団体	12.0	40.0	10.0	0.0	0.0	8.1	5.9	27.3	15.8	14.0	19.0	10.7	19.2
スポーツ・文化団体	10.5	10.0	0.0	16.7	4.8	9.7	18.6	0.0	5.3	9.3	11.9	4.0	10.6
PTA、社会教育団体	11.1	0.0	0.0	0.0	4.8	4.8	0.0	9.1	36.8	46.5	35.7	9.3	4.8
女性団体	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	2.4	8.0	5.8
NPO、市民活動団体	5.6	0.0	10.0	8.3	0.0	1.6	3.9	18.2	15.8	4.7	2.4	6.7	8.7
その他	7.3	0.0	30.0	8.3	0.0	3.2	8.8	18.2	15.8	4.7	4.8	5.3	6.7
無回答	1.7	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.4	2.7	1.9

問 23 活動している分野

問 21 で、「1（現在参加している／参加したことがある）」を選んだ方
あなたは、問 22 で選択した団体でどのような分野の活動に参加していたことがありますか。
（複数回答）

- ・活動している分野については、「環境整備、リサイクル活動」が 33.0% で最も多く、「募金（赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金、日赤など）」が 25.0% で次いでいます。
- ・男女年齢別にみると、女性では 40～59 歳で「子どもや青少年の健全育成」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.3.6 活動している分野】



※前回の調査とは表現が異なる選択肢があります。

【図表 2.3.7 活動している分野（男女・年齢別）】

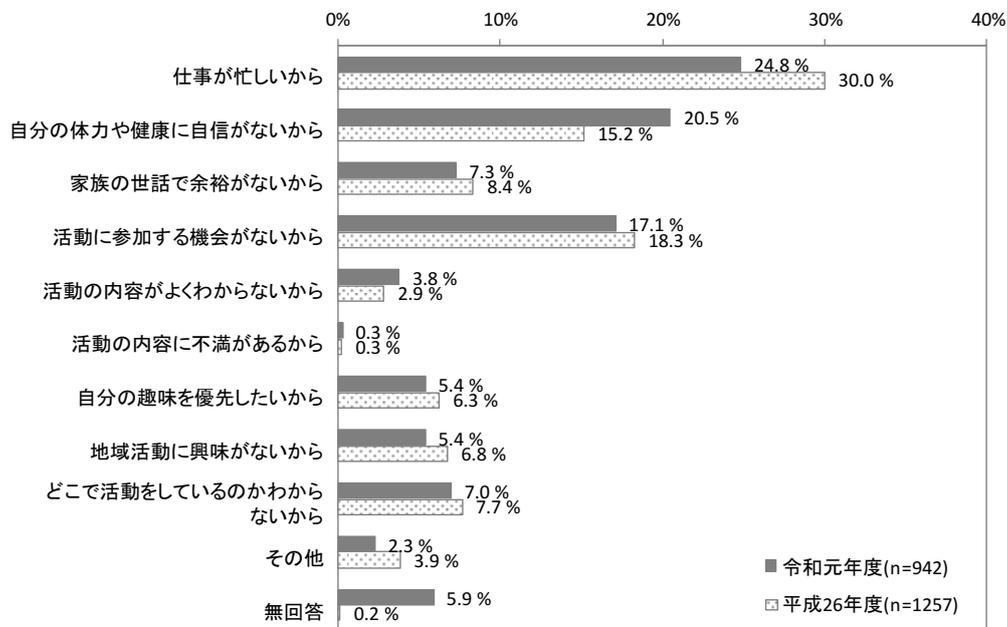
回答者数(人):実数 以下割合 (%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	533	10	10	24	21	62	102	11	19	43	42	75	104
高齢者支援	16.5	0.0	10.0	12.5	19.0	17.3	20.6	0.0	15.8	4.7	11.9	17.3	25.0
障がい者(児)支援	6.4	10.0	10.0	0.0	0.0	4.8	3.9	27.3	15.8	7.0	7.1	10.7	4.8
子育て支援	6.4	10.0	30.0	0.0	4.8	1.6	2.9	9.1	21.1	16.3	19.0	4.0	1.9
まちづくり	12.6	20.0	30.0	16.7	9.5	12.9	21.6	0.0	21.1	14.0	4.8	9.3	5.8
自然や動物保護	2.8	30.0	10.0	0.0	0.0	3.2	2.9	0.0	10.5	2.3	2.4	2.7	0.0
環境整備、リサイクル活動	33.0	20.0	40.0	33.3	57.1	41.9	34.3	54.5	36.8	34.9	28.6	25.3	27.9
スポーツ、文化	15.8	20.0	0.0	16.7	14.3	12.9	21.6	9.1	10.5	11.6	14.3	13.3	19.2
子どもや青少年の健全育成	16.1	10.0	0.0	12.5	14.3	19.4	14.7	18.2	36.8	41.9	35.7	9.3	2.9
国際交流	1.9	0.0	10.0	0.0	0.0	1.6	2.0	9.1	0.0	2.3	0.0	2.7	1.9
募金 (赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金、日赤など)	25.0	50.0	30.0	4.2	14.3	16.1	27.5	9.1	21.1	27.9	26.2	30.7	28.8
その他	11.8	10.0	0.0	8.3	4.8	11.3	12.7	9.1	15.8	14.0	14.3	14.7	9.6
無回答	8.1	10.0	0.0	8.3	4.8	9.7	8.8	0.0	0.0	4.7	2.4	5.3	14.4

問 24 団体の活動に参加していない理由

問 21 で、「2 または 3 (参加したことがない)」を選んだ方
活動に参加していない、最も大きな理由はどれですか。(単数回答)

- ・団体の活動に参加していない理由については、「仕事が忙しいから」が 24.8% で最も多く、「自分の体力や健康に自信がないから」(20.5%)、「活動に参加する機会がないから」(17.1%) などが次いでいます。
- ・平成 26 年度調査と比較すると、「自分の体力や健康に自信がないから」は 5 ポイント増加しています。一方で、「仕事が忙しいから」は 5 ポイント減少しています。
- ・男女年齢別にみると、男女ともに 70 歳以上では「自分の体力や健康に自信がないから」の割合が全体と比べ高くなっています。また、30~59 歳の男性、40 歳代の女性については「仕事が忙しいから」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.3.8 団体の活動に参加していない理由】



※前回調査の回答条件は団体で「活動していない」人となっています。

【図表 2.3.9 団体の活動に参加していない理由 (男女・年齢別)】

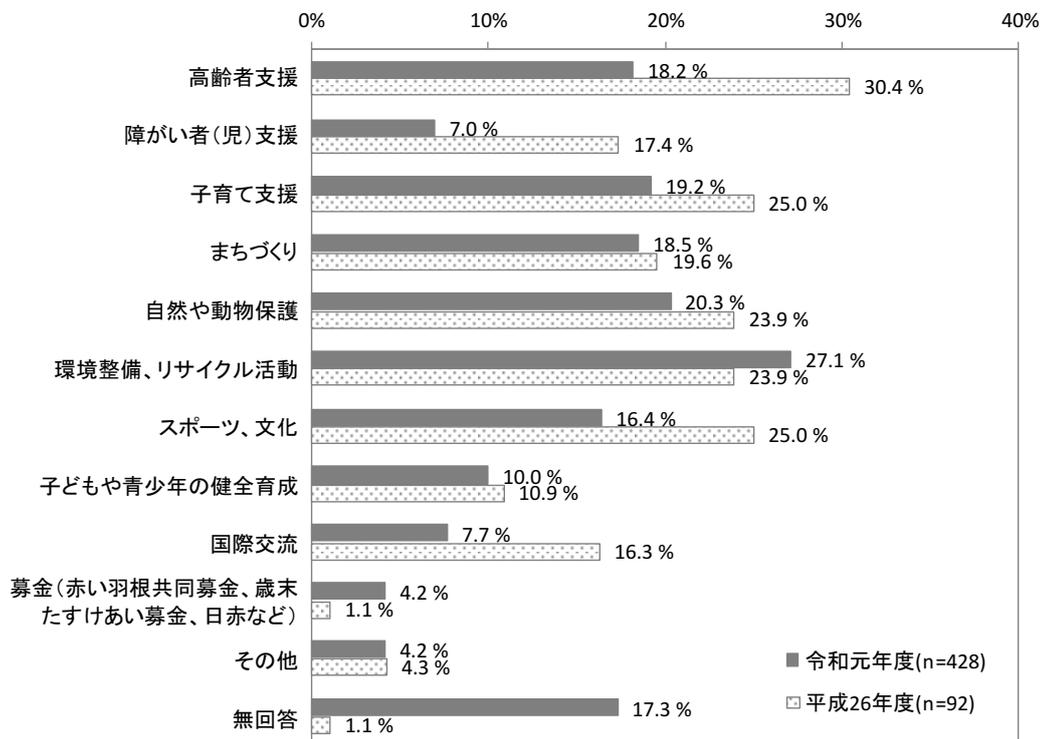
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	942	26	38	64	76	84	114	53	52	76	96	108	137
仕事が忙しいから	24.8	26.9	50.0	43.8	47.4	26.2	5.3	26.4	28.8	35.5	33.3	14.8	6.6
自分の体力や健康に自信がないから	20.5	7.7	2.6	6.3	7.9	14.3	39.5	3.8	5.8	9.2	11.5	31.5	45.3
家族の世話で余裕がないから	7.3	0.0	2.6	6.3	3.9	3.6	4.4	9.4	19.2	14.5	11.5	8.3	4.4
活動に参加する機会がないから	17.1	19.2	21.1	12.5	23.7	22.6	13.2	30.2	21.2	17.1	14.6	15.7	10.2
活動の内容及くわからないから	3.8	3.8	5.3	6.3	3.9	1.2	3.5	1.9	1.9	2.6	4.2	6.5	3.6
活動の内容に不満があるから	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0
自分の趣味を優先したいから	5.4	7.7	7.9	7.8	0.0	10.7	10.5	3.8	0.0	1.3	4.2	5.6	4.4
地域活動に興味がないから	5.4	7.7	10.5	1.6	6.6	6.0	5.3	1.9	7.7	6.6	5.2	4.6	4.4
どこで活動をしているのかわからないから	7.0	19.2	0.0	7.8	3.9	10.7	6.1	13.2	7.7	7.9	6.3	6.5	4.4
その他	2.3	0.0	0.0	4.7	1.3	0.0	5.3	3.8	0.0	1.3	3.1	0.9	3.6
無回答	5.9	7.7	0.0	3.1	1.3	4.8	5.3	5.7	7.7	2.6	6.3	5.6	13.1

問 25 今後活動に参加する場合、活動したい分野

問 21 で、「2（参加したことがないが、機会があれば参加したい）」を選んだ方
あなたは、今後、活動に参加するとしたら、どのような分野の活動をしたいと思いますか。
（複数回答）

- ・今後、活動に参加する場合、活動をしたい分野については、「環境整備、リサイクル活動」が 27.1% で最も多く、「自然や動物保護」（20.3%）、「子育て支援」（19.2%）などが次いでいます。
- ・男女年齢別にみると、男性では 50～69 歳で「まちづくり」の割合が、女性では 40 歳代で「子育て支援」、50 歳代で「高齢者支援」及び「国際交流」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.3.10 今後活動に参加する場合、活動したい分野】



※前回の調査の回答条件は団体で「今後、活動したいと考えている」人となっています。
※前回の調査とは表現が異なる選択肢があります。

【図表 2.3.11 今後活動に参加する場合、活動したい分野（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢													
		男性							女性						
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上		
回答者数(人)	428	11	17	27	41	43	45	29	27	38	47	51	45		
高齢者支援	18.2	0.0	11.8	25.9	12.2	18.6	8.9	17.2	14.8	15.8	36.2	17.6	20.0		
障がい者(児)支援	7.0	0.0	5.9	7.4	0.0	11.6	0.0	10.3	14.8	5.3	10.6	11.8	4.4		
子育て支援	19.2	9.1	23.5	18.5	9.8	7.0	0.0	27.6	55.6	39.5	23.4	19.6	11.1		
まちづくり	18.5	9.1	29.4	22.2	29.3	30.2	22.2	6.9	11.1	21.1	17.0	15.7	4.4		
自然や動物保護	20.3	36.4	29.4	25.9	14.6	27.9	13.3	41.4	14.8	13.2	19.1	25.5	6.7		
環境整備、リサイクル活動	27.1	36.4	29.4	37.0	29.3	32.6	37.8	17.2	14.8	10.5	34.0	17.6	33.3		
スポーツ、文化	16.4	27.3	23.5	18.5	22.0	11.6	24.4	10.3	3.7	23.7	19.1	11.8	6.7		
子どもや青少年の健全育成	10.0	18.2	23.5	18.5	14.6	2.3	4.4	3.4	22.2	15.8	14.9	0.0	4.4		
国際交流	7.7	0.0	5.9	11.1	7.3	4.7	0.0	13.8	11.1	15.8	19.1	3.9	0.0		
募金(赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金、日赤など)	4.2	0.0	0.0	3.7	4.9	0.0	4.4	3.4	3.7	5.3	4.3	5.9	8.9		
その他	4.2	0.0	0.0	7.4	9.8	4.7	6.7	0.0	0.0	0.0	2.1	5.9	6.7		
無回答	17.3	9.1	23.5	18.5	19.5	20.9	15.6	13.8	18.5	10.5	14.9	13.7	26.7		

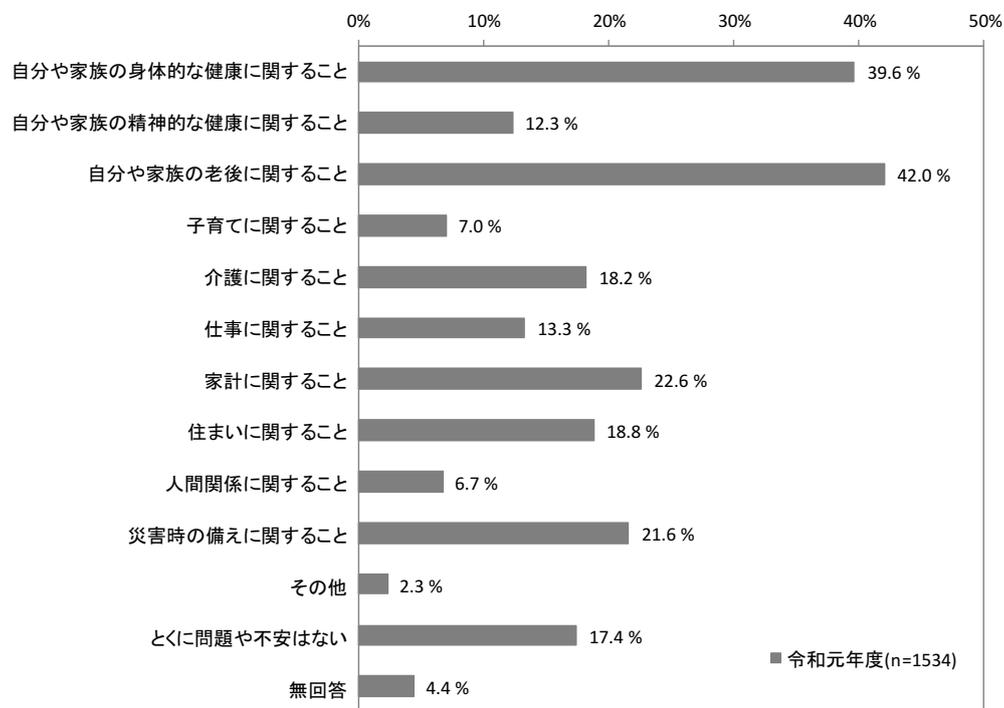
2.4 日常生活での不安や悩みについて

問 26 日常生活における問題や不安なこと

あなたの日常生活において、問題や不安なことはありますか。(複数回答)

- ・日常生活における問題や不安なことについては、「自分や家族の老後に関すること」が 42.0%で最も多く、「自分や家族の身体的な健康に関すること」が 39.6%で次いでいます。
- ・男女年齢別にみると、男性では 50 歳代以下の「仕事に関すること」、女性では 30～59 歳の「家計に関すること」の割合が全体と比べ高くなっています。また、30～49 歳の女性については、「子育てに関すること」の割合も全体と比べ高くなっています。

【図表 2.4.1 日常生活における問題や不安なこと】



【図表 2.4.2 日常生活における問題や不安なこと (男女・年齢別)】

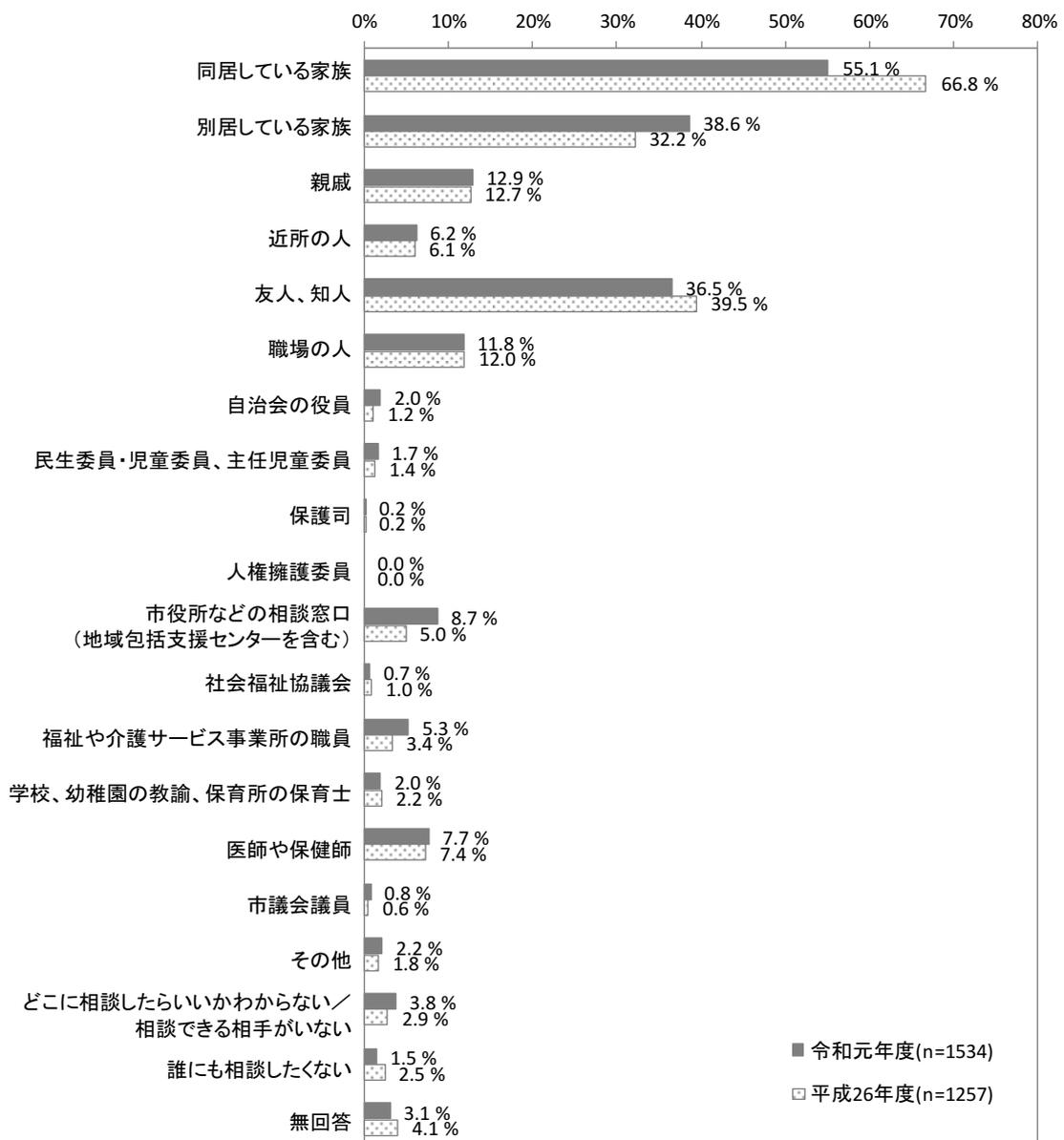
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢													
		男性							女性						
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上		
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268		
自分や家族の身体的な健康に関すること	39.6	21.6	18.0	37.5	48.5	42.2	42.9	29.7	31.2	32.2	39.7	45.7	42.9		
自分や家族の精神的な健康に関すること	12.3	13.5	8.0	20.5	15.2	8.2	9.8	21.9	22.1	15.7	12.1	9.7	8.2		
自分や家族の老後に関すること	42.0	13.5	34.0	45.5	49.5	38.1	37.5	28.1	42.9	46.3	56.0	43.5	41.0		
子育てに関すること	7.0	2.7	16.0	17.0	2.0	1.4	0.4	14.1	36.4	28.1	2.8	0.0	0.0		
介護に関すること	18.2	2.7	8.0	14.8	23.2	19.0	19.2	3.7	10.4	14.9	29.1	18.3	21.6		
仕事に関すること	13.3	35.1	26.0	25.0	31.3	10.2	0.9	21.9	29.9	20.7	18.4	4.3	1.5		
家計に関すること	22.6	29.7	30.0	29.5	28.3	15.6	10.7	21.9	50.6	37.2	34.0	22.0	10.1		
住まいに関すること	18.8	5.4	16.0	27.3	26.3	23.8	13.4	12.5	23.4	23.1	20.6	21.0	11.9		
人間関係に関すること	6.7	10.8	12.0	17.0	11.1	4.8	2.2	15.6	11.7	6.6	6.4	2.2	3.7		
災害時の備えに関すること	21.6	16.2	22.0	23.9	23.2	15.0	11.6	23.4	37.7	23.1	31.9	22.0	20.5		
その他	2.3	2.7	4.0	1.1	1.0	2.0	1.8	1.6	2.6	2.5	3.5	4.3	1.5		
とくに問題や不安はない	17.4	32.4	22.0	13.6	9.1	20.4	24.1	29.7	15.6	17.4	13.5	14.5	14.2		
無回答	4.4	0.0	4.0	2.3	1.0	2.7	6.7	1.6	0.0	1.7	1.4	3.8	10.8		

問 27 日常生活の問題や不安なことについての相談相手

あなたは、日常生活の問題や不安なことについて、誰に相談しますか。(複数回答)

- ・日常生活の問題や不安なことについての相談相手については、「同居している家族」が 55.1%で最も多く、「別居している家族」が 38.6%で次いでいます。
- ・平成 26 年度調査と比較すると、「同居している家族」が 12 ポイント減少しています。
- ・男女年齢別にみると、30～49 歳の男性及び 40 歳代以下の女性で「同居している家族」の割合が全体と比べ高くなっています。また、30～59 歳の女性では「友人、知人」や「職場の人」の割合も高くなっています。

【図表 2.4.3 日常生活の問題や不安なことについての相談相手】



※前回の調査とは表現が異なる選択肢があります。

【図表 2.4.4 日常生活の問題や不安なことについての相談相手（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳 以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上	29歳 以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
同居している家族	55.1	40.5	68.0	67.0	58.6	58.5	52.2	71.9	72.7	68.6	56.7	54.8	35.8
別居している家族	38.6	32.4	34.0	27.3	30.3	26.5	36.6	25.0	63.6	40.5	41.8	46.8	44.0
親戚	12.9	10.8	6.0	6.8	17.2	12.9	20.1	3.1	14.3	11.6	10.6	10.8	14.2
近所の人	6.2	0.0	2.0	3.4	4.0	5.4	5.8	0.0	5.2	5.0	7.8	7.0	10.4
友人、知人	36.5	54.1	44.0	28.4	28.3	20.4	17.4	59.4	61.0	60.3	61.0	38.2	27.2
職場の人	11.8	13.5	30.0	19.3	23.2	10.2	0.9	15.6	23.4	23.1	22.0	5.9	1.9
自治会の役員	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.7	6.3	0.0	2.6	0.8	0.0	1.1	1.5
民生委員・児童委員、主任児童委員	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	4.9	0.0	1.3	0.8	0.0	0.5	3.7
保護司	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
人権擁護委員	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
市役所などの相談窓口 (地域包括支援センターを含む)	8.7	2.7	0.0	3.4	3.0	8.8	13.8	0.0	5.2	3.3	7.1	10.8	13.8
社会福祉協議会	0.7	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	1.3	0.0	1.3	0.8	0.7	0.5	0.0
福祉や介護サービス事業所の職員	5.3	0.0	4.0	2.3	4.0	4.1	9.8	0.0	3.9	3.3	3.5	5.4	7.5
学校、幼稚園の教諭、 保育所の保育士	2.0	5.4	2.0	1.1	0.0	0.0	0.0	3.1	13.0	7.4	2.1	0.0	0.0
医師や保健師	7.7	2.7	4.0	5.7	6.1	8.8	14.3	0.0	3.9	8.3	7.8	8.1	6.0
市議会議員	0.8	0.0	0.0	1.1	1.0	2.0	1.8	0.0	2.6	0.8	0.0	0.0	0.0
その他	2.2	0.0	2.0	1.1	1.0	1.4	3.6	1.6	1.3	5.0	0.7	1.6	3.0
どこに相談したらいいかわからない ／相談できる相手がいない	3.8	8.1	2.0	6.8	10.1	4.1	1.3	4.7	2.6	4.1	5.0	2.2	1.9
誰にも相談したくない	1.5	2.7	0.0	4.5	2.0	2.7	1.3	0.0	0.0	0.8	2.1	1.6	0.7
無回答	3.1	0.0	4.0	1.1	1.0	4.1	4.5	1.6	0.0	0.8	2.1	2.7	5.6

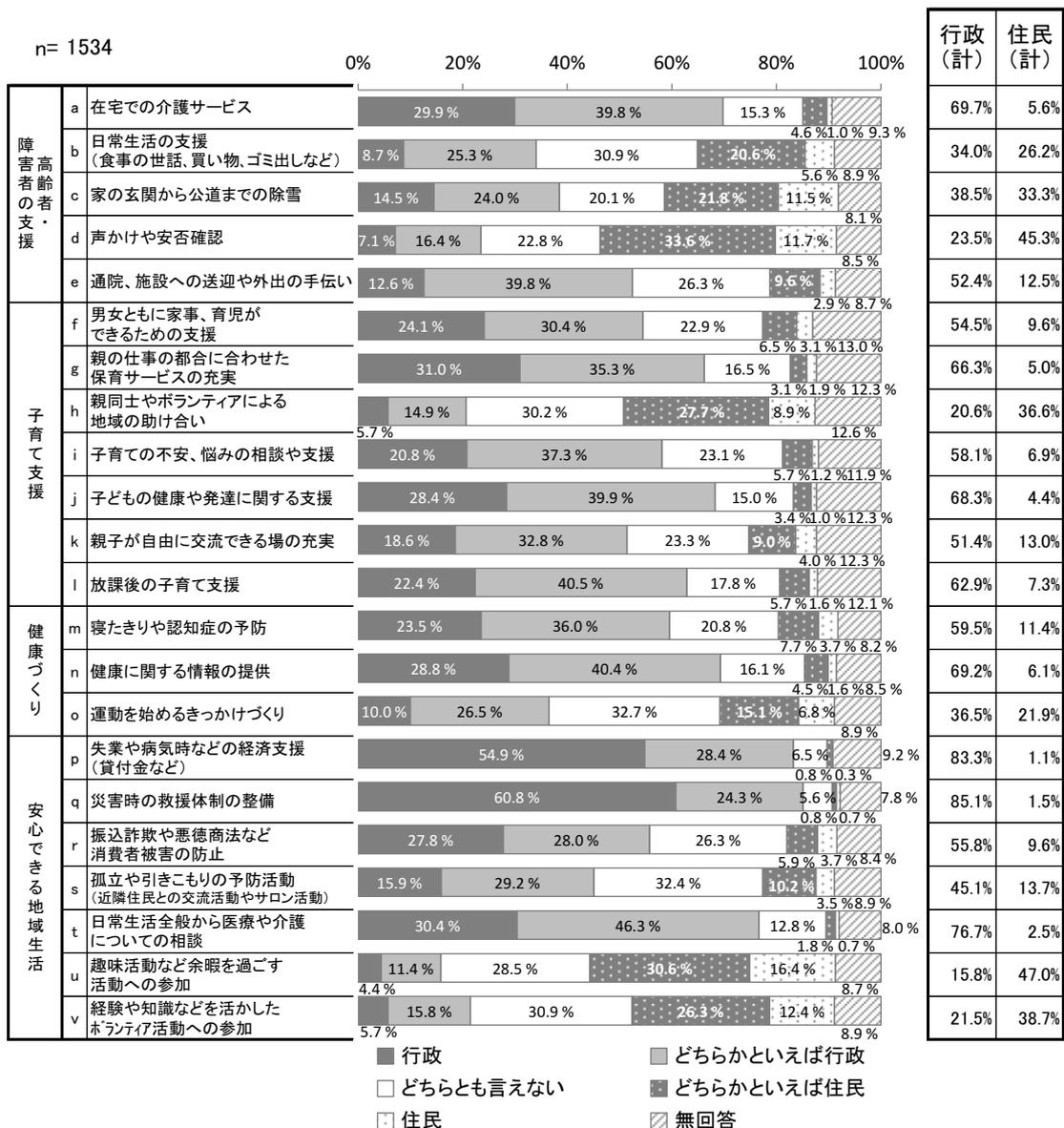
2.5 地域での生活について

問 28 誰が中心になって取り組むべきか

下の a～v の各項目について、誰が中心となって取り組むことが必要だと思いますか。
1（行政）～5（住民）で、そう思う段階に一つずつ○をつけてください。（各々単数回答）

・誰が中心になって取り組むべきかについては、行政が中心になって取り組むべき（「行政」、「どちらかといえば行政」の合計）の上位3は「q. 災害時の救援体制の整備」（85.1%）、「p. 失業や病気時などの経済支援（貸付金など）」（83.3%）、「t. 日常生活全般から医療や介護についての相談」（76.7%）となっています。一方、住民が中心になって取り組むべき（「住民」、「どちらかといえば住民」の合計）の上位3は「u. 趣味活動など余暇を過ごす活動への参加」（47.0%）、「d. 声かけや安否確認」（45.3%）、「v. 経験や知識などを活かしたボランティア活動への参加」（38.7%）となっています。

【図表 2.5.1 誰が中心になって取り組むべきか】

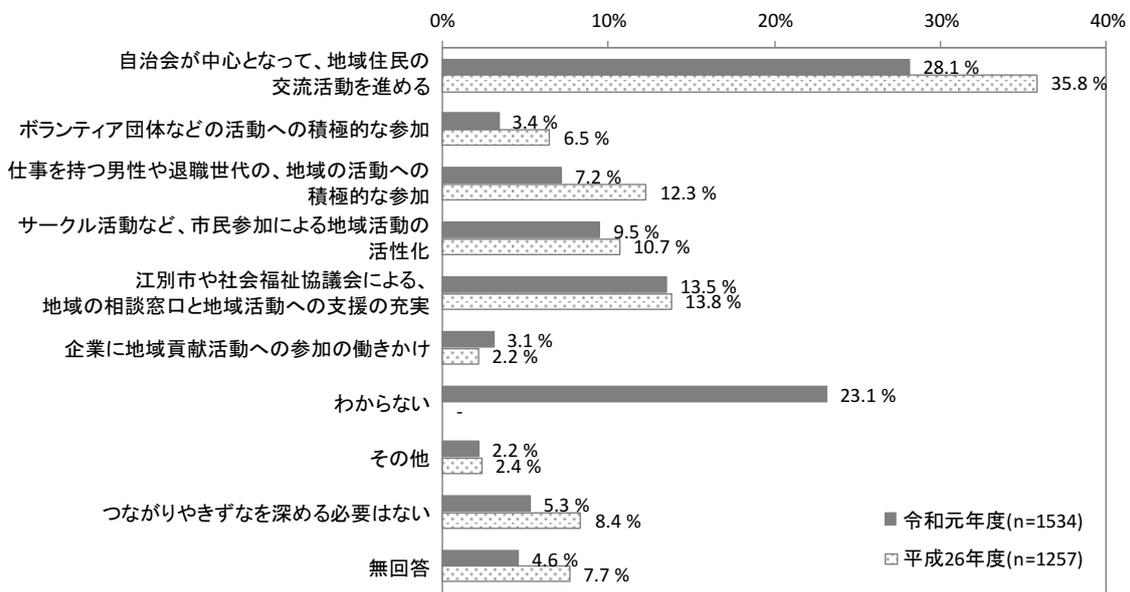


問 29 住民同士のつながりやきずなを深めるために必要なこと

あなたは、地域で生活する上で住民同士のお互いのつながりやきずなを深めていくために、どんなことが最も必要だと思いますか。（単数回答）

- ・住民同士のつながりやきずなを深めるために必要なことについては、「自治会が中心となって、地域住民の交流活動を進める」が 28.1% で最も多くなっています。
- ・男女年齢別にみると、男性では 29 歳以下で「サークル活動など、市民参加による地域活動の活性化」、30 歳代で「仕事を持つ男性や退職世代の、地域の活動への積極的な参加」及び「つながりやきずなを深める必要はない」の割合が全体と比べ高くなっています。一方で、女性では 50 歳代で「自治会が中心となって、地域住民の交流活動を進める」の割合が全体と比べ低くなっています。

【図表 2.5.2 住民同士のつながりやきずなを深めるために必要なこと】



※前回調査では「わからない」という選択肢がありません。

【図表 2.5.3 住民同士のつながりやきずなを深めるために必要なこと（男女・年齢別）】

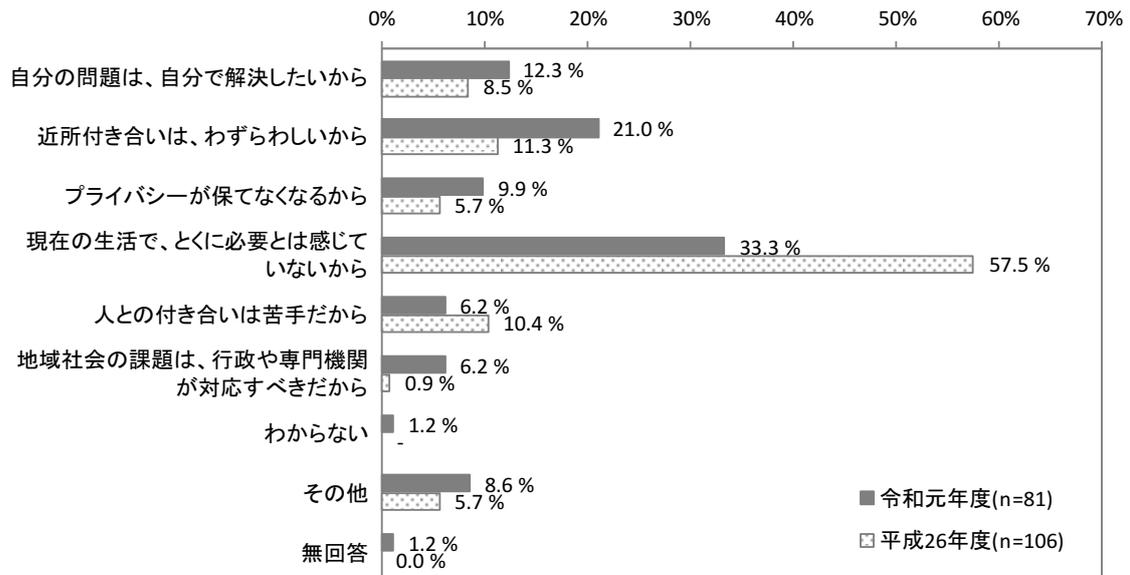
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
自治会が中心となって、地域住民の交流活動を進める	28.1	18.9	22.0	25.0	21.2	25.9	37.9	32.8	31.2	26.4	14.2	30.1	31.3
ボランティア団体などの活動への積極的な参加	3.4	10.8	6.0	4.5	1.0	3.4	3.1	7.8	0.0	2.5	4.3	4.3	1.9
仕事を持つ男性や退職世代の、地域の活動への積極的な参加	7.2	0.0	20.0	10.2	12.1	14.3	6.3	1.6	3.9	8.3	8.5	3.8	3.4
サークル活動など、市民参加による地域活動の活性化	9.5	21.6	8.0	10.2	11.1	8.8	6.7	14.1	3.9	7.4	14.2	9.1	9.3
江別市や社会福祉協議会による、地域の相談窓口と地域活動への支援の充実	13.5	8.1	8.0	11.4	13.1	12.9	15.6	12.5	10.4	8.3	12.1	16.1	17.5
企業に地域貢献活動への参加の働きかけ	3.1	8.1	4.0	10.2	4.0	4.8	1.3	1.6	7.8	4.1	2.1	1.1	1.1
わからない	23.1	27.0	14.0	21.6	27.3	19.0	17.0	21.9	29.9	32.2	34.0	25.3	17.5
その他	2.2	0.0	0.0	0.0	3.0	3.4	0.4	0.0	3.9	4.1	2.8	1.1	3.7
つながりやきずなを深める必要はない	5.3	5.4	16.0	6.8	5.1	3.4	4.5	6.3	6.5	5.8	5.0	6.5	3.0
無回答	4.6	0.0	2.0	0.0	2.0	4.1	7.1	1.6	2.6	0.8	2.8	2.7	11.2

問 30 住民同士のつながりやきずなを深めることが必要ない理由

問 29 で、「9（つながりやきずなを深める必要はない）」を選択した方
住民同士のお互いのつながりやきずなを深める必要はないと思う理由はどれですか。（単数回答）

- ・住民同士のつながりやきずなを深める必要がないと思う理由については、「現在の生活で、とくに必要とは思っていないから」が 33.3%で最も多くなっています。

【図表 2.5.4 住民同士のつながりやきずなを深めることが必要ない理由】



※前回調査では「わからない」という選択肢がありません。

【図表 2.5.5 住民同士のつながりやきずなを深めることが必要ない理由（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	81	2	8	6	5	5	10	4	5	7	7	12	8
自分の問題は、自分で解決したいから	12.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	37.5
近所付き合いは、わずらわしいから	21.0	50.0	25.0	16.7	40.0	0.0	0.0	25.0	20.0	28.6	14.3	41.7	12.5
プライバシーが保てなくなるから	9.9	0.0	12.5	0.0	40.0	0.0	10.0	50.0	0.0	0.0	14.3	8.3	0.0
現在の生活で、とくに必要とは思っていないから	33.3	0.0	25.0	33.3	0.0	100.0	30.0	0.0	40.0	42.9	28.6	25.0	50.0
人との付き合いは苦手だから	6.2	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	14.3	0.0	8.3	0.0
地域社会の課題は、行政や専門機関が対応すべきだから	6.2	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	14.3	14.3	0.0	0.0
わからない	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	8.6	50.0	25.0	33.3	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
無回答	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0

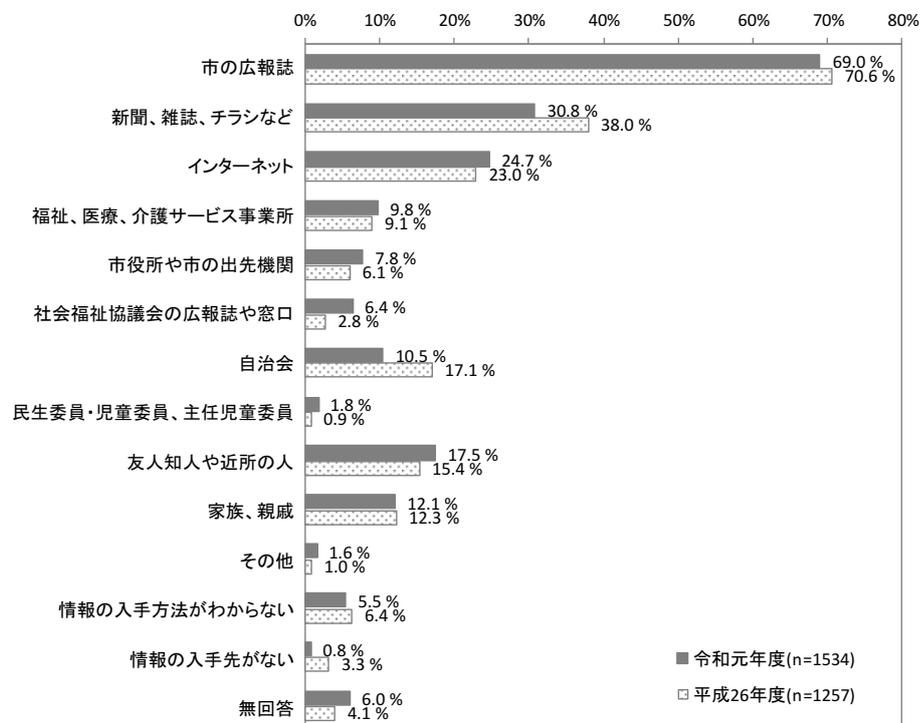
2.6 福祉行政について

問 31 福祉全般に係るサービスなどの情報の入手方法

あなたは福祉全般に係るサービスなどの情報をどのような方法で入手していますか。(複数回答)

- ・福祉全般に係るサービスなどの情報の入手方法については、「市の広報誌」が 69.0%で最も多く、「新聞、雑誌、チラシなど」が 30.8%で次いでいます。
- ・平成 26 年度調査と比較すると、「新聞、雑誌、チラシなど」が 7 ポイント減少しています。
- ・男女年齢別にみると、男女ともに 50 歳代以下で「インターネット」の割合が全体と比べ高くなっています。一方で、70 歳以上では低くなっています。

【図表 2.6.1 福祉全般に係るサービスなどの情報の入手方法】



※前回調査とは表現が異なる選択肢があります。

【図表 2.6.2 福祉全般に係るサービスなどの情報の入手方法（男女・年齢別）】

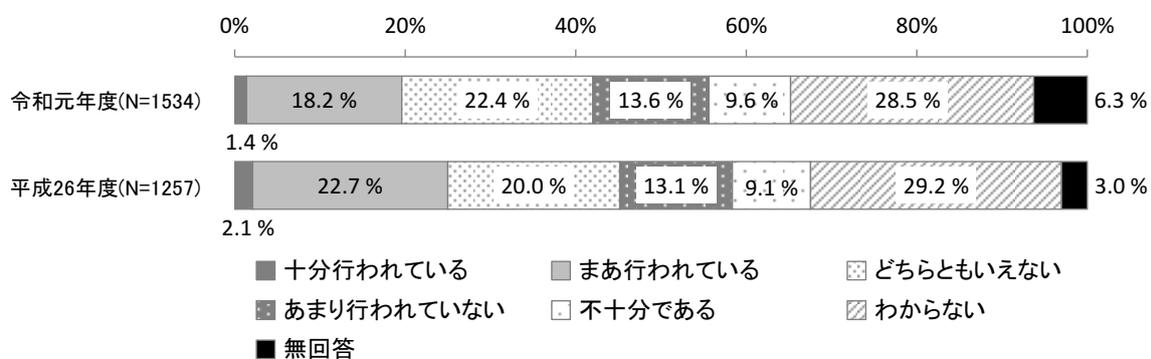
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
市の広報誌	69.0	27.0	46.0	63.6	69.7	72.1	75.9	40.6	71.4	76.9	73.0	83.3	63.4
新聞、雑誌、チラシなど	30.8	18.9	24.0	25.0	33.3	29.9	35.3	25.0	28.6	28.9	34.0	36.0	30.2
インターネット	24.7	45.9	50.0	45.5	48.5	23.8	8.5	40.6	44.2	37.2	38.3	11.8	2.6
福祉、医療、介護サービス事業所	9.8	2.7	10.0	6.8	11.1	12.2	12.1	4.7	5.2	5.8	7.8	10.2	13.1
市役所や市の出先機関	7.8	5.4	6.0	8.0	9.1	10.2	6.7	9.4	10.4	5.0	7.8	7.5	7.8
社会福祉協議会の広報誌や窓口	6.4	2.7	4.0	4.5	5.1	4.8	10.7	0.0	6.5	4.1	2.1	7.0	9.7
自治会	10.5	0.0	8.0	5.7	7.1	12.2	20.1	1.6	7.8	6.6	6.4	11.3	13.4
民生委員・児童委員、主任児童委員	1.8	0.0	0.0	0.0	1.0	1.4	2.7	0.0	0.0	0.8	0.7	1.6	4.9
友人知人や近所の人	17.5	8.1	8.0	10.2	9.1	17.0	12.9	7.8	18.2	24.0	23.4	23.7	21.6
家族、親戚	12.1	16.2	16.0	6.8	6.1	12.9	12.5	15.6	18.2	19.0	10.6	7.5	13.4
その他	1.6	0.0	0.0	1.1	2.0	1.4	0.9	4.7	1.3	4.1	0.0	2.7	1.1
情報の入手方法がわからない	5.5	18.9	12.0	10.2	3.0	7.5	2.7	15.6	7.8	4.1	7.8	1.6	3.0
情報の入手先がない	0.8	5.4	8.0	1.1	2.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.5	0.7
無回答	6.0	0.0	2.0	5.7	2.0	6.8	8.0	3.1	2.6	1.7	3.5	2.2	14.2

問 32 まちぐるみの福祉活動に関する評価

あなたは、江別市では、市と住民（自治会、関係団体、機関、企業を含む）が一体となり、協力してまちぐるみの福祉活動が行われていると思いますか。（単数回答）

- ・まちぐるみの福祉活動に関する評価については、「わからない」が28.5%で最も多く、「行われている」（「十分行われている」、「まあ行われている」の合計）の回答は2割弱となっています。
- ・平成26年度調査と比較すると、「行われている」（「十分行われている」、「まあ行われている」の合計）は5ポイント減少しています。
- ・男女年齢別にみると、男女ともに29歳以下で「わからない」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.6.3 まちぐるみの福祉活動に関する評価】



【図表 2.6.4 まちぐるみの福祉活動に関する評価（男女・年齢別）】

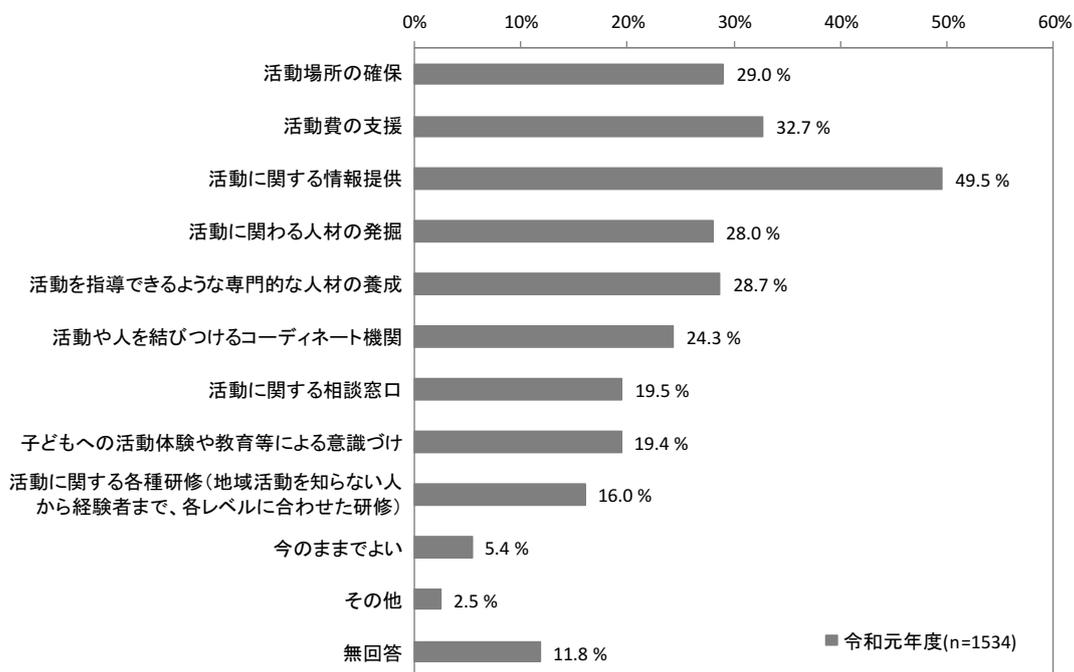
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
十分行われている	1.4	2.7	4.0	1.1	0.0	2.0	4.0	0.0	1.3	0.0	0.7	0.0	1.5
まあ行われている	18.2	10.8	4.0	13.6	16.2	15.0	27.2	17.2	22.1	19.0	10.6	21.0	20.5
どちらともいえない	22.4	18.9	22.0	21.6	26.3	23.1	23.2	25.0	20.8	24.8	17.0	22.6	21.6
あまり行われていない	13.6	8.1	16.0	15.9	15.2	9.5	14.3	4.7	9.1	19.8	19.9	15.1	11.6
不十分である	9.6	5.4	14.0	18.2	14.1	15.0	6.3	7.8	10.4	5.8	12.1	5.9	7.5
わからない	28.5	54.1	38.0	23.9	26.3	29.9	17.0	42.2	35.1	29.8	36.2	31.7	27.3
無回答	6.3	0.0	2.0	5.7	2.0	5.4	8.0	3.1	7.3	0.8	3.5	3.8	16.0

問 33 地域活動を活発にするために力を入れるべきと思うこと

今後、地域共生社会を目指していくうえで、地域活動を活性化するために力を入れるべきことは何だと思いますか。（複数回答）

- ・地域活動を活発にするために力を入れるべきと思うことについては、「活動に関する情報提供」が49.5%で最も多く、「活動費の支援」が32.7%で次いでいます。
- ・男女年齢別にみると、男性では40～59歳で「活動費の支援」、女性では40歳代以下で「子どもへの活動体験や教育等による意識づけ」、また40～59歳で「活動や人を結びつけるコーディネート機関」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.6.5 地域活動を活発にするために力を入れるべきと思うこと】



【図表 2.6.6 地域活動を活発にするために力を入れるべきと思うこと（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢												
		男性							女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268	
活動場所の確保	29.0	32.4	30.0	31.8	39.4	27.9	30.8	26.6	29.9	29.8	30.5	25.3	25.0	
活動費の支援	32.7	40.5	40.0	44.3	43.4	33.3	28.6	32.8	41.6	40.5	36.2	26.9	22.4	
活動に関する情報提供	49.5	59.5	58.0	47.7	58.6	50.3	47.8	54.7	58.4	53.7	53.2	50.0	37.3	
活動に関わる人材の発掘	28.0	27.0	24.0	31.8	37.4	28.6	25.4	18.8	27.3	33.1	36.9	27.4	22.4	
活動を指導できるような専門的な人材の養成	28.7	27.0	32.0	23.9	33.3	29.9	29.9	20.3	27.3	34.7	32.6	25.8	27.6	
活動や人を結びつけるコーディネート機関	24.3	21.6	22.0	27.3	37.4	27.9	18.3	21.9	28.6	35.5	39.0	19.9	13.1	
活動に関する相談窓口	19.5	29.7	14.0	22.7	27.3	16.3	22.8	15.6	11.7	24.0	21.3	15.1	17.2	
子どもへの活動体験や教育等による意識づけ	19.4	21.6	34.0	27.3	23.2	20.4	8.9	32.8	41.6	29.8	16.3	17.2	9.3	
活動に関する各種研修(地域活動を知らない人から経験者まで、各レベルに合わせた研修)	16.0	8.1	6.0	23.9	20.2	15.0	14.3	10.9	11.7	19.0	19.9	16.1	16.0	
今のままでよい	5.4	10.8	8.0	4.5	3.0	4.1	6.7	10.9	5.2	6.6	6.4	4.8	3.7	
その他	2.5	2.7	2.0	3.4	2.0	2.0	2.2	1.6	5.2	0.8	2.1	3.2	3.4	
無回答	11.8	0.0	2.0	6.8	5.1	7.5	16.5	7.8	2.6	1.7	7.1	9.7	29.1	

- ・支援活動に“現在参加している／参加したことがある”人では「活動場所の確保」「活動費の支援」「活動を指導できるような専門的な人材の養成」の割合が全体と比べ高くなっています。また、“参加したことがないが、機会があれば参加したい”人では「活動に関する情報提供」の割合が全体と比べ高くなっています。

※“現在参加している／参加したことがある”人は、問21で（地域活動やボランティア活動などの支援活動に）「現在参加している／参加したことがある」と回答した人を意味している。“参加したことがないが、機会があれば参加したい”人も同様です。

【図表 2.6.7 地域活動を活発にするために力を入れるべきと思うこと（支援活動の参加の有無別）】

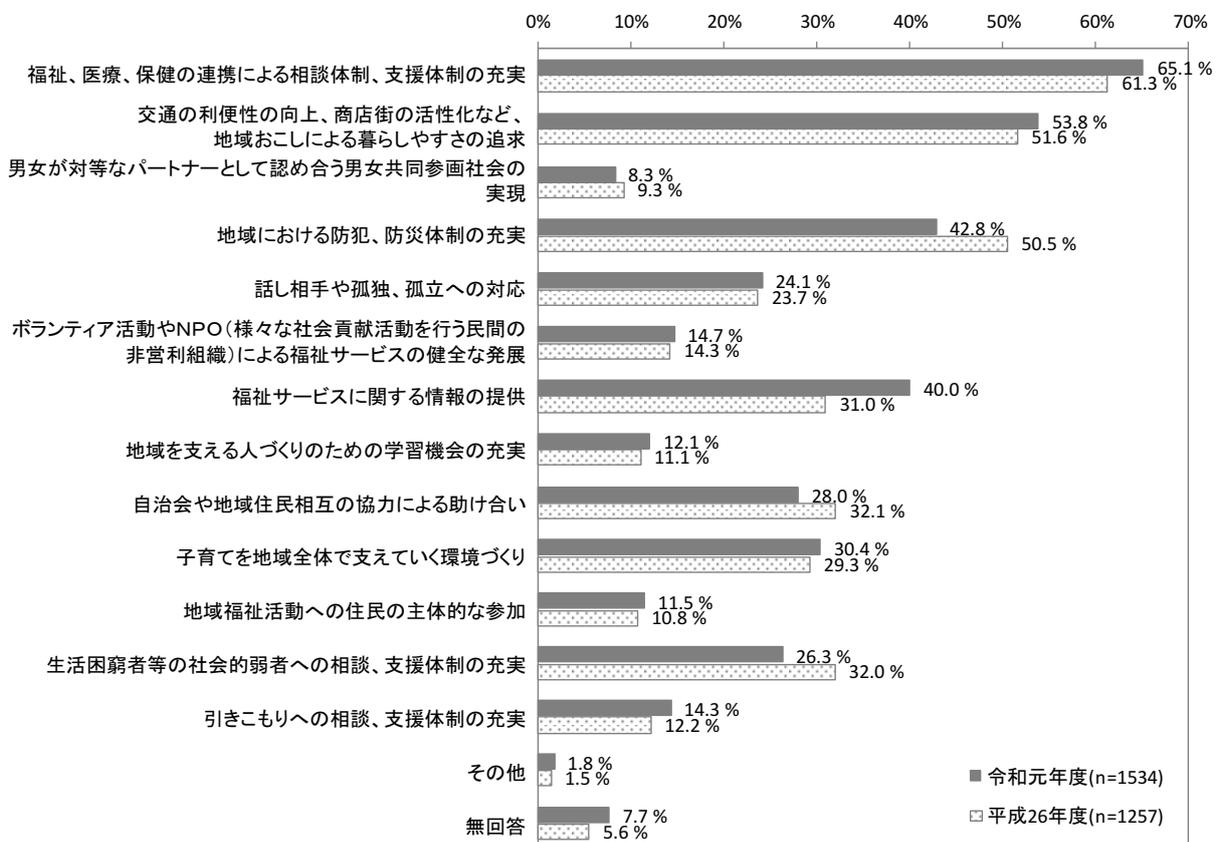
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	支援活動の参加の有無		
		現在参加している／ 参加したことがある	参加したことがないが、 機会があれば参加したい	参加したことがなく、 今後も参加するつもりはない
回答者数(人)	1534	533	428	514
活動場所の確保	29.0	36.0	30.4	22.4
活動費の支援	32.7	38.6	35.5	25.3
活動に関する情報提供	49.5	53.3	55.8	42.6
活動に関わる人材の発掘	28.0	32.8	28.5	22.2
活動を指導できるような 専門的な人材の養成	28.7	36.4	25.5	24.1
活動や人を結びつける コーディネート機関	24.3	29.1	28.3	18.1
活動に関する相談窓口	19.5	19.3	20.1	19.5
子どもへの活動体験や 教育等による意識づけ	19.4	20.8	24.1	14.4
活動に関する各種研修 (地域活動を知らない人から経験者 まで、各レベルに合わせた研修)	16.0	20.1	18.0	10.9
今のままでよい	5.4	3.2	2.3	10.5
その他	2.5	2.3	0.5	4.9
無回答	11.8	9.2	8.6	13.8

問 34 住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切なこと

住み慣れた地域で、安心して暮らしていくには何が大切だと思いますか。(複数回答)

- ・住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切なことについては、「福祉、医療、保健の連携による相談体制、支援体制の充実」が 65.1%で最も多く、「交通の利便性の向上、商店街の活性化など、地域おこしによる暮らしやすさの追求」が 53.8%で次いでいます。
- ・男女年齢別にみると、男性では 29 歳以下及び 40 歳代で「男女が対等なパートナーとして認め合う男女共同参画社会の実現」、女性では 30 歳代で「福祉、医療、保健の連携による相談体制、支援体制の充実」及び「地域における防犯、防災体制の充実」の割合が全体と比べ高くなっています。また、男女ともに 30 歳代以下で「子育てを地域全体で支えていく環境づくり」の割合が全体と比べ高くなっています。

【図表 2.6.8 住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切なこと】



※前回調査とは表現が異なる選択肢があります。

【図表 2.6.9 住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切なこと（男女・年齢別）】

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
福祉、医療、保健の連携による 相談体制、支援体制の充実	65.1	73.0	62.0	65.9	74.7	64.6	66.1	54.7	75.3	66.1	69.5	64.0	57.1
交通の利便性の向上、商店街の活性化など、 地域おこしによる暮らしやすさの追求	53.8	54.1	62.0	62.5	55.6	45.6	50.0	60.9	61.0	59.5	59.6	52.2	50.4
男女が対等なパートナーとして認め合う 男女共同参画社会の実現	8.3	18.9	18.0	20.5	12.1	2.7	7.1	14.1	15.6	7.4	5.7	4.8	4.1
地域における防犯、防災体制の充実	42.8	45.9	46.0	45.5	55.6	45.6	39.7	42.2	53.2	45.5	41.8	44.1	32.5
話し相手や孤独、孤立への対応	24.1	21.6	34.0	28.4	25.3	15.6	20.5	28.1	27.3	28.9	21.3	25.8	23.1
ボランティア活動やNPO(様々な社会貢献 活動を行う民間の非営利組織)による 福祉サービスの健全な発展	14.7	13.5	16.0	15.9	19.2	8.8	14.7	14.1	15.6	19.0	19.9	12.4	11.9
福祉サービスに関する情報の提供	40.0	29.7	32.0	35.2	47.5	39.5	43.3	29.7	36.4	28.7	49.6	41.9	42.2
地域を支える人づくりのための学習機会の充実	12.1	16.2	10.0	17.0	19.2	9.5	12.1	10.9	16.9	15.7	14.2	11.8	6.3
自治会や地域住民相互の協力による助け合い	28.0	16.2	28.0	23.9	31.3	31.3	37.1	23.4	24.7	25.6	15.6	27.4	29.9
子育てを地域全体で支えていく環境づくり	30.4	56.8	60.0	33.0	32.3	20.4	22.8	65.6	70.1	39.7	26.2	24.7	14.9
地域福祉活動への住民の主体的な参加	11.5	0.0	22.0	15.9	15.2	9.5	15.2	9.4	10.4	6.6	11.3	11.8	9.3
生活困窮者等の社会的弱者への相談、 支援体制の充実	26.3	21.6	20.0	27.3	37.4	23.1	24.6	23.4	31.2	37.2	27.7	26.9	19.4
引きこもりへの相談、支援体制の充実	14.3	13.5	18.0	25.0	21.2	9.5	15.6	7.8	19.5	18.2	12.8	9.7	9.7
その他	1.8	0.0	6.0	3.4	1.0	1.4	1.3	0.0	5.2	0.8	2.1	1.1	2.2
無回答	7.7	0.0	2.0	8.0	4.0	7.5	11.2	3.1	2.6	0.8	5.0	4.8	16.4

3 地域福祉に関する意見・要望

※回答者が記入したコメントをおおむね原文のまま記載しているため、誤字が含まれていることがあります。また、読み取ることができない文字を■で表現しています。

※個人を特定する情報の記載などは内容の一部を修正して掲載しています。

※一つのコメントに複数の分類項目の内容が記載されている場合は、各分野に記載しています。

3.1 医療・介護・福祉等に関すること

(1) 子育て支援全般に関すること (60件)

中学校が自宅からかなり遠く通学が困難である。少しでも近くにあると良い。
就学前は保育時間も朝早くからやっており、日曜日の出勤にも対応できるよう保育サービスが充実していたが、4/1～小学生になったとたん保育時間(学童)が遅く、日曜日も預け先がなく、でも小学1年生の子を朝から晩まで一人にする事もできず、退職せざるをえない状況になり困った。小学低学年のうちは、留守番は難しいのもう少し学童が充実していた方がいいと思う。
私は子育て世帯のため、地域での子育て支援事業等については充実しており、助かるなぁと感じていました。
江別太小では児童の放課後預かりしてもらえる施設が1ヵ所しかなく定員も少ないので、仕事を続けることができなかつた経験があります。新しく新築した時、なぜ学校内学童を作らなかったのでしょうか？今は共働きが当たり前の時代です。女性が安心して仕事を続けられるようなサービスが不足しています！！小6まで預けられる学童を江別の全ての学校(学校区内の学童等でも)に設置してほしいです。
各家庭・個人の収入に関わらず、平等な支援・援助をすべき。高収入の家庭でも、子育てには多額な費用がかかるので、高所得者はそれだけ納税額が多く市の税収に貢献しているので低所得者に限らず、子育て世帯には同額の支援をすべき。
子供の医療費の補助の充実
子育て世帯の金銭的負担の軽減→保育園へ預けて働くことを考えた時に、主人の収入額から決まる保育料ではパートタイムの選択はできなかった(保育料=収入になりそうだった)。そのためフルタイムで働いているが、毎日帰りは19時を過ぎることが多く、子どもたちとゆっくり遊んだりして過ごすことができない。両家とも実家は飛行機でしか行けないため、普段頼るところもない。少子化のこの時代に2人育て、大学費用も自力で貯めようとしているのに、たかが年収650万くらいで保育料2人目無料でないのは苦しい。決して裕福ではない。10月からの制度に期待はしますが、またどこかの年収で線引きするとしたらその年収の生活実態の把握と、段階的な線引きで該当者がある程度納得できるものにして下さい。
もう少し子育て支援を充実させてほしい(例：学童の無償化や数の確保、保育園の増設、高校生までの医療費の無償化等)
学童を行っている場所が少なすぎるので増してほしい。共働きでの子育ては、大変。学校の夏休み、冬休みもあり、土、日もある。子どもを安心して預ける事のできる場所がほしい。
この頃は核家族で老人を見ると泣き出す子供もいると言われるが子育てをしながら働く親は保育園が頼りです。でも保育士さんの不足から人数も多くは預かれないと言われていて。そこで老と幼を両方預かる場所があれば、子供にも老人の気持ちにも良い。少しの時間でも老人が保育士さんの見守りの手助けが出来れば又、遊びの相手が出来たら子供が育つ上での精神にも良い気がする。是非検討して下さい。何人もの子供を育てて来て元気な老人を活用してみてもどうでしょう。
子育ての一時預かりが1歳6ヶ月からと(かなり遅い)出産後すぐに働ける環境にしてほしい(安く)江別市は出産しても何もお祝金がないのが悲しい。子供を金銭的に不安なくストレスなく出産できる町を目指してほしい。すごく力を入れて取り組んでほしい。きちんと仕事して下さい。
共働きで子供を充分に見てあげられる時間がなかなかとれない。江別は高齢者の方も多と思うので、例えば通学、下校時等に在宅している(元気な)高齢の方が、家の前にいてくれるだけでも防犯につながる事もあると思う。善意だけでは難しいので、報酬があれば責任もやりがいも出てくると思います。安心して子育て出来る環境を希望します。
〈子育てについて…〉医療費の助成(無料)の子供の年齢の引き上げ。
少子化対策として、子供がいる家庭に対しての支援を手厚くする。特に金銭面。夜遅くまで預かってくれる保育園。(夜間保育)
子育て支援→一親家庭の学習において支援制度の拡充を進めて頂きたいです。
子供が在学中(小、中)の時の特別支援に関わる体制がとても弱いというか、薄いというか…。他市からやってきて江別は整っていないと思いました。以前住んでいたところは学校、医療機関、教育委員会のつながりが良かったので。(特別支援学級、普通学級)
いつも市民の生活向上の為にありがとうございます。特別な支援が必要な児童の学習や生活(学校内の)の支援がもう少し充実すればきめ細かい教育につながるのではないかと思います。(教育補助員や支援員さんの配置など。)←教員免許を持ってない方だと学習にはタッチできないかもしれませんが…。

働く家庭です。(父母共に)小学校が終わって真っ直ぐ行ける会館を作ってほしいです。長期休みの時は弁当を持って過ごせる時間も作ってほしいです。(カギを持たせていないため)札幌から越してきて思いました。(児童会館の様なもの)
子どもがひとりで行動しても安全な街にしてほしい。学校に行く、みどりのおばさんを多くしてほしい、心配。
江別市に住んで約 20 年が経ちました。現在、子育て真っ最中ですが子育て支援センターの充実などにとっても満足しています。
病児保育室がたくさんほしい(あるのかもしれないが、どこにあるのか分からないのでパンフレットがあれば嬉しいです)
福祉全般を充実させる事はもちろん必要だと思いますが、今一番気になっているのは子供の貧困問題です。江別でも貧困状態の子供が増えていると聞きました。大麻では子供食堂があるようですが、江別全体では少ないと思います。少しずつでも増えて、1日1食でも栄養のある食事、楽しい食事ができたら…と思います。そのための支援などはどうなっているのか予算を回すことなど、考えてほしいです。待機児童の問題も大事ですが、小学校に入ってからの子供たちの支援も、考えてほしいと思います。
高齢者、障がい者を支える家族や子育て中のお母さん、子育てと仕事を両方もつ親の、身体と心のケアにもっと目を向けてほしい。
学童について…住んでいる地域で利用する学童の環境、料金、時間に差があり、保育園から小学校へ進学することで母親が働きにくくなるケースをよく耳にします。延長料金が高く、結局暗くなってから家で留守番をしている子もいます。学校内に併設されている市町村に住んでいた事がありますが、安心だけでなく年に負担が数千円といった金銭的な面でも良心的でした。江別市でそこまでは難しいのは理解できますが、もう少し…改善されないものでしょうか。
現在乳幼児2人を育てています。周囲で様々なトラブルにより不登校やいじめなどの状況になった方の話を聞くと、まず親はどのような行動をとるべきか相談先はどこになるのかなど、皆さん手探りの中進んでいるようです。
小学校での金銭面的な支援がもう少しあっても良いと思う。医療費も含めて、金銭的にきついです。
子供ファーストで！
小学校のミニ児童会館が12時~13時までお昼休みの為、一度家に帰らなければならない。普段は子どもが学校に行っている間の時間でパートに出ているので、学童保育は利用していない為、夏、冬、春の長期休みは、子どもの預け先がない。札幌市のように、お弁当持参でミニ児童館が利用できるようになると、大変助かる。(長期休みの間だけでも。)
近隣の町と比べ、江別市は子育て支援が少ないと感じる。
「子育て中の母親が働きやすいように…」と保育園など子どもを預けることなどばかりが言われていますが、子どもは親と一緒に成長していくことも大切だと思います。人に預けるより自分で育てたいと考えているお母さんも多いと思います。共働きを望んでいる人ばかりではないこと理解し、支援していくことも必要だと感じます。
市内全ての小学校にミニ児童館を設置してほしい。放課後や休日に子供の心配をせず働く環境を！！
初めて赤ちゃんを産んだ方に、解りやすい子育て教室などをもっと少し多く開けば良いと思う。教室に出る親子はだいたい決まった人ばかりになるので、参加した事のない人にハガキを送るなどアピールすると初めてのお母さんにも行きやすくなるのでは…？
私の子供は普通に学校に通っていますが、子供の友達是不登校で長い間学校に行っていません。うちの子とは月に数回少なくとも会えています。が、他の友達とは会いたくない状況です。いじめにあって不登校になったわけではないらしいのですが…。担任は毎週お便りを届けてくれるそうですが、ほとんど働いているお母さんの帰宅前に友達と会って少し話して帰るそうです。子供の確認はOKかもしれませんが、親が孤立していつているように私から見ても思えます。他の不登校の子供を持つお母さんも学校の先生からの「まだ来られないの？」という言葉に深く傷ついていました。一番不安なのは家族なのに…。本人なのに…。先生の仕事が大変なのはよくわかります。でもこれだけTVなどで不登校のゴールは教室ではない！と話されているのに学校側の意識の違いに驚いています。学校の先生に不登校に対する考え方、とらえ方、言葉かけなどの勉強会を求めたいです。どのクラスにも不登校の子がいる時代です。私でさえ、時代は変わったと思っています。不登校の子どもの親が一番悩んでいます。どうか、孤立しない社会を作ってもらいたいです。よろしくお願いします。内容で私が誰かわかるのは困ります。すみません。
子育て支援の重要性
江別市はなぜ学童保育が高額なのでしょう？札幌市は最高で¥2,000ですが、江別では4倍です。夏休みのみの利用もできません。子育てしやすいとは言いきれないと思います。
市内小学校において、登下校時刻を個々にお知らせする(携帯に個人個人に連絡が届く)サービスを実施している所と、そうでない所がある。全ての小学校で実施したらよいと思う。よい所は学校で差が出ることなく行っていいかどうか。子どもを守ることがまずは最優先ではないかと思えます。弱者を助ける街作りが大切だと思います。
子育ての面では、孫(双子)を預かる事があった(0才~3才)が「ぼこあぼこ」が出来て、それからは随分楽になったと思えます。

核家族化で子育てに不安を抱いている母親が多い。産後うつ、1才迄の子育ては大変です。8月の広報では子育て世代サポート新設されました。①～④迄あり、良かったなーと思いました。しかし保健師が中心。もっと助産師をと思いました。
子供が安心して地域ですごせる取組みを行ってほしいと思います。これからもよろしくお願い致します。
子育てに力を入れているとよく聞かすが、保育園の待機児童も多く、何点足りなくて入園不可だったのかの点数の開示がされないのも問題だと感じる。同じ家族構成で職種も一緒なのに片方は第一希望の保育園に入園でき、片方は希望していないところに入園というのは少し納得がいかない。保護者が納得できるように情報を開示できるような入園選考にしていきたい。放課後児童クラブは少なすぎると思う。行政でもっと力をいれて増やしていくべきだと思う。増やすだけではなく、質もしっかりと高めてほしい。先日、見学した所は明らかに人手不足でいつ事故が起きてもおかしくない状況であった。行政でもっと力をいれていくべきだと思う。
(人格の形成)教育の充実(小学校、中学校)。大人は子どもの生活のカガミ。集団のきまり、基本的行動の徹底。
10月から保育園無償化になると聞かすが、やっとか…と思う。江別は特に、医療費がかかる。(子供の空気も臭く、水もマズイし、高い。あまり子育て向きの街とは言えない。
子どもの医療費助成、通院の時の助成を15才まで引き上げてほしい。
子育て支援の体制は小さな子供(5才くらい)までは充実するよう努力されていますが、中学生までいこうにしてほしい。例えば増加している不登校の子供たちに学校へ行けている子供たちと同じくらいの教育スペースとなるような新しい所を作ってほしい。学校では先生の数が足りないようで、不登校の子はほっとかれる対応に不備がある。江別市としても、きちんとしたほうがいい。
子供達も、通学時にも個人情報??で学校の指導もあるのか全く町内近所の人にも「あいさつ」がない。こんな孤独な生活(親-子-学校-社会)これが、ひきこもり・いじめになっているのではないか。
高齢者、障害者、子育てで本当に困っている人はいるのか?声を出さないとわからない。わからないのは無いと同じ。
放課後、小学生が安心して集まれる様な児童会館が欲しい。
子育て…まずは札幌と同レベルの支援を。それから。保育、福祉職の皆さんのお給料をもっと上げて下さい。
子供達にも社会に奉仕する活動の重要性を早くから教えてほしい。(たとえば夏休みとか冬休みに)
少子化の割に保育所へ入りにくい。共働き世帯も子育てしやすい体制がほしい。
子育てに悩むお母さんが相談しやすいご近所にしていくには?方法を考えて下さい。
保育園の一時預りの1日の料金の引き下げ&固定化。
子供一人一つの習い事の無償化。
子供を育て教育するのは国の責任で進める。保育所・幼稚園・小中学校・高校・大学は医療費、学費すべてを国が保障することである。諸外国でやられている。経済大国日本で出来るはず。
お年寄りなどは特に、お世話や迷惑をかけたくないという気持ちが結果孤立を招くのでしょうか。障害者や障害者の家族、共働きの子育て世帯についてもやはりサービスとして利用できることが一番の心の支えになるのだと思う。
子育ては若い人達が、高齢者が多い地域にリノベーションで入りやすいように JR の近くに駐車場を多く作ってほしいし、保育園も入りやすいようにしてほしいと思います。
子育ては金がかかりすぎるので自治体で教育に半額補助する。
中学校が遠いので通学専用のバスを出してほしい。小学校のプールが汚すぎるので改修又は建て直し又は授業見直ししてほしい。虫で汚すぎて授業中止とかおかしいと思います。
将来ある子供を大切に育てる環境(いじめをなくして)
子育ての教育の無償化、自立した人間への形成、良い悪い事の区別を教える教育、社会の成立を教える教育。

(2) 医療に関すること (41件)

市立病院が機能していない。北大の1内が中心的な治療していた時は、研修病院としても、外科、整形、耳鼻科(札幌)もベテランの Dr が居て、安心して受診出来たが、今は札幌で診療を受けている。高齢者で心臓の悪い患者は、循環器の医師が居ないので溪和会へ移送するとか?これは市長が小児科の医師を院長にしたから…?市長は責任を持って、安心な病院をつくれ!!
豊幌には店も病院も有りません。
私も高齢者の1人です。やはり医療関係が心配です。
高齢になると何らかの病気になります。その際、病院に行くのですが、個人病院では薬を沢山投与したり、悪くなると別の個人病院に廻し挙句に総合病院に紹介される。高齢者も今迄国や市を支え生きてきたのです。もっと、大切にしてください。江別医師会は、どうなっているのでしょうか。安心して治療して頂ける医療体制であってほしい。たらい回し医療にならないでほしい。
子供の医療費をもう少し免除してほしい!! 4月から小学校に入学した子供が何度も病院にかかっているから医療費ピンボーになります。
子どもの医療費負担を軽減してほしい。
市立病院の悪評高く現在は全く通院していません。個人病院の通院が2ヶ所3ヶ所となり交通費もかか

り個人病院も2～3時間の待ち時間となっています。市立病院を改善することが優先と思います。
文京台地区は、医療施設(病院)、保健施設、福祉施設、商店等への距離が遠く、かつ交通機関も少なく、江別市内の施設に行くよりも新札幌へ行く方が便利なところであります。
江別市立病院が他に行く所がない人(病名があるのに何らかの理由で民間がうけない患者さん)を入院させてほしい。ベッドを空けておくよりは収益になり両者の益となると思う。患者さんを選ばないでほしい。
江別市立病院の体制をきちんとしてほしい。
精神病患者の隔離
子どもの医療費の助成年齢を上げて頂きたいです。毎日、服用しなくてはいけない薬があったり、小さいうちは(小学生)熱、ケガ、発疹、咳などいろいろな場面での病院の受診が必要です!!医療費がかかりすぎだと、思うように受診もしてあげられない。よろしくお祈りします。
市立病院の充実した体制整備を望みます。
介護、医療共に予防に力を入れるべきである。年齢、性別等に関わらずあらゆる人の交流する場や機会の提供、その中から体験的に予防の重要性を学ぶべき。
医療体制の充実(市立病院)
江別市立病院の早急な立て直しを望みます。
市立病院は赤字が続くその穴うめに税金を使うということは、もう少し考えて黒字になるように頭のいい人が役所にまた市議にいると思う。税金ドロボーと言われないように頑張ってください。それができなければ皆やめてしまえ。
医療機関の経営安定を望みます。(市立病院)高齢で受診する科が多く家族の負担もあり困ります。安心して暮らせるまちづくりの第一だと思います。
子供の医療費無償化(小、中学生まで)
小学生は医療費がまだまだかかるので支援が必要だと思います。
病院へはかからない。(特に入院はしない)
他の市では、子供の医療費無料などやっているが、江別はないので、今後暮らしていく上で、不便な地域と感じます。
市立病院の充実。
産婦人科(お産を扱っている)が市立病院しかないことは深刻な問題だと感じます。
健康への不安が増加するので、ガン検診機会の増加やガン検診の積極的受診のさらなる広報活動。
在宅、施設、病院の連携がスムーズに行く江別市の福祉は、より充実すると思います。限られた市の財政で安心して暮らせるまちづくりには「市立病院のあり方」についての今後の気になります。役割を明確に。
子育てについて…医療費の助成(無料)の子供の年齢の引き上げ。
江別には、大きな医療施設が少ないと思う。安心出来る医療施設を充実してほしい。
よく聞く話で病院での長期入院が出来なく、ある程度の期間になったら退院させられる様な話を聞いた事がありますが本当でしょうか。何かの機会があったら回答願います。
健康年齢を高くしていくためにも予防医学の充実が必要。市立病院の赤字をネガティブな意見にせず、他の医療機関では受けられない高度な医療、高度な検査機器を導入し、他の地域からの患者からも必要とされる医療機関になってほしい。
病院も時間が午前のみですし、緊急も札幌に運ばれ安心できません。
市立病院にアドバイザーを入れて病院を活性化させる事で医療を充実させ、市全体を健康にする。
小学校での金銭面的な支援がもう少しあっても良いと思う。医療費も含めて、金銭的にきついです。
市立病院をちゃんとしてほしい。とてもすばらしい施設なのに、悪評しか聞かない為。
もうひとつの医療(特に市立病院の運営)に関する懸念は、もうスペースがないため今回は割愛します。
医療費に関しても隣の札幌市と比較しても差がある。入院費もそうだが、普段の医療費も助成して頂けたら相当負担軽減になると思います。(せめて小学まで)
子供の医療費を高校生迄無料に。
市立病院で働く人達が定着できる環境作り 役場も大切だが市立病院の位置付けは高い
子どもの医療費助成、通院の時の助成を15才まで引き上げてほしい。
最近市立病院の赤字が問題になっているが病院の努力がみえない!
プリモさんがお休みの兼ね合いで市立病院の産婦人科が混みすぎている 市立病院のDrが辞めていくのでシワ寄せがきているのが大変です…。

(3) 高齢者福祉・障がい者福祉に関すること(94件)

ひとり暮らしの高齢者ですが誰からも声をかけられた事はありません。(安否確認等)今は元気でおりますが不安です。自らひとり暮らしであることを市に伝えなければならぬのでしょうか。
福祉で働く人達の働き易さ、収入の改善、その事による人手不足への対応、結果的に良くなる感じる。札幌市の様に70才から交通費の割引制度があれば良い。
高齢者の認知症検査の定期無料検診(既にあつたらすみません。)
福祉を充実している国、県、市町村等を参考にして、最高の福祉の市に期待しています。高齢者は皆、

最高の福祉の施策待っているはずですよ。
昨今高齢者の車の事故が多く免許返納者も多く返納者に対するの援助の施政がどうなっているのか疑問。
高齢者は80才で免許を返上する。交通手段としてハイヤー、バス等半額割引キップを各自自治体が発行すれば高齢者事故が5割減る。
高齢者の運転免許の返納にあたり、通院、買い物等月額低額のフリーバスを発行しバスを利用できるサービスを検討してほしい。
札幌は交通費(地下鉄)、高齢者が安く購入できるシステムがあるので江別もバスなど何かそういう事があると利用者も増えると思います。
高齢者が安心して生活が出来る様に、年金で十分老人介護施設に入れる様な施設を今よりも増設してほしい。
高齢者の自動車免許が問題になっている→(バスやタクシー補助券などでサポートが欲しい。バスの本数増やしてほしい(特に医療機関近く))
まだ江別に住んで日が浅いので分からないですが、高齢者の方の役割の再獲得。
高齢者の免許の返納を安心して出来る様タクシーチケットとかバス料金の手助けをしてほしい。札幌市より、江別市は遅れている。
高齢化により特別養護ホーム(公的)が少ない。
時々市役所から福祉に関する通知が送られてくるのですが見ても内容がよくのみこめなくて結局そのままにしまったり手続きをしないで損をしたりするので、そんな時は電話をして聞けばいいのか? どうしたらいいのかわかりません…。
高齢ドライバーによる交通事故が増え、免許返納を考える高齢者が増加しているとのこと。それをふまえて地下鉄やバスの敬老優待カードの発行を早急に検討して下さい。江別市は札幌市じゃないのは重々承知ですが札幌市と協議して是非実現させてほしいです。大麻から野幌や江別に向かうバスは路線、便数も少なく不便で使い勝手が悪いです。大麻の人は買い物、病院などは札幌に出る人が多いです。年金暮らしの高齢者が外出するには交通費は大きな負担です。外出の交通費が軽減されることで気軽に外出する機会が増え、歩くこと、人と交流することで健康維持、認知症予防、医療費の抑制にもつながると思います。
運転免許返納(高齢者)後の対応。(無料バス券・タクシー券など)
障がい者手帳利用の充実(タクシーチケットの配布、バス代の割引など)
高齢になり、不自由になり1人で生活ができなくなった場合、誰でも(お金がなくても)すぐに入居でき介護してもらえ施設が順番待ちではなくあれば、一番安心だと思う。
転移してきたので、高齢者、障がい者に対するどのような組織や団体があるのかどのように活動しているか支援しているのかよくわかりません。
高齢者がひきこもらないように交通費の援助が欲しい。障害者が普通に不便なく外出できる環境づくりを。
高齢者の車の事故が多発していますが免許を返納した場合出掛ける交通手段としてバス、タクシー等の利用になると思います。札幌では年間¥30,000の交通費が支給されているとの事又旭川では運賃は¥50のみ出す様になっていたと思います。江別ではこういう補助はないのでしょうか?
私の母は現在介護施設に入居して歩行器を使って生活しています。頭はしっかりです。私は車の運転はできません。それで車いすで近くを散歩したりしますがたまにちょっと離れた商業施設などに気分転換に連れて行ってあげたいのですが、その時の天気や本人の体調を見てからなので予約の必要な介護タクシーは金額の事もちょっと頼めません。それで普通のタクシーで行きたいと思っていますが、車いすを畳んでトランクに入れてもらえるのか? 運転手さんに嫌がられないのか? などと考えるとまだ実行できていません(商業施設にも何台か車いすが置いていますがその時によってない時が)そういう事が気軽にできたら母も外の空気や外部の人のとの会話も楽しめるのと思う毎日です。いずれ私も同じ立場になると思うと考えてしまいます。
障害者の通所、交通費の無料化をお願い申し上げます。
デイサービスなど通い始めると毎月一回自宅でお話をするとその事を聞きました。それは嫌だなと思います。その他は分かりません。
福祉等、行政(市)が取り組んでいると云う顔(姿勢)が全然見えてこない。昔と何も変わっていない。
低料金の高齢者住宅を作ってほしい。
困ったと云う状態に陥った時に気軽に相談できる窓口や人がいると安心で幸せだと思う。
江別市以外に住んでいる親を、江別市に引き取った時に行政がどれだけ親身になって!! 対応してくれるか不安である。対応が人により、部署により違って来るのは困ります。
高齢者の交通事故の多発が大きな問題となっている昨今、免許証の返納をより向上させる必要がある。そのための支援策として市が主体となり交通網の利便性の向上と「高齢者パス」を新設してはどうか。
高齢者の生活の安定のためには、収入の確保があるが、年金では生活の不安がある。働けるなら働きたいが、働く場所がない。高齢者の雇用を増やしてほしい。
高齢になると車も使用出来なくなり、交通(足)の確保が今後ますます必要です。バスでは不便が多いのです。買い物、病院、ちょっとそこまで行きたいなど格安で例えば小型の乗り合いタクシーのようながあれば便利で大いに利用したいのですが、普通タクシーでは料金が高すぎて。年金者や高齢者には無

理です。バスは決まった時間とコースしか通りませんので利用出来ません。なんとか検討していただけないでしょうか。本当に困っています。高齢者が家に引き込まないためにもどうぞよろしくね。
高齢者、障がい者(精神も含み)が外出しやすい環境づくりが必要だと思います。前提の1つは交通手段です。他市町村のように交通費補助、コミュニティバスによる運行を希望します。
高齢者に対する福祉の向上が無い。
全体的に満足して生活しております。困った時も市の窓口にお聞きしようと思っており、親切に答えていただいております。高齢となり、1つ気づいたのは、在宅老人を家族の外出時などちょっと(2~3時間)預かってくれる託老所があったらいいなということです。普段のデイケアとは別にあるいはあまり出かかず在宅の多い老人を日中預かって時々見守って下さると用足しとか(普段老人を見守っている)家族本人の病院通いなど可能かと思えます。
父が障がい者ですが、いろいろわからない事があった時こちらから聞いてはじめて知った事がありました。もう少し事前に教えていただけたらと思う事が有りました。これからこちらから聞くのではなくこの場合はこうですと教えて頂きたいと思えます。よろしくお願い致します。
人口が多い高齢者ばかりが優遇されている。我が家には5才~89才までの年齢がいるが、高齢者が一番待遇が良い。
国が高齢者の為に費用をかけすぎ。
高齢者、障がい者の交通手段の充実(循環バス等)
福祉活動に関わる人材に対して、ボランティアなどではなく、ある程度の報酬を与えて人材を増やすべき。ただで人は動かない。
江別には多くの大学が有りますので、学生と一緒に高齢化社会対応の社会実験プログラムが作れないか。
高齢者に対する交通手段がもっと便利になればいいのにと感じる事が有ります。タクシーなども高齢者チケットなどの配布とかがあれば行動にも広がりがあると思います。
高齢者、障害者、子育てで本当に困っている人はいるのか?声を出さないとわからない。わからないのは無いと同じ。
私の地域では高齢者のほとんどが、通院・買い物の足を確保するのに苦勞しています。運転免許を持たない世帯は苦しい生活費を切り詰めてタクシーを利用しています。私共も行く道ですので近い将来が心配です。
突然に主人が障害者になり、話す事、右半身不随になり、最初どうしたらよいか迷いました。今は施設にお世話になり、自分も仕事の休みの時は、施設に行っていますが、私も仕事や体もどんどん老いていってます。自分でも、主人の介護が、無理だと感じております。介護する事は、本当に大変だと思う。
江別市は高齢者が免許を返納しても、何のメリット(補助)もないので市内バス等の補助をしていただきたいです。私の友人、知人の住んでいる町ではほとんどが市内バス等(タクシー)の補助があるようですが、江別市はなぜ出来ないのか不思議です。早急に取り組んでほしいです。
精神障害者は、一見理解されない。差別対象になりやすいので、精神障害が脳の障害であるという事等、詳しい地域理解を促すパンフレットや配布物、報道などでの地域だけでなく、国民の理解度を深めていってほしいと強く思う。
老人施設の運営、入居者の状況を年に一度は査察、監査をしてほしい。
福祉って何?商品券2万で2万5千円になるって、もともと貧乏なのに現金2万なんか出るわけないじゃない。結局、金持ちがいい思い。底辺の高齢者には、何もない。
年金の少ない人でも入居出来る介護施設があれば良いと思う。
せまり来る確実な高齢化の大波の前で、今、何を充実させるか…それは、人の尊厳をどれだけ死守出来るかに尽きる。今の体制、考え方では、「1から10迄」全て不備で、それは今迄本当に困っている、援助の必要な市民、納税者に必要な還元が、されなかった所にある。その方策の思考、道徳的配慮がされなかった不幸な形態、時間があつた。話は簡単である。痛みを訴える者の本当の声を聴ける、個々人の持っている人本来の優しさに施策者も皆も、戻れるか否かだけ…。人間としての尊厳を持って死を迎えられるか否か、それが福祉でしょう。
札幌みたいに70才からの(高齢者)にバス券が安く買えるといいと思います。江別は特に何にもないので、残念です。
福祉施設の内容の充実。福祉サービスに関する情報の提供。私達が情報に関する提供の質問に答える前に、福祉課の職員の方、市議員の方が実際に現状を知ってこのアンケートを作成したのでしょうか。市福祉課の方、市議員の方は選挙に立候補する時には色々良い公約をしますが、当選後はどのような仕事をしているのか、私達にはあまり解りません。江別市も少子高齢化が進み、市立病院も医師不足。駅前広場、道路の拡張よりも子育て、福祉施設を充実させる方が先決だと思います。
高齢者の移動や外出を支援する。交通費助成制度を早く実現させていただきたい。
今まで、福祉に関する事を身近で体験する事はありませんでしたので、よく分かりませんでした。
高齢者・障がい者・子供の利用施設の複合化。1つの施設でそれぞれの年代等の方々が交流し、そこにボランティア等で地域の人々が参加できるようなものがあると良いと思います。地方自治体の縦の組織ではなく、横の組織が良いと思います。
他の市町村に比べ江別市は高齢者に対する助成が無い。箱物の建設は良いがそこへ行く事は出来ない。

交通費が高く通院が出来ない。どんなに良い計画をしてもなんにもならない。
障害者に対しての自立支援を考えてほしいです。
独り暮らしは難しくても、施設に入るのではなく、少しの援助があれば独り暮らしが可能な障害者に対して、もっと安心して暮らせるように支援の体制を整えてほしい。日常生活の支援や犯罪に巻き込まれないための支援等。
以前母が、公民館で行っていた健康体操？のような講座に、喜んで参加していたが、継続する事が出来ず、残念がっていました。(3ヶ月とか半年で終了だったのか…?)高齢者社会で、高齢者が健康である為、ひきこもりにならない為に、少ない参加費で楽しめる催しがたくさんあると良いと考えます。
高齢者のためのタクシーがあると良い。
現在、認知症を患って2年以上経過し通院している。市役所で介護認定の手続きも終えたが、要介護1なので、一般の人程度の生活ができるとの判断のようです。今後、買物や食事、家事に手伝いが必要となった時、ケアマネージャー等に相談することになるが、こうした高齢者が増々ふえた時の支援が手厚いか。他の市に比べてどうなのか判断つかない所です。(長男による意見)
江別市で障害になっても安心できるまちづくりを進めているのは理解していますがまだまだ障害の人を固定概念なく受け入れる体制にはほど遠いと思う。いろいろなボランティア団体も含めて活動を実施しているが、市の関わりは薄いと感じる。市はもっと積極的に低姿勢で関わる必要があると感じます。
高齢者になっても自宅で暮らせるために、見守りして手助けしていただける体制を整えていただきたい。
つながりの機会を失っていく高齢者の孤独を解消し、高齢者自身が社会貢献できるような仕組みをつくるアイデアがあります。
膠原病という難病にかかり、生活する上で私の様な高齢ではない内部疾患患者の理解度の低さを実感しています。身障者駐車スペースの問題。
高齢者に対して江別市も(例)札幌市のように交通機関の支援が有ると良いと思います。病院に通院することが多いためそういう制度が有るととても助かります。
高齢者…地元の病院がこうでは不安なはず。市立病院をしっかりと立て直す事が大切では。今までの方法ではダメだったら新しい方法を皆で考える。地域の活動に参加しやすいしくみを。障がい者…当事者や家族じゃなければわからない事をケースワーカーさんと連携して意見を吸い上げては。障がい者さんの就労に力を入れてほしい。
福祉の不平等まだまだ壁が？役所と言うより国がニュー。お金はないけど何とか生活できています。今は感謝です。
札幌市のように高齢者に対する公共機関の運賃の補助が欲しい。
障害者用タクシーチケットの枚数がケチすぎる。(年 24 枚、初乗りのみ助成)月 2 枚って、出かけるなと言っているようなものでは？
文京台地区は、医療施設(病院)、保健施設、福祉施設、商店等への距離が遠く、かつ交通機関も少なく、江別市内の施設に行くよりも新札幌へ行く方が便利なところでもあります。
高齢者が毎日通いたくなるような趣味をすることが出来る施設を作る。
現在1人で居住しているが急に倒れた時、その後の家財の処理等に悩んでいる。親類の者は皆遠方。
子供が在学中(小、中)の時の特別支援に関わる体制がとても弱いというか、薄いというか…。他市からやってきて江別は整っていないと思いました。以前住んでいたところは学校、医療機関、教育委員会のつながりが良かったので。(特別支援学級、普通学級)
外出しやすいうように交通手段の取り組み。高齢で運転免許返上したのですごく不便となりどうしても外出しなくなる。ハイヤー使用時の援助あればと思う。
障がい者、もっと仕事を斡旋しては。高齢者への車の運転の呼びかけ←ちょっと違う意見。
札幌のように高齢者の交通費等の補助をしてほしい。出歩く事で健康を維持できる事もある。
障がい者に対する医療の充実。
高齢者や障がい者が安心して生活できる年金の確保と年金制度をつくること。毎年、年金が下がるのでは安心できない。
介護施設の入居費をサポートしてほしい。
出来る限り、自力で生活しようとは思っていますが、年が増す毎に行政にお世話になっていくと思います。低い年金で生活出来る施設があると助かります。
地域住民に対する高齢者の割合が増加している現在、何らかの障害をかかえている高齢者も多く、充実した支援体制を望みます。
現在も障がい者ということで就労してもなかなか正社員にしてもらえず、実収入も通常の人のおよそ1/3以下というレベルである為、娯楽よりも将来を見据えての貯蓄にまわすようにするのが精一杯の現状です。
高齢者、障がい者を支える家族や子育て中のお母さん、子育てと仕事を両方もつ親の、身体と心のケアにもっと目を向けてほしい。
お年寄りなどは特に、お世話や迷惑をかけたくないという気持ちが結果孤立を招くのでしょうか。障害者や障害者の家族、共働きの子育て世帯についてもやはりサービスとして利用できることが一番の心の支えになるのだと思う。
高齢化の進んでいる地域の対策(防犯、福祉)

江別ですすめられている「福祉村」…とても素晴らしい取り組みと思いますが、高齢者にスポットを合わせ少数派の障がい児者が見落とされている実感があります。
例えば、77歳以上の高齢者へタクシーの割引券の配布をしてほしい！
近隣から車イスの方が避難できる通用門のようなものがあるとスムーズに事が運ぶと考えられます。
日中市内は高齢者ドライバーが多くヒヤッとした事が多数ある。最近多い高齢者ドライバーの事故が全国で発生しているので江別市も何かしらの対策が必要。
障がい者を受け入れている事業所に勤めているが、江別市のケチくさい支援にうんざりしている。加算が少ない。他市と違いすぎる。
独居老人や生活弱者への救済
高齢者に対する交通費の軽減をお願いします。病院への巡回バス等有ればと思います。(小型バス可)

(4) 日常生活への不安に関すること (21件)

私は障害者で生活保護を受けています。ですから近所の一部の人に変な目で見られたりします。お役所も厳しいですが正論を述べられますがこの年で体も不自由…。
年金十月3万円がないと夫婦二人が生活して行けないという時代です。自分も毎日3時間働いて、月6～7万円の収入を得て暮らしています。今年68才になります。後何年働けるでしょうか。先行が不安です。(※ちなみに老後の生活資金2,000万円は有りません)
運転免許証の返納を考えています。…が生活にかかせない自由な移動が制限される事が不安です。
私の暮らす地域はお年寄りが多いです。もちろん子育て世帯もいます。周囲の方はお子さんと同居されている方も多く、足が悪くても、ゴミ出しや除雪はそのお子さんがされています。でもその方も、私よりはかなり年上で、親御さんがもし亡くなれば、その方が一人になってしまいます。あまり親しい付き合いはありませんが、そういう方が周りに何人もいらっしゃいます。高齢化が進み、私も同じようになると思います。そういう時が来たら、私は主人と二人でここに住み続けていられるのか不安です。介護施設の事や、サービス等、私にはわからない事が多いので。高齢になり、車を手放した後は、どうやって生活をしていくか、歩いて買い物に行ける場所にはスーパーも無いので、JRの駅までそもそも歩いて行けるのか。考えれば不安だらけです。意見ではなく申し訳ありません。
現在1人で居住しているが急に倒れた時、その後の家財の処理等に悩んでいる。親類の者は皆遠方。単身世帯の安否確認の充実。
子供達も成人し子育ても終わりましたが、札幌から江別に引越して江別での子育てでしたが近所にも同年代の子供、親が多く、自然も豊かで子供親共ののびのびと安心して生活でき江別で良かったと思います。子育ての時は自分も若く元気で地域の人達と積極的に行動していましたがこの先主人と2人の生活で体も気力も若い頃のようににはならないかな…と思うと少し不安にもなります。
これからどう生きればいいのかわからないというような漠然とした悩みを相談できる場所がないと思います。住居を見つけないとか仕事を見つけないといった具体的な相談には乗れるが、将来が不安だ、親がいなくなったら困る等の話は聞いてもらえないようなので行政や医療への相談もほとんどあきらめています。
国民年金では生活出来ません。身体もだんだん動かなくなります。なので肉牛をやめた時の生活が心配です。
両親の持ち家で、両親とくらしていますが両親がいなくなった場合、パートでの収入だけで生活ができるのかとても不安。預金も何もできないので、不安でたまりません。
せっかくジョイフルAKが建ち住民皆大喜びしていた所が、食品の件で本当に残念です。年、老いていくのに、このことだけが…。
将来を考え、貯蓄を試みておりますが、年金受給額が低く、老後は年金ではなく生活保護を申請しないと生活が成り立たなくなるという不安を抱えております。
江別市に居住して10年以上になりますが、不安でしたがあれからずいぶん高齢者に優しい市になり嬉しいです。私も何か困難な事があれば行政に相談したいと思います。
突然年金の振込みなく市役所に問いますと個人情報保護法によりと知らされず扶養家族の生活は銀行口座引落しなど支払いあるのはどうする。他にもあり簡単な事ではない。個人情報保護法など家庭破壊させて責任も取らず平気でいられる無神経でいられるのですか？無収入は即命にかかわる事、年金分割の申請をするにも行方が解らずどうにもならない。あらゆる所、これ以上ないと云う位相談に行ったりTELしたり。地域の民生委員さんのみ警察に届け探したが見つからず。ようやく少しずつ元に近づいたが体重12kg減でふらふらしながらの生活病院に行くお金なしでも高齢者保険は全て引き落とされている。返してほしいが本気身を持って話を聞いてくださる方がいらっしゃれば一日掛けて話し解決したい。どうか助けてくださる方がいますように祈ります。
受給が下がっているのに物価が上がっていて貧栄養状態です。
問34、12生活困窮者等の社会的弱者への相談支援体制の充実が最も気になる所です。
江別市以外に住んでいる親を、江別市に引き取った時に行政がどれだけ親身になって！！対応してくれるか不安である。対応が人により、部署により違ってくるのは困ります。
一人暮らしの高齢者になり少しずつ障害者になってくるとなかなか御近所や地域住民に相談しにくくなり自分でできる限り頑張るよう努力していますがいつ倒れるかと思うと心細いです。いろいろお世話になります。これからもよろしくをお願いします。

病気で仕事をできないため収入がないのに年金の保険料等を納めなければいけないなんて死ぬといっているのと同じでは？
私は独身のため、高齢となったとき住居や入院時の保証人、一人で生活できるかが不安です。現状、貯蓄ができないので、退職後の生活はとても不安です。(車の維持、家電製品の買い換え、パソコン、携帯電話の維持、通院入院費など)
雑草とり、雪かきなどシルバー人材センターへの依頼の問題・災害時の町内の緊急支援の問題・特定疾患更新手続きの問題。直面した単純なものだけあげてもこれだけあり、解決はしていません。現場の声をぜひ聞いて頂けたらありがたいなと思います。

(5) その他に関する事 (4件)

高齢者、障がい者が買い物をしやすくする為に団地内に店舗を開設されるのが望ましいです。
2017年に健康都市宣言を行なったがその後の活動が少ない。
江別市プレミアム付商品券とか福祉基金とか有るが1度も受けられないのは、不公平です。何が福祉なのか？
誰が何を求めているのか全く認知できない環境にあること。

3.2 生活環境に関する事

(1) 交通安全に関する事 (3件)

公共施設ではユニバーサルデザインの導入がもっと必要であると感じる。市役所の駐車場はとても狭いのでベビーカーの出し入れがとても難しい。
夜帰宅が遅くなるため、街灯を増やしてほしい。事故を防ぐため見通しのよい道路をつくったり、整備してほしい。
昨今高齢者の車の事故が多く免許返納者も多く返納者に対する援助の施策がどうなっているのか疑問。

(2) 公共交通等に関する事 (59件)

公共の場所を廻る交通の整備
敬老バス出してほしい。
豊幌は、買い物通院が不便なので、送迎バス(多少料金が掛かってても)があれば良いのではないかな。
交通の不便。バスで〈市役所・警察〉止まらない、行けない。
より身近な地域での行事に参加したくとも足の確保が難しい。
高齢になってくると外出が苦手になるのは、交通の確保出来ないからかな。免許返納後の事安心して返納し買物や外出が出来ると良いかなと。
江別市は公的なバスを運行してほしい。(毎年バス運行数減少)他市では巡回バスを運行していますし、公的割引もあります。当市ではなにもない。
江別市は表面的にいい子…内面を深く追求していない。観光的に楽しい場所もないし。札幌市は高齢者に交通バスを出しているが、江別市もタクシーやバス JR に交通バスを出してほしい。バスがあったらもっと気軽に交通機関を使うと思う。車もなく外出する時交通費考えます。
福祉とはやや別の話になるかもしれませんが交通についてです。土日祝日にゆめみ野近辺の JR バスが一本もないというのが不便に思います。自宅から江別駅まで直線で2km前後、歩けない距離ではありませんが、雨の日や冬場など地域のイベント等に行こうにも腰が重いのが正直なところです。もちろん企業が運営している交通機関ですから効率的な利益という面で現状があるのは理解しているつもりですが“まちづくり”という点では私のように運転免許を持たない人が外出しづらいというのは良くないかなと思う次第です。近年は高齢者の免許返納の気運も高まっていますから、最低限の“足”を守ることは、安全なまち安心して暮らせるまちをつくることにもつながると思います。
外出しやすく交通手段の取り組み。高齢で運転免許返上したのですごく不便となりどうしても外出しなくなる。ハイヤー使用時の援助あればと思う。
そもそも、市役所までのバスがない。不便。せめて大麻出張所の業務を拡大してほしい。
江別は車がないとどこへも行けない。
札幌の様に交通費の援助制度を確立してほしい。
出かけたいたがアクセスが悪い。交通費が高い(所得に対し)札幌市などのように補助があればよい。必要！
今は車がありますがその後の交通の利便性が必要。
交通機関料金を割引する為の高齢者バスを発行してほしい。
車社会になり公共の交通機関がますます悪くなり、病院通いにタクシーになり買物にも不自由なまちで残念です。
1つの例として、私は公共交通機関(バス)を利用して通勤しておりますが、高齢化社会に伴い定年後、もしくは自家用車による運転が出来なくなった場合、日常生活に必要な移動手段として、大変重要なこととなってくると思います。

巡回バスか、あいのりタクシー等病院、買物へ行く手段を考えてほしい。豊幌なので。
病院前のバス停の廃止は本当にナンセンスだと思います。バスで病院に通う高齢者の方々などの生きる道を閉ざしていると思います。
私の住んでいる町は江別の端に有り病院など遠いのですが、バスの便が悪いのでハイヤーの利用が多いのでもう少しバスの便が良いと助かります。
駅前(野幌)はどんどん立派になっていくが駅を離れると何もない街になったように思います。バスの本数、ルートは減らされ、遠出をするにもわずらわしい。
病院や駅、スーパーをつなぐ交通網の充実化。車両は小さくても、各地域をくまなくまわるようにする。高齢者も子育て世代も車を使わなくてもいい様な町づくり。
コミュニティバスを走らせてほしいです。病院⇄特養・老健などの施設⇄{ドラッグストア スーパー ホームック} ⇄JR 駅との循環バスを市内に走らせてほしい。(1時間に、順廻りと逆廻りを一本ずつ)。市内に大型店舗が複数あっても、公共交通機関との利便性が悪く、自家用車を持っていないと利用できないところも多いので、検討してもらいたいです。一律(利用者 100 円 自治体 100 円)負担程度で。停留所は老若男女の利用を考慮し、出来るだけ施設の入口近くを希望。
高齢者に関して一バスの便が悪過ぎる。交通の便が悪い地域が多いと思います。買い物に行くにも病院へ通院するにも足の不自由なお年寄が多いなか本当に大変だとお年寄りが困っています。市でコミュニティバスを出して下さい。せめて病院まで、商店まで1人暮らしのお年寄りの多い地域をきちんと市で把握して調査をして要望を聞いてコミュニティバスの運行を切に願います。高齢者の事故が多い→免許返上→足がない→引きこもる→死。市はどう考えているのでしょうか。
自分自身が高齢者となった未来を想像したとき、最も懸念するのは(治安や年金などを除けば)公共交通と医療の充実度がどうなっているのかという点です。特にバス路線の縮小傾向を危惧しています。私もかつては(20 年以上前)通勤にバスを利用していました。当時から利便性が良いと言えるものではありませんでしたが、それでも出勤時はほぼ毎日利用していました。しかし帰宅の足としては適当な便が少なく、次第に徒歩での帰宅が増えていきました。数年前、東京勤務から戻ってからは、更に運行本数が減少するなど利便性が低下していたため、やむなく駅前駐車場を借りるなどし、徐々にマイカー利用へ移行していきました。最近、その路線は廃止され、近くのバス停もなくなったため、今、バスを利用する機会はほぼありません。東京勤務時、車はその必要性が低かったため、所有していませんでした。江別市でも駅、スーパー、病院、市役所、銀行等主要施設へのアクセスが便利であれば車は手放しても良いとすら思っています。しかし、現状車は必需品であり、将来、私が運転免許を返納したとき、買い物や通院はどうすればいいのか、とても不安です。昔ながらのあの大きなバスがまばらな乗客を乗せ(ときには無人で)走る姿を見るたび、ため息が出ます。高齢者のみならず、全ての世代が江別に住み続けたいと思えるよう、是非、公共交通の抜本的再構築のご検討をお願いします。
まずは自分ひとりでも外出する(できる)方法が重要かと思います。どんなにサークルや相談窓口などがあっても、交通手段がなく迎えにきてもらうという受身な姿勢だとますます家にこもりがちかと思えます。本数が少なくても循環バスなど市民の足の整備を強く希望しています。
小回りのきくミニバスのような利便性の良い交通網があるといい。
札幌市の様に 70 才から交通費の割引制度があれば良い。
バスもなく同じ税金を払っていて不満です。市、福祉から冷たくされている気がするのは…私だけですか。
高齢者は 80 才で免許を返上する。交通手段としてハイヤー、バス等半額割引キップを各自治体が発行すれば高齢者事故が 5 割減る。
高齢者の運転免許の返納にあたり、通院、買い物等月額低額のフリーバスを発行しバスを利用できるサービスを検討してほしい。
札幌は交通費(地下鉄)、高齢者が安く購入できるシステムがあるので江別もバスなど何かそういう事があると利用者も増えると思います。
高齢者の自動車免許が問題になっている→(バスやタクシー補助券などでサポートが欲しい。バスの本数増やしてほしい(特に医療機関近く))
高齢者の免許の返納を安心して出来る様タクシーチケットとかバス料金の手助けをしてほしい。札幌市より、江別市は遅れている。
高齢ドライバーによる交通事故が増え、免許返納を考える高齢者が増加しているとのこと。それをふまえて地下鉄やバスの敬老優待カードの発行を早急に検討して下さい。江別市は札幌市じゃないのは重々承知ですが札幌市と協議して是非実現させてほしいです。大麻から野幌や江別に向かうバスは路線、便数も少なく不便で使い勝手が悪いです。大麻の人は買い物、病院などは札幌に出る人が多いです。年金暮らしの高齢者が外出するには交通費は大きな負担です。外出の交通費が軽減されることで気軽に外出する機会が増え、歩くこと、人と交流することで健康維持、認知症予防、医療費の抑制にもつながると思います。
運転免許返納(高齢者)後の対応。(無料バス券・タクシー券など)
障がい者手帳利用の充実(タクシーチケットの配布、バス代の割引など)
高齢者がひきこもらないように交通費の援助がほしい。障害者が普通に不便なく外出できる環境づくりを。
高齢者の車の事故が多発していますが免許を返納した場合出掛ける交通手段としてバス、タクシー等の利用になると思います。札幌では年間¥30,000 の交通費が支給されているとの事又旭川では運賃は¥50

のみ出す様になっていたと思います。江別ではこういう補助はないのでしょうか？
障害者の通所、交通費の無料化をお願い申し上げます。
高齢者の交通事故の多発が大きな問題となっている昨今、免許証の返納をより向上させる必要がある。そのための支援策として市が主体となり交通網の利便性の向上と「高齢者バス」を新設してはどうか。
ゆめみ野地域行きは12時台まで午後はバスの便がほとんどありません。帰りは2時台からとなります。市立病院やイオンなど市の中心部へ行くには乗り換えが必要です。せめて午前も午後も1時間に1本でも循環バスがあればいいのと思います。外出ができれば心身の健康を保つのに良いのと思うのです。
高齢者、障がい者の交通手段の充実(循環バス等)
高齢者に対する交通手段がもっと便利になればいいのと感じることがあります。タクシーなども高齢者チケットなどの配布とかがあれば行動にも広がりがあると思います。
電車や地下鉄などに車いすやベビーカー自転車などがスムーズにいつでも乗れる車両があるといい。
地域を細かく回り買物通院が出来る様な交通手段を構築してほしいと思います。
江別市は高齢者が免許を返納しても、何のメリット(補助)もないので市内バス等の補助をしていただきたいです。私の友人、知人の住んでいる町ではほとんどが市内バス等(タクシー)の補助があるようですが、江別市はなぜ出来ないのか不思議です。早急に取り組んでほしいです。
札幌行きと帰りのバスが夜少ない。
札幌みたいに70才からの(高齢者)にバス券が安く買えるといいと思います。江別は特に何にもないので、残念です。
高齢者への移動や外出を支援する。交通費助成制度を早く実現させていただきたい。
高齢となりましたので運転免許証を返納しましたが悩みは、バス路線、JR路線の近くにしか行けません。例えば、福祉タクシー(有料・安価)などがあれば良いナアと思っています。
高齢者に対して江別市も(例)札幌市のように交通機関の支援が有ると良いと思います。病院に通院することが多いためそういう制度が有るととても助かります。
札幌市のように高齢者に対する公共機関の運賃の補助が欲しい。
江別は交通が不便なのに、市民の足について何もしていない。恵庭はエコバスをやっている。市の循環バスぐらい運行すべきでは？
高齢者は(自家用を持たない)札幌市の諸機関を利用している人が多い。このような状況から江別市役所や病院に行くための交通費も多くかかるので、無料パス(一部負担でも良い)があれば助かると思います。
例えば、77歳以上の高齢者へタクシーの割引券の配布をしてほしい！
歩く一腰、膝■痛くてあるけない人が多いのでアクセスが悪いし交通費高い、何とかして下さい。
高齢者に対する交通費の軽減をお願いします。病院への巡回バス等有ればと思います。(小型バス可)

(3) 道路に関すること (3件)

道路整備の強化(段差の軽減、路上駐車禁止)等々。
夜帰宅が遅くなるため、街灯を増やしてほしい。事故を防ぐため見通しのよい道路をつくったり、整備してほしい。
札幌から数年前に転入してきたのですが、整備のされていない歩道が多く危険です。幅が狭いのに雑草の処理がされていないので、高齢者、障害者、小さな子供にとっては通れない道が目立ちます。車社会とは言え、車に乗る人ばかりではありません。歩行者のための整備を検討して頂きたいです。

(4) 公園に関すること (5件)

子どもの遊べる場所が少ない。ぼこあぼこは小さい時は良かったが、大きくなると物足りないし狭い。夏に遊べる水場もない。例えば千歳のぴっぴ、妹背牛の遊水公園、秩父別のちっくるなど。旭川のもりもりパークも広くて良い。見晴公園の遊具を湯川公園の様にしてほしい。
公園の遊具が使用中止になっている事が多い。
公園を充実させてほしい。江別の公園はしょぼい。
人口を増していく必要があり、子育て世代を取りこむべく、大きな公園とか、イベント、買い物のできる場所等、江別にしかないものを作ってほしい。
森林公園を(滝野すずらん公園のような)観光誘致出来るようにする。

(5) 防犯・防災に関すること (6件)

学校の連絡網などで変質者などの情報が流れて来ますが警察の見回り等がその時しか強化されてなく、その時だけなどではなく、普段から見回りを強化してもらいたいです！
防犯の強化
交番の数を増やして頂きたい。割合(1ヶ所/1万人)
共働きで子供を充分に見てあげられる時間がなかなかとれない。江別は高齢者の方も多と思うので、例えば通学、下校時等に在宅している(元気な)高齢の方が、家の前にいてくれるだけでも防犯につながる事もあると思う。善意だけでは難しいので、報酬があれば責任もやりがいも出てくると思います。安

心して子育て出来る環境を希望します。
異常者の情報共有、パトロールの強化。
街灯まわりの木を伐採するか、枝を減らすなど、防犯対策してほしい。暗すぎて危ないですよ。歩道側が特に。歩道にガードレールもないし、野幌地区の開発ばかりではなく、事故や防犯対策にも力を入れて下さい。

(6) 除雪に関すること (19件)

除雪についてはとても負担が大きく思います。出入口やゴミステーションの道路を削った重い置き雪は、高齢になった時には投げられないと感じています。場所によってはとても大きな山になっています。実家のある旭川市では出入口、出庫前に雪を残さないで除雪してくれるので高齢でも自宅の融雪槽などを利用したりして、敷地に降った雪を自分で除雪して暮らせます。江別市もそうになったら…と願っています。
冬は特に雪のため家から出られなくなる(同居の家族は日中働いているので)。
雪のない季節は問題が少ないでしょうが、雪の季節の生活をどうしていくかの問題点が多いと思います。
大麻住宅の道路の除雪。冬が一番歩きづらい。週一回のNPOの交流に参加していますが途中冬は大変なのでいつも心配しています。介護2です。母が支援2。
高齢化が進むと冬、特に除雪が大変になる。このため地域住民の協力による除雪サポート隊の編成を進めては如何か。
現在夫婦二人で生活 支援を必要としておりませんが雪の時期は体力がついていかず大変です。業者(排雪)を頼んでおりますが、ゴミ収集場所の除雪(市)後の置き雪の多さに困ります。考えて下さい。
冬季の除雪は生活に必要なので除雪や排雪の回数を可能な限り増やしてほしい。除雪業者も限られているがそこは行政に頑張ってほしい。
除雪体制の充実を、特に市の除雪車は雪を自宅前に押し上げている。高齢者では、雪が重たく整理が出来ない。市道等の雪は、家に寄せない様を持って行くべきである。
除雪に対する協力(高齢化に対して)大麻に多くある私道(6m=2軒×3m)では市道の除雪時に排雪が高く積ったままで、これを取り除くのに労力と時間が必要である。除雪時の排雪のみ公道(敷地)に出す家も近隣で一般であるが、隣地に迷惑であるため、自分の敷地内に入れている。高齢化した場合、体力的に不安である。(現在の「除雪支援」では改善を必要とする。)市道からの排雪(除雪時)のみ、市道の排雪時にお願いできないか?私道の除雪は、自分で行います。
除雪ですが市が除雪した残雪を業者に契約し除雪してもらおうのが大変です。(金額的に)何年か前に新さっぽろでは除雪を除雪車に入れてとかしている方法はどうでしょうか。
除雪の対応がひどい。知人や友達を江別市に呼べない。他の市町村と比較しても、江別市の除雪体制が悪いと思うし、評価を受けた事が有る。なので、冬場の福祉には不安を感じる。又、除雪されていない歩道が多く、小学生の低学年が車道を歩き、車と接触しそうな所を多々見られる事がある。
今まで道路の除雪はただ雪をかき分けて家の前に置いていだけ、そしてその雪は住宅側でお金を出して業者に依頼し捨てる。行政にて行うべし! 江別の最大の欠点である。
冬の除雪車による固められた雪が玄関前に置かれるのはなんとかしたほうが良いかもしれない。足腰の弱い人が自前の除雪機がないと結構しんどいと思われる。
冬の除雪がひどい。バスの通る道は、せめて2車線分除雪してほしい。
雪かき、除雪のしかたが札幌に比べ、下手だと思う(除雪車)嫌がらせかのように間口に積まれるのは朝からつらい。1,000円くらいのトラックを手配してくれれば、シーズン中気軽に使えるのに…と思う。4、5万、6万って高すぎてムリ!!!
除雪作業を増やして高齢者の不自由を改善。子どもが通るのに安心できるよう歩道の幅を広げる。
冬になると雪を車道に出し子供達が危ない。マナーの悪い人が数人いる。軽自動車は通れるが普通車は曲がれない。
高齢者が多く住んでいる地域におり、冬の除雪での12時まで10cmというククリはどうかと思う時がある。(12時以後にヒザまで降ったが除雪が入らない事がある。)スーパーに行くにも、2車線道路(片側)が山のように雪山にして、一車線しかない。高齢の方が困っている様子もあった。)行政は自治会まかせ、除雪業者まかせにせず、しっかり参加や監視活動をしてほしいと思います。
厚別との市境から突然雪が多くなる江別の冬道。

(7) マナーに関すること (2件)

マナーの悪い大人が多い。特に高齢者。
冬になると雪を車道に出し子供達が危ない。マナーの悪い人が数人いる。軽自動車は通れるが普通車は曲がれない。

(8) 駅、駅前に関すること (3件)

上記に関係はないが、駅前がとても暗い。街灯が少ない。木がうっそうとしている。街灯を増やしてほしい。
野幌駅もキレイになり、街の交流の場にとってもいい建物だと思っております。

駅前(野幌)はどんどん立派になっていくが駅を離れると何もない街になったように思います。バスの本数、ルートは減らされ、遠出をするにもわずらわしい。

(9) 住まいに関すること (9件)

民間アパート住みですが、高齢者は足が悪くて階段が大変なのと、子供は騒いでうるさいです。
市営住宅の募集には、不公平差を感じます。空住宅を放置しているのが目立ちます。希望家族には、どんどん当選すべきだと感じます。身近な事を書きました。
低所得者への住宅支援金(支援)があれば良いと思う。
一人暮らしの1ルームの市営住宅が無い。
親が高齢になる中で、自宅の改造、改築が必要になる場面が多々あります。古い住宅が高齢者所有のため廃墟化していく予感もあり何らかの助成があれば嬉しいと思う。
子供の姿が見え、声が聞こえる住宅環境はすばらしいと思います。
私は、道営住宅の三階建ての三階に住んでいるのですが、三階建てでもエレベーターを設置してほしいです。というのも、もうすぐまた長い冬になりますが、18リットル入りの灯油を運ぶのが大変です。1年1年本当に憂鬱になります。
独居の高齢者の方、ご夫婦が住める低価格なサ高住(一般型)を増やしてはどうでしょうか?「村」のようにまとまって住むとコミュニケーションもとれ、サービス・介護のレベルは民間よりも低くてもいいと思います。ただ、介護が必要になった場合、同じ敷地内に「介護型」も必要ですが。
市営住宅-古いものを壊し新しいものに。古いものを活かすことはできないのでしょうか。次から次へとレンガの素敵な住宅が破壊されコンクリートの安い住宅がどんどん建てられていく。江別はレンガの町ですよ。レンガの大切さ、美しさ、忘れていきますね。

(10) その他に関すること (4件)

三世代が楽しめる場所がない。
ここ数年の気温上昇にせつかくある公共の施設に冷房がない所が多く、活動に支障が出ています。地域の方が不安なく活動できることを望みます。(研修施設など)
老若男女問わず交流しやすい社会づくり相互が孤立しないような地域の交流センターの充実。
江別は遊ぶところが少なく、新札幌まで出かける。バス代往復 400円×2=800円必要。5丁目通りあたりにカラオケ店を設置してほしい。1つでも楽しみのある生活ができれば、元氣もでできます。

3.3 コミュニティに関すること

(1) 自治会に関すること (19件)

当地域は、自治会及び高齢者の会が充実している方だと思っていますが、より以上に発展させる必要があると思われまます。
個人情報保護法が障害となって、本当に困っている人の情報が近隣住民の手助けを阻害しているように思う。自治会が中心となって動いてもらい、近所の人ボランティア活動に参加し易い環境作りの手助けを行ってほしい。
現在の大麻の自治会の単位は大きすぎるのではないか(例 大麻第3自治会(150戸程か?)。単位を50戸程にして活動助成をした方がまとまり易いのでは? 現在班はありますが江別市の広報誌の配布と会費の徴収のみの活動で終わっているのでは?)
今の自治会など、役員のみ手がないうえに交替でやっています。そのため高齢者も役員などになりとても大変なようで、自治会をやめる方もありなんのための自治会かと思えます。現状のままでは必要ないと思えます。
自治会活動は必要ですが、あまりにも力を入れすぎると役員の手がなくなり大変だと思うのでほどほどに活動した方が良くと思います。(毎回人選びで苦労している)
地域に自治会があるのかなのか、どのような活動をしているのか、していないのか、自分も含め全て認知できない環境にあること。
年をとると自分の心と体調を維持していただいでいっばいだと思っています。町内会だけでなくできる範囲のお手伝いをしたいとは思っていますが、なかなか機会もなく続けられる自信もなくして!
自治会(町内会)のあり方を見直す必要があると思う。町内会費等の回収や各役員選出、そして町内会で行うものが多数あり、見直すべきと思う。例えば町内ごとの旅行。数人しかいないのにやる必要があるか?であれば役所で企画等してはどうかと思う。
地域ふれあい活動を自治会の班で行い、様々な話が近所の方々とできました。こうした活動はよいなと思いました。
地域活動を活発にしていくために自治会などで人を集めて研修や講演をしていき、その時話した内容を各家庭に配ってただ終わるより関心を持ってもらえらると思えます。(その時は行政が中心となってやってもらう。)

私は 84 歳の女性の一人暮らしですが自身ではあと何年この暮らしが出来るかわかりませんが、近い年月に自治会の班長さんを回り番で引き受けなければなりません。その時体調が良ければ引き受けたいと思っておりますが、他の自治会の方々のご意見を聞き参考にさせて頂きたいと思っております。
自治会役員の意識の向上(考え方が浅い)
今年は自治会環境副部長も、引受ける人が居ないと頼まれ、子供年代の部長もう 1 人の副部長と活動しています。多少なりとも貢献しているかなーと思ひ乍ら。
町内会が高齢者のためのものになってきてしまっているように思う。子育て世代や仕事をバリバリしている世代の人は、行事があってもほとんど参加してこなくて、近所のつながりがどんどん弱くなっているように思う。子ども&親で参加できるイベントをもっと増やしてほしい。
町内会のあり様をもう一度見直す時期にきているように思います。ネットの中の検索通りにはいかない様に思います。
江別市でも、民間や、住民の声としての自治会などとタイアップして一日の時間帯で利用する人数の確認、または、いつの時間が多く利用するのかなど、住民目線で調査していただき、何が必要か、現在足りないものは何かなど、一極集中型(札幌市)になってきている中でベッドタウン化している自治体または過疎地として進行している自治体のモデルになれたら良いと思います。
地域でいうなら、町内の仕事をもっと楽にする。広報を配ったり、町内会費の集金だったり負担がある。自治会費とか寄付金は班長さんが 1 年分を集めてくるが毎月集めるのは大変だけど近況を調べる意味でも細分化し集めやすくなおかつ親交を深めることにもつながるのでは？
自分の住んでいる所の民生委員、児童委員など誰なのか知らず、周知する必要があると思う。自治会に入っていない人にも必要ではないか？

(2) ボランティア活動に関すること (12 件)

ボランティア参加者に特典つけるなど参加する意欲増える工夫があればいいと思う。
行政とボランティアの人が協力して行うイベントや研修会がもっと増えると良いと思います。
ボランティア活動の仕組は融通がきかない感じで、役所の人の天下り先を増やす為のシステムの様で違和感を覚えました。
地域住民によるボランティア活動を増やす為、ボランティア活動や支援を行なった住民に対して減税等の待遇処置的なものがあれば、より多くの住民が関心を持って参画するのではないのでしょうか。
個人情報保護法が障害となって、本当に困っている人の情報が近隣住民の手助けを阻害しているように思う。自治体を中心となって動いてもらい、近所の人ボランティア活動に参加し易い環境作りの手助けを行ってほしい。
ボランティアに頼るのも良いけど、どんな職業かなどをこれから必要になる人材を作っていくべきだと思います。
子供達の登下校などの見守りの強化や何か教えていただけるような活動。
それ故に、我々年寄りも元気なうちは、誰かの役に立てるようにしなければならぬと思っています。これからは、まだ元気な年寄りがボランティア活動をスムーズに出来るように教育していくことも、必要なと思います。
高齢者・障がい者・子供の利用施設の複合化。1つの施設でそれぞれの年代等の方々が交流し、そこにボランティア等で地域の人々が参加できるようなものと良いと思います。地方自治体の縦の組織ではなく、横の組織が良いと思います。
遺産相続の相談、募金活動の参加、ボランティアを通じての活動、資格の補助、パソコン、スマホ等の電化製品の知識の勉強会、保険の勉強、行政に対する知識、議員に対する知識。
週 1~2 回程度、手芸系、運動系、料理系といったような催しをする。そういうのがない日でも無料開放。
行政指導の(福祉)(ボランティア)制度を待つしかない。

(3) 近所付き合いに関すること (14 件)

年齢は 71 歳なので前期高齢者ですが、サークルでは 10 年位総務会計しており、体育館やスポーツ振興財団と交渉やら書類作成やら一手に引受け(パソコンに入っているせい?)現在に至っています。
独居老人の為急病の時の対応にちょっと手助けが(声がけなど)あれば少しは安心かな。
これまで、ほとんど近所の方と関わる機会がなく、除雪の際に協力する程度でした。最近子どもが生まれたので、子どもを通じた活動から近所の方々との距離が近づくといいと考えております。
私達 2 人は、障がい者手帳をいただいています。心身共に余裕のある時はお手伝いしますよと声をかけていました。今は杖を持っている姿を見て皆さんからとても優しくしていただき、感謝しています。まだ元気だと思って失敗した事もあり反省しました。(反省)倒れそうな人を見て、助けようとして自分も倒れそうになりました。力不足でした。
多少迷惑でも(おせっかいおじさん、お婆さん)認定者が必要。(善人であることが前提ですが)そして、そういう人が報われる、やりがいと感ぜられること。うちのお婆さんはお人好しでおせっかいですが、クラブリやうっとうしがられたりして、報われない事が多々あります。でも何もしない人より役に立っていると思う。

<p>ご近所のつながりが基本になるのかなあとと思います。ひとりでは参加しづらい活動も、声をかけてもらうことで一歩ふみ出すことが出来る時もある様に思います。</p>
<p>簡単で難しいことを進めてほしい。近所の人と朝晩、又は道路で顔を合せた時の「あいさつ、声掛け」促進。学校便りみたいチラシが入るが何の役にもたない。学校の■でないか子供達も、通学時にも個人情報？？で学校の指導もあるのか全く町内近所の人にも「あいさつ」がない。こんな孤独な生活(親-子-学校-社会)これが、ひきこもり・いじめになっているのではないかと。根本的に議論、成果を上げて行く社会にしてほしい。</p>
<p>一人暮らしの高齢者になり少しずつ障害者になってくるとなかなか御近所や地域住民に相談しにくくなり自分でできる限り頑張るよう努力していますがいつ倒れるかと思うと心細いです。いろいろお世話になります。これからもよろしくをお願いします。</p>
<p>仕事があるうちは、元気でもあり、様々な地域のお誘いがうっとおしく思うことが本音ではあります。でも、やはり何かがあった時には近所の方々がいちばん頼りになると思えます。(地震で大停電だったときにご近所でひと声かけあった時にしみじみ感じました)何らかのきずなが生まれるような、江別全体のつながりを保てるよう小さな事でも、関わりを持つような会合など、継続的にあることが良いのかもしれないです。(今はちょっと否定的ですが…)どうぞよろしくをお願いします。受身で申し訳ないですが。</p>
<p>仲間同士の車に頼りがちになり、もしもの時の責任のあり方が問われます。在宅(1人暮らし)には厳しい現状にあると思います。</p>
<p>個人情報等お互いに尊重し合う風調ですが、それが個々を“孤立”させているのではないかと。となりに誰が住んでいるかも交流がなくなり遠慮してわからない。</p>
<p>いずれ施設や病院に入る頃には、行政や家族で対応していくので、住民(近所)は知らぬことは多々ある。高齢化の中で、住民のコミュニケーションもままならない。</p>
<p>普段、隣、近所の人と立ち話をする程度ですが何かあった時は、協力出来る人達ではないかと思って不安に思っています。</p>
<p>せめてその地域、自治会に所属している人がどの様な能力を持っているのか(例えば災害時等)把握できていないこと。</p>

(4) 地域交流等の促進に関すること (16件)

<p>特になのですが、学生ともっと連携してもらえると嬉しいです。</p>
<p>誰でもが気軽に出入りできる施設の充実とその場で身近な話題、軽いストレッチ体操、新聞や雑誌の話題を話せる人の育成！</p>
<p>新栄台に高齢者が集える会みたいのがあるのかなのか退職後、ヒマをもてあまして孤立してしまう。何か楽しく集まれるといいですね。その方達の力も地域に役に立つのでは？→子供達の登下校などの見守りの強化や何か教えていただけるような活動。</p>
<p>「おはようございます」と笑顔できちんとあいさつのできる住民の集い。</p>
<p>歩いて行ける範囲にいつでも気軽に参加出来るカフェ的な憩いの場があれば良いと想います。</p>
<p>老人ホームと小学校、小学校と幼稚園など施設を一緒にしてはどうか。支え合う助け合う社会をつくりあげるのであれば区別は必要ないと思う。</p>
<p>子供達のあいさつを強く推奨します。</p>
<p>どんな福祉においても、「声を出せる」「話が出来る」環境が充実していれば必然的にコミュニティが形成されるので繋がりが生まれて、安心して生活、行動出来るはず。行政とか住民とかに拘わってはい、いいネットワークは作れない。</p>
<p>江別市民皆で、挨拶運動をスローガンにあげ、御近所さんでも挨拶をする事によりコミュニケーションを取るキッカケが作れ、声の掛けあいから、支えあいや助けあいのキッカケ作りになるのではないかと。</p>
<p>自分に出来ることがあれば手助けしたいと思いますがそれが必要な方は誰なのか分からないし、どこで知ればいいのか分からない。今は周りに助けを求めづらいのではないかと。遠慮せずに助けが必要な人が我慢しなくていいようにしてほしい。</p>
<p>同じ場所で、どんな人も分け隔てなく生活できる人間を育てていくことが必要不可欠。幼・保・学校など幼いときから、障害者もどんな人も一緒に過ごすことで、思いやりなどの心を育てること、それが必要だと考えます。</p>
<p>退職者の方々等の有効な活躍の場を設けてPR活動をして、官民一体となった共生活動が必要と思います。</p>
<p>日頃から若いお母さんが悩みを話せるような虐待が増えている中、行政と住民と一緒に温もりある優しいまち作りをしたいですね。「井戸端会議」が出来ると良いですね。親の愛情を知らないで親になってしまった人が多い世の中なんですね。もっと大変な世の中にならないように願っています。</p>
<p>年齢、性別等に関わらずあらゆる人の交流する場や機会の提供。</p>
<p>無料のイベントを多くしてほしい。</p>
<p>もっと各地域において行事参加があるとよいですが。</p>

(5) その他に関すること (2件)

<p>誰もが一度は参加できる様な体制があれば(強制にせよ)興味があれば一人二人は参加できると思う。今</p>
--

の状態は良くやっている方だと思う。
あとは、ラジオコミュニティの発信があっても良いのでは？

3.4 広報・情報発信に関すること

(26件)

広報に記載されている情報はやはり大事ですのでわかりやすく丁寧な文言で御案内下さい。
市の広報誌にたくさん情報をのせて下さい。
市のホームページの充実。今のままでは分かりづらい。使いづらい。
どんな小さな困りごとでも、気がねなく問い合わせができる様な窓口または電話相談があって広く市民に周知されると良い。
江別市に住んで20年位ですが地域住民に高齢者が多いのですが年に何回か災害等で広報車が回ってくるがスピードが早すぎてまったく聞く事が出来ない状態です。お隣さんに聞いても分からないとの事。札幌で住んでいた時はそんなトラブルなかったのですが。
市の広報誌をポストに入れて下さい。水道の消毒の日時、よくわからないので住民にわかるように工夫して下さい。
現在福祉に関してどのような取り組みが行なわれていて、どのような状況であるのか、が良くわからないので、そういった情報を市民に知らせていく事が必要だと思う。働いていて近所の人達と顔を合わせる機会が少ないので、働く世代をターゲットにした地域に関する情報交換の場を設けると良い(かも知れない)
既に存在しているのかわかりませんが、分野別に相談先が明確に記載されたパンフレットがあると良い。
福祉に関する情報をほぼ知らないです。多くの人の耳に入る・目に入るよう、情報を住民にもっと広く発信して下さい。
家庭は夫婦2人暮らしでもう少し年をとり体が自由にならなくなったらどこに相談すればよいかははっきりわからない。
福祉に関する情報が入手しづらいと思います。特に障がい者については市の申請主義が如実に感じられます。
NPOの活動で色々な場所が出来ていますが何をやっているのか入口を見てもはっきり解らずもう少し誰でも解る様に…。
支援の必要な方がどこにどの程度居るかという情報提供がわからない。プライバシーと防犯の観点から難しい情報開示であるが、自治会の班単位で情報提供されると近所にどの程度、支援の必要な人が居るか、意識づけ出来ると思う。
行政の情報発信が良く解らない。市職員は個々において、働いていると思うが、市民は理解出来ていないと思われる。市の行政内容をどのようにしたら、市民に納得してもらえるかを考えた方が良い。
一人暮らしをしていて感じる事は近所つき合いが大切な事ですが運動などの市で行っている行事をもっとわかりやすく知らせてくれるものがあるといいなと感じました。気がついたら終わっている事が多くちょっとガッカリしています。
IOTを活用し、民間企業と連携してSNS等で発信する。情報が見えにくい。企業がもっと取組みを強化すべき。
質問や聞かないと教えてくれない行政(国民、住民に有益なこと)ではなく、積極的に発信してほしい。
まちの飲食店街への情報提供、まちの文化や芸能、スポーツ、娯楽や専門的知識の提供、外国との文化交流、交通機関の充実、税金に対する勉強、貯金に対する知識、物の価値観、人やまちの情報提供、まち特有の個性づくり、老若男女の知識の話し合い、まちのあらゆる災害時のマニュアル作り、人の優しさのあるまち作り。
防災マップについて自分に当てはめると避難先はどこか非常に難解です。小学校に行くためにフェンスを乗り越えていくのでしょうか。それはダメであれば現状公道を回って行くということ、時間は何倍もかかります。
新聞社の協力を得て、より充実した小さなことでも情報を周知できる体制を整えてほしい。「広報」での市民生活に関する情報を多くしてほしい。
父が障がい者ですが、いろいろわからない事があった時こちらから聞いて初めて知った事がありました。もう少し事前に教えていただけたらと思う事が有りました。これからこちらから聞くのではなくこの場合はこうですと教えて頂きたいと思います。よろしくお願い致します。
介護の事を聞きたくても、「これはあっち」とかたらい回し。中には親切な方もいますが、基本「仕事で決まった事を伝える」という感じ。専門用語使われてもわからない方が沢山いるのでは？生まれてからずっと住んでいますが、年をとってくると住みにくい街だとどんどん感じてきます。
情報が不足しています。地域包括支援センターと言う、スバラしい組織を初めて知りました。(ハウモンカンゴの人に教えてもらいました)知らない人が多いと思いますし、もっと広報等のスペースを多くし認知させるか考えて下さい。
(あるのかもわからないが、どこにあるのか分からないのでパンフレットがあれば嬉しいです)
精神障害が脳の障害であるという事等、詳しい地域理解を促すパンフレットや配布物、報道などでの地

域だけでなく、国民の理解度を深めていってほしいと強く思う。
 案外、高齢者は専門用語だとおっくうになりがちなので、わかりやすく具体的にして情報を発信してはどうでしょうか？もちろん、プライバシーに配慮した上ですが…。

3.5 人材育成や住民の意識に関すること

(1) 人材育成に関すること (11件)

市職員等の基本的能力の向上 (例)文章力((市民への通知などの文章力が弱いような気がします。部署が異なる所(別々の所なのに)からの手紙などの文章が成立していないものがあった。(一つの部署でないので心配。))
 市や議員が積極的になってやってほしい。
 10年前と現在を比較すると、子育て支援は手厚くなっていると思います。又、市内に介護施設も増えました。後は、福祉を支える専門的な人材の育成がキーポイントだと考えます。
 色々な事業所ができていて、最初だけ良い事を並べ安心させ月日経つにつれ内容が変わったり対応が雑になったり「明日は我が身」かもと思ったらそんな対応よくできるなど日々感じる。でも助けてもらう必要があるから仕方なく利用するがストレスでしかない。上から見下されて扱われたり対応されたり馬鹿にされるような発言があったりと今の状態はひどいと思う。ルールを作るならちゃんとしてあいまいはNGだと。でも1人1人違うという事もルールの中から模索する必要があると思う。
 高齢、障がい、保育に関する仕事の処遇を改善しないとダメだと思います。
 母が市内の高齢者施設の介護職をしています。毎年、ストレスチェックで病院受診を勧められていますを受診していません。そういった施設等で働いている職員さんの精神的な心のケア、サポート等をして行く場も必要と考えています。
 誰でもが気軽に出入できる施設の充実とその場で身近な話題、軽いストレッチ体操、新聞や雑誌の話題を話せる人の育成！
 夢のような話だと思いますが、施設、介護士(質のよい)を育成する必要がある、給料も上げて、介護職員を増やしていく！！働く環境を見直す。3交替にすると大変な仕事でも給料がある程度あり人がいっぱいいれば疲れても交代できる。保母さんも同じだと思う。
 職員も市の職員だからと鼻高にしています。入院しても朝のあいさつさえ出来ない貴女はえらいのですか？？部長さん、職員の最低限度の教育を！！昔の病院は良かった！！
 福祉活動に関わる人材に対して、ボランティアなどではなく、ある程度の報酬を与えて人材を増やすべき。ただで人は動かない。
 ボランティアに頼るのも良いけど、どんな職業かなどをこれから必要になる人材を作っていくべきだと思います。

(2) 住民の意識に関すること (32件)

自己責任を基本におくべきである。
 「住民誰もが」の概念をどこまで押し広げるのかが問題。
 上の世代は下の世代を慈しみ、下の世代は上の世代に敬意を示す様な人間関係が望ましいのではないのでしょうか。
 1人1人が周りを見る、人を助ける、声かけをする色々な場所に出てお話を聞いたりお話をして互手から元気をもらう努力をする。
 昔は地域(近所)の支え合いや助け合いが当たり前だったが、今はそうではなくなっている。子どもの頃にそういう経験がなければ地域で助け合う感覚がないのは当然である。福祉について子どもの頃から教育すべき。助け合いや地域の活動に参加するという経験をたくさん与えることで将来、地域で活躍できる人材の育成につながると思う。
 一人一人が広い心を持つ事が大事です。
 命を大切にしよう。
 今の時代は個人が、孤立して生きていく為の情感思いやりがわからない時でありどこまで関わるべきなのかわからない。何でもお金が解決する訳ではなく本当の関わりに世間が統一されておらず、難しい時代だと思う。
 個々の考え方が多様化する時代になり住民が支援するには限界が…と考えます。(良かれと思った行動が相手の方の意に沿わなかったら…と考えると中々行動に移せません)
 隣近所の一声が必要とされます。一人暮らしが多くなっている現在「ヌクモリ」が必要だと思います。
 近隣住民との交流が希薄な現代社会において、プライバシーの保護でお互いの近況を話しする事もない昨今、どうやったら地域の住民同志の把握ができるのかが課題だと思います。独居老人しかり、子育て世帯しかり、地域の中に老人の人数、子供の人数がその地域に住んでいる住民が全くわからないのが現実です。
 知己関係、自治会等の活動を通して、主催側の努力ほどに住民は冷淡と思う。

もう少し大きな心、人を愛する心掛けでなければ決して良い住みやすい街ではないですか？私は自分の住んでいる道路の誰もいない時間に草むしりをしたりしていますが感謝の心がけがありませんよ。
自分のこととして皆が考え意識してほしい。どこか他人事だから、役所の人でもマニュアル通りの対応しかしないし出来ていない。
話しかける、聞く耳を持つ。一人で困っている事などは自ら積極的に公共の窓口にて相談する様心掛ける。
1人暮らしの方が多くかと思えますので、回覧があるので安否はわかるし、民生委員の方も見回りされていると思いますが、ご近所同士で関わりやすい方法を考えたいし、考えてほしい。かといって具体的な意見が出せず申しわけないが関わられる方は大変だとは思いますが、頑張ってくださいと思います。
いろいろな点で、困っている人がたくさんいますが、困っていることを誰にも言わずに閉じこもっていることが多いのです。このような人の心をひらくにはどうしたら良いか。考えても答えは出ません。
弱者ととらえるのではなく、偏見や差別的な考えを持たないように教育することから始めてみては？誰であっても老いるし病気やケガで障害を持つかもしれない。子育ては大変であるけれど、特別なことではない。お互いが相手の身になって考えて行動することができれば良いなあと思います。
ちょっとズレるとサギや変質者やと世の中が昔ほど、おせっかいできない時代だと思います。今までの常識から進化させないとならないのが大変かと思う。行政の関わりは重要だと思うが、どうしたらよいか分かりません。でも重要だと思います。
ちょっと一言書きます。書かせて頂きます。どこかの新聞で誰でも一人で生き一人で死んでいける社会になればいいですねという記事を読みました。私も安心できます。皆で声がけて下さい。私も声がけます。文も内容もバラバラですが頭の中が混乱しているので許して下さい。
自分のできる事から行っていけば(個人としては)良いと。ドアの開閉のサポート、声掛け等
昔から住んでいる土地と違い住み始めたばかりの人やその地域の雰囲気や特徴などあり、馴染みにくく関わりたくない思いの人が多くかと思えます。地域の環境にもよりますが、近所の人々に心から心配な事や困った事など、あまり話したり相談する事はしたくないと思っています。
人間誰しも高齢になるほどに自分本位になり頑固になるものだと思います。今さらそれに気付いてもなかなか改善されるものではないと思います。自分を顧みても、そうだと思うのですが、高齢者は遠からず居なくなります。若い方は気持ちを広く持って大目に見て下されば…。私は今一番心配なのは、子育て中の方、孫に携わる中高？の方、の心のあり様の方が大切だと思います。赤ちゃんの頃からただただ自分本位な可愛がり様では駄目じゃないかと思う。子供は本当に社会の宝だから、社会人の大切な事を自然の日常生活の中で、理屈ではなく教えていくべきだと思います。私は長女を出産後に父から云われた事を大切に思って来ました。「我が子を可愛い、大切だと思ったら、周りの子供達、人達を大切にしてくださいよ！」今でもそう思います。
命を守る為、過去の事件や事故等や他の地域で起った事例を、当事者意識を持って事前の対応を考える。
小さい頃から、障がいのある方との接触する機会をつくり障がいがあると思える教育をしてほしい。
もっと自分のまわりに目を向ける時間やゆとりがある心があるといいなと思います。
個人情報等に縛られ近所が都会のように我関せずの様子。
高齢世代の自分は大丈夫という過信(犯罪や自身の体調等)
江別市民であっても、札幌側(文京台等)に住む市民は、札幌市民的な感情を持っている。
地域の課題を地域で解決する意識の醸成などにより過度な行政依存体質にならぬことが持続可能な福祉対策の原点であると思えます。
自治会役員の意識の向上(考え方が浅い)
障がい者は身心共不自由の為廻りの人は見て見ぬふりしないで手助けする。

3.6 全般・要望、意見等

(1) 行政に対する要望等(69件)

助けや支援、援助等を必要としている人が、どれだけ居るのかを把握する為の体制作りが必要。
非課税ではない家庭にも所得によって出来るサービスを増やしてほしい。
税率、物価に合わせた年金、保護費の支給。
市としての、上記の内容についての計画、実施内容が伝わってこない。市の担当者がいないのではないかと感じてしまう。市の担当者は、休日の対応は交替制で実施してほしい。
世相をうらうちする様な事柄が最近多く見られる様になっていると思う。8050、高齢者の運転、免許返納、少子化対策、待機児童、働き方改革、老老介護などなど。色々な方針、計画など国でアピールしてきているが、達成感があまり感じられない。これは、私だけでしょうか。何かもの足りなさが感じられる。
セラミックアートセンターを、移動する事は出来ませんか？市役所の所に広い土地が(江高)ありますので、何年もかけていいので、市民が利用しやすい場所ないと、せっかく何億もかけて建てたものが、活かされず、もったいないと感じています。
私の家族には居ませんが、周りの家族には大人男性(20代、30代)の若い人が働かず(働けず?)引きこもりのような生活をしている人が多く居らっしゃいます。(体力面、精神面で)その方々の働ける場所、

<p>交流の場所を作ってあげられたら、と思います。(中にはコミュニケーションがうまくいかず、社会に出られない方も居ます。なのでそう言う方の支援を考えて頂ければと思います。)(働けるようになるような支援を。)</p>
<p>高齢化が進み、しいては核家族化となり、私もそうであるが伴侶が亡くなり、子供は遠方に住んでいて、同居できず、いずれは高齢者住宅入居、成年後見人制度(任意後見も含む)の活用を考えていると言うより、目の前に追っている。同様の状態の方が私の近所にも複数在宅し、これから増加するのは目に見えている。しいては、市にお願いしたいのは、その様な方の専門の相談窓口を作り、高齢者住宅一成年後見制度(任意後見制度も含む)の活用、しいては葬儀も一括して請負う制度の実現が望ましい。特に江別市はサービス付高齢者住宅の規模が小さいので、市が第三セクターとなって建築させ、長年住んだ住民が外に転出しない様にして頂きたい。</p>
<p>関係各所が情報交換を密に行ってほしい。判らないからとたらい回しにされ、結局何も解決できることは無くどうすることもできず何年も過ぎています。どうせ出来ないなら「出来ません」とはっきり言って下さい。市や国に期待してしまいます。</p>
<p>教育の充実、高齢者や障害者、子供への声かけ、ごみ出し、除雪、買物、介護、防犯、困り事の相談、アートの世界の福祉施設、病院への送迎、災害時の安否確認、家事の手伝い、話し相手、庭の手入れ、地域のイベント等の参加の手伝い、書類等の手続きの手伝い、相談事の申し受け、メンタル面での相談、教育への指導、趣味の相談、児童会館の充実、身体の相談、スポーツを通じての交流、住宅の提供、意見を聞き市の行政がバックアップを通じ通せる事を行なう。</p>
<p>行政が地域や住民にとってもう少し身近な存在であってほしい。</p>
<p>計画だけで終わらないようにしっかり進めて下さい。やるからには結果を残して下さい。あと少しは市役所の方々に考えて下さい。</p>
<p>子育て支援の医療費補助年齢は、江別は低いということはないように格差のないような行政を希望します。行政の効率化を望みます。例えば鉄東線の水道管かガス管工事なのか短い期間に何回も道路を掘っては埋め舗装してその度に工事費がかさんでいる気がするのですが(浮いた予算を福祉に)</p>
<p>江別市役所の職員は江別市内に居住していないのでは？江別市のまちづくりのために江別市内に居住して問題点を考えてほしい。</p>
<p>1人暮らしの人をこまめに訪問し、困ったことを聞いてやり、それに対応するこまめな市としての体制作りをより充実する。</p>
<p>どれも民間で行うには利益が発生しづらいため、どうしても行政で行う必要があると思われる。そのために税金が必要になることは理解できるので、問に関する対策として市民に還元してほしい。</p>
<p>困った時、相談したい時に、それぞれ適した相談窓口があってほしい。</p>
<p>市から手紙(プレミアム商品券等申請手続きが必要なもの等)が来ても高齢者が理解するのが大変。誰に聞いたらいいかわからないのが高齢者。民生員に聞いてもいいのか…でも地域のどこにいる誰なのかもわからない。娘の私が高齢者になったどうしたらいいのかと役所の方は高齢者の立場になった対応をもう少し具体的に考えてほしい。封書は仕事上ミスのないように送っているが受け取った方は(高齢者)には問い合わせ先が書いてあるからOKではない。もっと寄り添った対応を希望します。</p>
<p>生活保護を受けている人達の中には悠々自適な生活をしている人達も多くいると聞きます。そういう人達は強制的にゴミ収集、分別仕分けの仕事に就かせ、浮いた費用を他の福祉費に回せば良いかと思います。</p>
<p>江別市の中に発展している町と住んでいない家など暗い町の差がありすぎ。もう少しそういう町に手は加えられないものか？住民税の掛ける場所が間違っている！野幌周辺工事に時間掛けすぎ。</p>
<p>社会的弱者に税金が有効に使われる行政であってほしい。</p>
<p>障がいのある方の福祉活動の場を拡大させる為に、祖母(90歳)はアパートを期間内で立ち退きさせられました。そのような場合の居住先の確保、諸費用の補償などもして頂きたかったです。</p>
<p>行政を中心としたまちづくりの推進は重要だと思います。若い世代が当自治会に急増しております。子育て、高齢世代共生対策をよろしくお願いします。</p>
<p>定年とは限らず退職された方達が現役中の職種を活かしたり(特技趣味を持っている人が)子供から高齢の方が交流の場集えるように行政でコーディネートして下さいと良いですね。気軽に参加出来るような…。</p>
<p>高齢者、障がい者、子育てで大変な人達は、福祉、これからの人生、どう生きるのか市や、友人、近所の人に相談しにくい。人手は大変かもしれないけど市の出先機関で積極的に動いてほしい。</p>
<p>家族が声をあげても回答はいつも決まっている回答しかもらえない。たくさん心の中で叫んでいる人が他にもいると思いますが。</p>
<p>行政の取り組み方、相談窓口の拡大、相談員の対応等々もう一度見直し考えて頂きたい。</p>
<p>色々有るかと思いますが。福祉行政の支援充実願いたい。</p>
<p>問 28 についてですが、一部住民主導で行えることはありますが、ほとんどは行政が行うべき問題だと思います。自治会に頼りすぎではないでしょうか。そして、個人的には地域共生というより個人を尊重していく時代だと思っているので、目標として掲げるのは独善的に感じました。(全体を通して)</p>
<p>高齢者や障がい者が安心して生活できる年金の確保と年金制度をつくること。毎年、年金が下がるのでは安心できない。子供を育て教育するのは国の責任で進める。保育所・幼稚園・小中学校・高校・大学</p>

は医療費、学費すべてを国が保障することである。諸外国でやられている。経済大国日本で出来るはず介護施設の入居費をサポートしてほしい。(年金だけではまかなえない)
出来る限り、自力で生活しようとは思っていますが、年が増す毎に行政にお世話になっていくと思います。低い年金で生活出来る施設があると助かります。
地域住民に対する高齢者の割合が増加している現在、何らかの障害をかかえている高齢者も多く、充実した支援体制を望みます。
福祉に対してもう少し現状を把握出来る様な資料の散布を望みます。
高齢者～子育て世帯が安心して遠慮なく利用できる機関があることが望ましいのではないかと思います。
高齢者の貯蓄がなくても、年金だけで生活できるようにして下さい。単身の高齢者が一人でも生活できるよう行政に支援してほしい。高齢者、障がい者の生活は行政が中心で、関係機関や企業と連携してサポートしてほしい。
地域の中で障害者が生活していく上で、近隣住民の差別や偏見、噂の流布などが為されないよう、プライバシーと生活の安全を確保できるよう、公の立場からも取り組んでほしい。
江別市は江別市民が、困って悩んで江別市の窓口、又は電話で相談があった時、直ちに具体的な対応をする組織であってほしい。
学校や市役所が古すぎる。外観をキレイにする事は治安を維持する事につながる。子供の教育に力いれると経済力が上がる。
超少子高齢化社会の到来です。目前の2025年問題や2040年問題を考えた時、現状の行政サービスの限界を感じます。知識と経験が豊かで健康な高齢者(達人)の社会参加に期待します。
高齢者、障がい者、子育てで悩んでいらっしゃる方々へ早く対応できる様、体制が増々整っていくといいと思います。
縦割りではなく、横断的につながり合う行政としての福祉を望みます。市民の中には共生社会、地域福祉の重要性を感じている人はたくさんいます。すべてをボランティアでは続きません。又何かをしたくても場所・お金の問題が大きいです。行政からの協力で共に作っていただける江別市にして頂きたいです。関わる人たちに対価を支払えるような、持続可能な事業制度が確立されると良いなと思います。よろしくお願い致します。
まずは役所の人たちが親切に親身になってくれると嬉しいです。
相談窓口である市役所等の各課で関係する課の横の連携が不十分なため支援につながらないケースが多い。問33で示されている「6.活動や人を結びつけるコーディネート機関」の重要性を強く感じます。
インフラのメンテや不測に備えて備蓄品の(特に弱者への)行政としての充実に関心しています。個々人で出来る事はもちろんですが…。
団地に申し込んでいるそうですが、毎回ハズレるとのことで、事情のある家庭を優先して当選させることはできませんか？皆が色々な不便やストレスを軽減できれば心の余裕も生まれ人に優しくできる社会に近付くと思います。差別ではなく区別が必要だと思います。
困っている事例について市独自のサポートも考えてほしい。
高収入者には市から何も支援がなく、不満を感じている者は多数存在している。
行政とボランティアの人が協力して行うイベントや研修会がもっと増えると良いと思います。
夏の暑い時期になると暴走バイクの音がうるさいので行政と江別署と連携する等して又は市民が見たら通報しやすい様にしてほしい。(市のHPに証拠写真を投稿できるページの新設等)市のゆるキャラ「えべちゃん」のTVやネット等でもっとアピールがあれば市の活性化になるかも。
国でやっていないからとかではなく江別独自でやるべき。子ども達がこれからの江別を支えてくれるのだから、江別で育ち、江別を愛して永住できるようにしてもらいたい。子どもがいなければ将来的に町は無くなるので、今取り組むべき。
若い人の方に力を注ぐべき。
やはり、行政が中心になって取り組んでほしいです。行政も人員不足の中難しいでしょうが民間や自治会をどう活用するのが求められるのではと考えます。皆様の活躍と身体に気を付けて下さる事、祈っています。
別件ですが、市役所や福祉センターにクーラーがないので、仕事の効率も悪そうに思えました。そして職員の方の健康も大丈夫なのかと強く感じました。年々環境も変わっているので必要なものはつけても…と思いました。
老人施設の運営、入居者の状況を年に一度は査察、監査をしてほしい。
これから江別市で子育てしていく中で、トラブルに巻き込まれた際の相談先や選択肢などの情報をもっと行き渡らせてほしいです。
窓口は専門窓口を開設しゆとりのある配置→アルバイトはどうかと思う！！シルバーの力を借りるのも良いかと。
地域活動を活発にしていくために自治会などで人を集めて研修や講演をしていき、その時話した内容を各家庭に配ってただ終わるより関心を持ってもらえるとと思います。(その時は行政が中心となってやってもらう。)
何か家での困った事や不安な事を常に相談出来る専門の相談員が特別にいたらいいなと思います。どう

したらいいのかと思っっている高齢者や障害者のいる家庭は孤立しているのではないのでしょうか。
行政には、そうしたアイデアを民間(NPO)実現できるような後押しをしてほしいです。
第三者委員会を設置して云々は元々当事者が自分の取った行動の良し悪しの判断が出来ないもので、組織力体制を守り抜く為や、自分達の正当性を主張する為のモノになっている。
根本的に議論、成果を上げて行く社会にしてほしい。
行政のサービスは一律マニュアル通りに思われるが、多様化を思うのであればサービスも多様化に！臨機応変に対応してほしい。行政はサービス業だと思います！！
行政指導の(福祉)(ボランティア)制度を待つしかない。
行政は自治会まかせ、除雪業者まかせにせず、しっかり参加や監視活動をしてほしいと思います。
該当する人達にアンケートを取って、何が必要か…行政に生かしてほしい。
市役所の老朽化、市立病院の赤字等マイナス面を前面に出してほしい。
自営業を起こしたい人への相談、求職活動支援。
現在バラバラの集団でしかない環境に置かれている。これを支援できる組織に変えていかなければ、地域はだめになっていくと思う。うまくまとめられなくて申し訳ないです。

(2) 調査方法等に対する要望 (10件)

アンケートもいいのですが当事者やその家族の生の声を聞く機会を持ってほしい(困りごとについて)
待っているよりも、訪問して各家庭をまわって話を聞けば良いと思います。
第三期福祉計画での結果何かに発表となっているのでしょうか？(すみません、目に入っておりませんでした)その内容を元にしたアンケートの方が効果的では？(三→四の間があいても良いのでは？)
回答者が一銭の得にもならない長いアンケートにまともに答える気になれますか？計画策定にあたりアンケートを使うということが目的となっており回答者のメリットが不明です。役所に制限があるとは思いますがCSの勉強をしてアンケート作りをして下さい。
調査等に協力OKですが具体的に結果がどうだったのか知らせてほしい。広報誌等でも良いがどういう結果だったのか協力したのだから、知っても良いのでは…。
母は高齢の為アンケートの対象から外して頂きたいと思います。
アンケート出しすぎ。本当に無作為なのかあやしい。
8月はお盆の行事、お墓参りと1番忙しい時、10月以後でもアンケート調査は良いのでは。
前回はアンケートがありましたが、一人ぐらし、歩行が大変な人他)協力したくても出来ない人(郵便局へ歩いていけない)も多数いると思います。貴方の廻りにそう言う人がいたら貴方はどうしますか？考えて見て下さい…大変ですが！！
アンケート自体は構わないのですが、特定の年代だけでもネット回答にされてはいかがでしょうか。今後のまちづくりならば、若い世代の方へ聞くべきだと思います。

(3) まちづくりに関する提案・要望 (10件)

野幌の再開発ばかりにお金を使わず大麻やその他江別市内に予算を使うべき。
誰もが魅力的な江別市を目指すのであれば、子育て世代を増やすしかないと考えます。子育て世代が住みやすい街創りが今後の発展に深く関わる分野であると思います。
子供がいて親が喜んで暮らしている町は高齢者も障がい者も安心して暮らせるまち。
福祉を強みにしていけば、そのうち江別市は伸びると思います。
無理してやる必要はないと思います。市役所の方々も大変でしょうから。それが率直な意見です。地域経済の活性化から全てが始まると思いますので順番として、福祉・医療を優先するのは無理があるかと。色々大変だとは思いますが、頑張ってください。
江別市だけで考えるのではなく、札幌市と共同で行うべきと考えます。今の少子高齢化、人口減少の中11万人では将来が不安。
国が富裕層や法人中心の発想で経済や行政を考えているうちは、政令指定都市などの経済力のある地方自治体でもない誰かが安心して暮らせるまちづくりなど無理だと思います。
すべて行政に頼ることなく、隣組みたいな組織が必要と思う。
必要諸経費の捻出。
母子家庭のシングルマザーも沢山働いている様です。“江別で働いて良かった”“江別で働こう！”というまちづくりを望んでいます。

(4) その他に関すること (8件)

日本人は総ての人が始めよければ終りよしといひます。その始めは本政府は全員今までの人総てが言いません。日本人にこの完全解決の話をするると返って来たことばは「アアー！終った！！」と言ひます。完全解決は、必ずあるのに、その前に『アキラメのことば』が最優先！！諸外国が日本人に悪いことをするのは日本人にさせることがあるからなのです。そのさせることとは、この何をさせても『アキラメル』このことが第一の原因なのです。どんな場合でも、必ず解決策があるのに、ソレを知っている人を言わさないのです

<p>ぐにアキらめる！！これに先ず気づくことです。原バク落とされる理由がなく、それを知っている人に言わさないですぐに『アー、オワッタ！』という。そこを反省してほしい。テレビでこうしたことの問題が起きた時！なくなるというのにな～！その後、ムリだ！というアキラメが早すぎるのは、人を許す心が広すぎるからではないですか！そうしたことに對しては、私は言葉を失っています。米国より受けた災害について、賠償をとるべきですが何も考えないで、『シカタナイ』だけなので、私は言葉を失っています。一般条項は国際法違反なのです。国際法違反のみトクイげな顔をしてテレビにアップされるだけで、正しいことを知っている人が逃げまわっていたのでは何の解決もないです！！言わなくてはならぬことは無限にあります。</p>
<p>アンケート結果が良い方向に行く様役立てて下さい。</p>
<p>日本が終わっているから、市が何かしてもムダ。</p>
<p>役所はあてにならない。自力で生きる。</p>
<p>市場原理主義は弱肉強食の論理だからそのひずみが弱い者に向かっていく。日本だけに限ったことでなく、健全な社会実現には超格差社会の根源である新自由主義を変換させなければならない。</p>
<p>申し訳ないですが、このアンケートですが本人が障がいをもって生活しているため質問に對して回答できない項目が多々あります。残念です。</p>
<p>江別市は公務員の給料全国で2番目に高額と本で見ました。大企業がない為しかたないが…水道料金も他より高い。(まずい水)市の収入にあった給料にしなければ、福祉へと言ってもネ。</p>
<p>先日、福祉課の方とお話する機会をいただきました。有り難うございました！真摯に話を聞いて下さりとても気持ちが救われました。具体的な支援につながっていくことを切に切に願います。</p>

4 その他の内容

問2_「8. その他」

就労B型
ケアホームに入所
派遣社員
労災受給中で休養中
世界平和実現の計画の代表補佐伊藤博文が調印をした内容を実践
会社役員
パート 主婦
非常勤役員
保育士
会社経営
期間業務職員(公務)
団体職員
非常勤講師
無職(生活保護)
嘱託社員
生活保護
1人
介護施設
団体職員
基本無職だけど、夫の仕事の事務を多少手伝っている
保育士
病気療養中、主婦
現在老健入所のあとに病院に入院の為質問の回答は出来ません。
大学事務職員

問3. 「6. その他」

義弟夫婦
単身赴任
一人親と自分の二世帯
両親と同居
娘と2人暮らし
母
親と息子夫婦
一人親と息子夫婦
母、姉、本人
夫婦と義母
母と兄
夫婦と親
親と■
姉
ルームシェア
一人親と子供
娘と二人
夫婦二人と親
夫婦二人と親(母)の3人
(本人)と息子夫婦
親2名と子供(本人)
施設入所
姉、娘と
姉・兄・本人
両親と本人
親と自分
兄弟

夫婦と親(実母)
夫婦と孫
親との二世帯
兄
両親と子
両親と弟
完全二世帯住宅で生活も全く別に生活しています。
息子と二人暮らし
同居人1人
二世帯世帯(母と子夫婦)
娘と同居
叔父の家に同居
母親と息子
夫婦と夫の弟
夫婦2人とその親1人
母 兄 自分
親と同居
親と夫婦
兄弟
夫婦と子ども
両親、子供
親一人
父、母、子(私)
妹
娘(長女)夫婦と暮らす。
子供
親と二人暮らし
夫婦、子
親・子・祖母
両親と本人一人
両親他界のため
二世帯住宅生活は別々
娘夫婦と同居
夫、子2人
母と2人
二世帯世帯(夫婦と親)
娘
二男と父
本人と両親
親と私
入院中
二人親
兄
長男夫婦と同居
親
兄弟
夫 子と3人
一人親と夫婦
弟と2人
両親と私と弟
父親と自分本人
兄
父、母、本人
両親と自分
介護施設
親と本人
内縁関係
親と暮している

夫婦と親
義母
主人の母と主人の3人住まい
夫婦、子
両親と同居
同居別世帯
親子二人
親と子夫婦
長男と二人暮らし

問7. 「8. その他」

高齢者施設
東京
ケアマンション
民間団地
事情が複雑ではありますが。
施設に入っている
入所施設
障害者住宅
娘の持ち家
施設に入居
持ち家(息子名義)
アパート
両親の住むマンション
息子の家の二世帯住宅
介護施設
介護施設
介護施設
グループホーム
グループホーム

問9. 「9. その他」

まだ預金がある。
NHKがうるさい
冠婚葬祭に出席出来ぬ
住宅ローン他
何も信用出来るものが無い
引かれるものが多い。保険等高い。
会社勤めの時胃潰瘍の手術の輸血でC型肝炎に。退職し親元に。その後脳腫瘍になり、手術。後遺症で、左半身(手足)麻痺で4級身体障害者手帳有。C型肝炎は新薬が効いたようでここ1年長、ウィルスは発見できず。手足の不自由がづらい。しばしば転ぶ。2ヶ月くらい前転倒して右まゆ毛の所から出血。3針縫う。P5後遺症はてんかんも有。
1ヶ月～2ヶ月通院 病院代、交通費で1万以上
年金生活の為、常に赤字で常に不安
風呂付の住宅に引越しをしたい
子供を持ってない
経済的に不安になってくる事
学費
税金などの高額な支払が滞りがち(頑張っ払っているけど)
年金と貯蓄でギリギリの生活、65才で本格的な年金生活が始まるが金額によっては困難になる
姉の介護をしているので年金だけでは無理
何度か相談しているが状況上無理と回答あった
グループホームへ入所したいが現在の収入では無理
奨学金を借りている
家電等が買えない
不足分を家族が負担している
支払い

通院が困難
勉強とバイト(アルバイト)との両立
経済的に自立できていない
貯金ができない
生活全般(特に衣食住と趣味)のレベルの低下、友人・知人・親戚付き合いの減少
夫がお給料をくれない為
趣味ばかりではなく日頃の生活の中で我慢しなければ1ヶ月の生活が大変
闘病中で仕事もできない為 入退院もあり支出が多い
通院しているがこれ以上無理。これ以上の検査等はおそろしくできない。一番は費用
長男が障害あり 福祉事業所に通っている。月の収入が2万以内で自分の小遣いがやっとなので

問 14. 「5. その他」

特に不都合はないから
家族以外の人と会話がなくても娘との会話で事足りています。家族以外の人と会話がなくて相談するという決めつけはおかしいです。人それぞれ
現状で何も問題ないから
自分のことは自分で解決する
借入の事だから
子供の用事等で学校に行った時や買い物などに出ても普通にしゃべっているので心配したことがなかったから。(まずい状態なのでしょうか?)
妹、孫達が近くにいるので会話はあります。
年齢からみても当然の状態と思う
この状態でも特に困ってはいない
特に不自由を感じていない
子供に相談する
入院中
現在の生活に満足しているから
娘夫婦、孫となんでも話している
デイサービスへ行っている
一人暮らしは快適、問題はない
特に困っていないから
現在は特別相談することはないが今後は必要になると思っている。
特に問題ない
息子夫妻に相談している
家族とよく話しているから
施設の方が面倒を見てくれるから
江別市地域包括支援センターのお世話になっております。
健康なので今は相談しない
現住所への入居日数がまだ浅いため。これからだから。
グループホームにいる
相談する必要がある生活をしていると思っていない
他人に相談することがない
求職中のため、職が決まれば解決すると考えているから
自分で行動しなければ解決しないと思うから
道外の家族や友人とはやりとりが充分あって満足している。

問 16. 「16. その他」

荷物の受取りを一度だけお願いした事がある
道営住宅の手続き
高い木がありカラスが巣を作りかけていて、お向いご夫婦が撤去してくれた。
手助けして、感謝されていると思う。
町内会関係
子どもの登校時など声をかけてくれるので防犯として助けられている
スマホがなくて連絡を家族に取れない時電話を借りた
現在は、自分ことは自分でしている
家事の手助け
まだ引越してきて間もないため特になし

2018年地震の時、ラジオを貸してくれたりスマホの充電をしてくれました
物を借りる
夫の協力があります
ゴミステーション当番
おすそわけ
助ける事はあるが助けられる事はほとんどないです
世間話をする
まだ困った事がないので
大雪の時、車の救助をしてくれた。
災害の時
車が雪で動けなくなったときに声をかけたら助けてもらった
地域習慣についての教え
家族がいるので今は支援を受けていない
地域の情報を教えてもらう
留守中(工作中)の飼猫の世話
洗濯竿立ての設置
地震の時の助け合い
駐車し易い様に配慮してもらうこと
困っていない
ゴミステーションの清掃、除雪
除雪等困っている人家にして上げています。
姉の家
おすそわけをいただくこと
昨年胆振東部地震後の停電で、情報が入らず困っていた時トランジスタラジオを貸してくれた
畑をおこしてもらう
大家さんに
同じ世代の子供がいる家庭ではない時遊ばせてもらったりするのは助かります
歩道上の掃除(ゴミ・落ち葉拾い)
子ども同士仲良く遊び合っている
地震の停電時水道が停止し水を運んでくれた
ペットの世話
困った事がないので…
夫、家族がいるので今の所はないです。
手助けを受けたことがない
親の葬儀の日、大雪で近所の方が除雪しておいてくださった。
おすそわけ
マンション管理
トイレのドアが開かなくなったときドアノブを修理してくれた。
息子が居るので、何とか除雪など手伝ってもらえる。が…。
車のスタックを助けてもらった

問 18. 「16. その他」

停電時の給水
転倒して起き上がれない所助けた。カラスに荒らされたゴミ捨て場を片付けた
自分が、どこへ帰ればいいのかわからなかった人を2度ほど助けた
手伝いはありません
調味料のおすそ分け
町内会の班長に高齢者になった時、冬場に市の広報(月々)を代わりに配った
地震の時の水汲み
自治会館での話し相手
停電時浴場へ誘った
自治会行事の参加
階段の上り下りの補助
シルバ
同じ趣味の会の連絡係をしている
震災のとき高層階に住む高齢者に水を運んだ
木の処理をしてあげました。
民生委員として各種活動

何かあった時の連絡先
除雪機修理 タイヤ交換
災害時の給水の手伝い
鉢物の植えかえ。
就学児の自宅カギ忘れ時の対処
いつでも頼れるように TEL 番号を教えてあげて連絡できるようにしてあげた
買い物した袋を家まで運んだ。ありがとうと言われた。
手伝いしたことない
地震時の安否確認など
手紙出し
倒れている方を助けた。
自転車の放置(引っ越しした人の)ゴミの放置を大家さんに話した。解決してくれた。半年後にやってくれた。
引越しの手伝い
お手伝いをしなければならない方がいないので
ファックスのフィルム交換
特にナシ
ペットの世話
ペットの世話
子供の遊び相手
断水時に支援の水(バック)を代わりに持って来てあげた。
相談をされたり
葬式の時留守番をたのまれた
病院で薬をもらってくる
手伝いしたことないです

問 19. 「7. その他」

周りの方々は、若い人高齢者混在していて、まだ手伝わなければならない方がいない状況です。
近所にそういう方がいないので手伝いしたことがないです。
付き合いは、ほとんどないので
自分が高齢なので、手伝いたくても体力的にできない
他人のことはわからない
膝に障害有り
皆さん手伝わなくてもきちっと生活されています。
近所には手伝いを必要とする人がいないし、皆家族住まいのため。
頼まれないから
一般条項だから出来ない
出来ない
知り合いがまったくいない
主に両親が接している
親の介護
自分の体力がないから
自宅のまわりに手助けを必要としている方がいないですがちょっとした事はお手伝いしております。
そのような場面にあっていないから
頼られたことがない。
目が不自由であまり外に出られないからです。
今の所、そうした方は住んでおりません。
足が悪いため
自分が高齢で身体が悪いので、質問内容が不適切に思います。アンケートを受ける年齢を考えて下さい！
自分の子供に障がいがある
困っている人と遭遇した際は率先して手を貸します。
近所には困っている人がいない様子
ご近所は皆さん若くて元気な方ばかりです
片付けは自力で出来ない(人工関節やすべり症などの手術をしたので)
友人なのでその時々、手伝っている意識がない。
病気で病院通いをしているため
入院
親から言われたら手伝いをする
若い方々で皆様元気です。

妻がしているので
最近居住したので
体が不自由だから
自分も足が不自由なので
家族と住んでいるので手伝いすることはないし、頼まれることもない
私達はここへ住んで3年目に入りまだ近所の方と親しくはありませんが、町内の事は、参加しています。
身体が不自由な為。
できない
介護を受けて生活している
自分が障がい2級のため
自身が身障者です
できない

問 22. 「11. その他」

公園緑化協会
有害鳥獣駆除
囲碁同好会
聚楽学園に在籍中
青少年活動団体
町内会の清掃活動
参加した事ありません
学校役員もですか？
無い
詩吟を教えボランティアでしています
会社を通じた地域貢献活動
ロータリークラブ
OB会
ボケ老人を支える会
公園の清掃
通院している病院の患者会で役員の代わりに会報を配ったり、年に1度ドナーカードキャンペーンに参加している(ほぼ毎年)
住んでいるマンションの女子会に参加している
会社のボランティア活動 ※江別市ではない
ボーイスカウト
青少年育成協議会
夫(町内会役員)の手伝い
老人ホーム
社交ダンス協会
学校でのボラ活動として
ゴミ置場設備を作った
知り合い
福祉団体
ボーイスカウト
災害ボランティア
社会福祉(ふれあいまつり)
学校のボランティア部活
なし
町内に設立されている介護施設へ月2回(絵手紙、カラオケ等に行き話し相手になる)
労働組合
老人ホーム施設 ■今年で35年になります。
人なみに体が動かないから
近所の障がい者の方達(昔住んでいた家の)
神社
障がい児施設
老人ホーム内のボランティア
どれに当てはまるかがわからない
活動したことはないです

問 23. 「11. その他」

公園の植物の手入れ
有害鳥獣駆除
自治会役員
町内会役員
町内会婦人部会
自治会区長 夏祭り手伝いその他
町内会行事の手伝い
市立病院
高齢者の見守り
年齢だから
国道のモニター
無い
町内会の区長
自治会役員
OB 会の企画、立案、運営
セラピードッグ
ゴミ拾い
食の臨床試験(大学、健康情報センター)
自治会の交流行事
自治会役員
高齢者クラブで小学生への読み聞かせ
自治会活動(役員・清掃・夏祭り)
班長の仕事の手伝い
自治会活動
自治会活動
登校児童への見守り活動
赤十字、民生委員
町内会
ゴミ拾いなど
高齢者福祉施設への芸能慰問ボランティアサークル二つに入っていて日本舞踊をやっています
厚生部 ラジオ体操や七夕
町内会のお祭り
自治会の運営全般
高齢者施設訪問(歌踊)
町内会の役員 行事等の手伝い
地域安全活動
幼稚園行事 小学校のサポーター活動
頼まれた時、大麻子供みこし祭りとか
災害復興支援
土曜塾(社協で母子会会費で)
厚真町災害ボランティアに行っています。
特別なない
家庭菜園の作物、余剰になった物品の提供
なし
町内会
国際交流をずっと望んでいますが個人としての交流はないと言われました
自治会イベント
町内の花壇の整備
学校活動
班長、交通安全旗ふり
とくにない
清掃・町内会祭り
自治会行事など
地域行事の運営
町内会
自治会内の公園清掃等

自治会
市立病院(ボランティア・コスモス)
消費者団体
病院ボランティア
自治会の講習会の企画・実施
防災講習の実施(事務局)
祭りの手伝いなど
とくにないです

問 24. 「10. その他」

近所の付き合いがないから、活動すら知らない。
特に理由はない
自分の事で精一杯
能力的に難しい
ヘルニアの手術をして不自由で
仕事で出張が多い為参加する機会が持てない。
免許(車)を持っていないので外出に不便だから
近所の方の手伝いの方が好きだから
高齢
左手足が不自由な上、てんかんもあるから(脳腫瘍の手術の後遺症の為)
参加したいと思うけれど、持病がいくつもあり又姑、夫の世話で不可能
身体が悪いから
妻が近所付き合い等行っているのだから
お金にならないから
自分自身が障がい者と重複した持病にあるため出来ないから
一般条項ではマイナスだけだし、よい結果は全くなし。絶対に言わなくてはならないことをいう場が皆無
主に両親が参加している 両親2人とも70才代前半
今迄、家族の介護をしていたので
近所から年寄りに嫌がらせを受けている為
障がいがあるため
病気があるため
自分のことで精一杯
自分の時間を優先していきたい。多少わずらわしさもある
宗教絡みが多いから
特になし
目が不自由だから
参加できる状態にない。介護を受けている。
班長になった時、花植え、ゴミなどをやる程度
自分の体調が悪いため
障害者なので手伝いは出来ない
高齢者なので
今年隣人の女性の変態で警察や大家さんにも届出しました。
参加できる状態にない
入院
膝が悪い為。
「ボランティア」(無償)という概念が嫌いだから。
介護施設だから
休みが(仕事の)土、日とかではないので参加しづらい
自信が無い
他にしていることがあるから
大きな病気をした後なので無理は出来ないのだから
グループホームにいるのだから
交通防犯
できない

問 25. 「11. その他」

特になし

家の中の何かを直したり家電の修理
左足不自由なので無理です
体力的無理
なにが出来るかわからない
分野の内容が分からないので内容を知った上で参加したい
間質性肺炎が発症しているの、息切れの発生しない分野であれば活動したい
自治会活動
自分が納得できること
特別な
体調が改善するまでは出来ない
なし
具体的なことまでは考えたことがない
体力に自信がない。
ない
災害支援(炊き出しなど)
参加できない
適性が判らない
地域防災
専門技術を活かし生きがいにつながるワークショップの開催等
特にないです

問 26. 「11. その他」

現状を満足している
運転免許証を来年は返上しようと考えているが、交通の便が悪いこと
町内会の役員(特に部長)になると精神的に落ち込む→負担が多い
市の除雪ひどすぎる。入らないでほしい。アパートなのに回覧板が多い。それとともに町内会費必要ない。高すぎる。
地方に住む高齢の父の体の心配
病院選択。安心して手術や治療を受けられる病院がない(江別市で)
治安が悪く子どもが歩くのがこわい
道路設計(近所の)
母の介護
不審者をよく見る、声をかけるのは警察にとめられるがでは誰が守ってくれますか?
調印は私一人でするものではなく国民全員でするもの。それに対しての言う場が皆無
江別の除雪体勢がとても不安。どこに税金使っているの?
今のところなし
防犯
年金
娘、息子に任せているので特にありません
不便な地域なので老後は住めるかどうか
家の前の歩道が小学校の通学路になっているので冬の除雪は大変です。
自分の死後
現在は最低限の生活できていますが今年も家の補修をした。100万必要だった。今後建物もなくなると同時に高額が必要、破産してしまうのが見えている。この様な時どうすれば良いのかが悩みです。
除雪(道路環境)等
除雪について。(私道が公道まで10mある。市道の除雪で入口がふさがる。その雪を全て私道や敷地に入れているが重労働である。
将来、生活していけるか不安
近所の高齢者の認知症の方からあらぬ疑いをかけられる。怖い。包括センターに相談している
自分は1人のため自分の老後
現在の収入では貯蓄ができない。貯蓄が減っていく
1人の生活なので何かあったらと不安
子どもが障がい者です。親亡き後のことが心配です。
今は特に不安は有りません
除雪
ペットに関する事
交通量の多い交差点に信号機がない
冬期の除雪

普通誰でも不安、心配はある。設問が切実と言う事なら⑩(とくに問題や不安はない)
年金問題
外出時の足(バスなど)が少なく、複雑で不便
経済的なこともありますがつれないよう。

問 27. 「17. その他」

あと5～10年経ったら福祉関係に相談する
司法書士の先生
ケアマネージャー、訪問看護師
兄弟、知り合いの税理士さん
遠方に住む姉(四国在住)
弁護士2人
自分で調べ動いて解決するようにしている
北大の精神神経科の主治医と相談する。1度ケースワーカーの人を紹介してもらったことがある。
出来る限り、自分の判断でするようにしている
不安がある時は市役所に相談に行きたい。
相談したところで解決にはつながらない
日本国民全員と一般条項だけではなく日本本来のもので言う場が皆無なので知るべき事を全く知らず知っているのは私だけ
書物などで調べる
現時点で身体的・精神的な問題がないため。
病院の先生
公的機関、ネットなど
娘
弟、妹
相談しても親身には答えられないと思う。家を売ればよい…との答えがあるのみ。
身体の調子の悪い時はすぐ病院に行くし災害(去年)は電気使えなくて困った事
社会福祉協議会の中にある母子会
姉妹
二人の息子は単身赴任、長男は月に2～3回家に来る。次男は毎週電話くれる、東京なので
ネット
通っている場所の先生方
今のところは何もないので。
今ではないので特に考えていない
飲み屋(スナック)
彼氏
宗教仲間
学生の時にお世話になった先生
専門家
ケアマネ

問 29. 「8. その他」

「自治会が中心となって、地域住民の交流活動を進める」「サークル活動など、市民参加による地域活動の活性化」「江別市や社会福祉協議会による、地域の相談窓口と地域活動への支援の充実」を並行して必要と思う
特に設定は、必要ないと思う。
今のまま普通で良い
NHKの訪問が異常にうるさい
交流の場が少ない
自分の家の近所にどんな人が住んでいるかを知り、まずはあいさつから関係をつくってみる
自己の考えの持ち方により住民間のつながりは深まる。
趣味がないのでなにをしていいかわからない
地域のつながりが薄れて、身近な地域で困っている人々や課題が見えにくくなっている
挨拶
住民同士の関わりを求めない人もいるのではないかと思う。
弱者に対しての専門的知識を持つ方を主体に動く事。学歴や職歴に頼らず相手の立場にたって考えられる人
あいさつ

正しい事が言える場をつくること。これは日本が開国後は全員が出来るための計画書を全藩に配付したのにそれをボツにしたのは何故なのか！！世界中の人全員にとっても必要なことなのに
隣同士のつきあいなど小さなつながりがないと大きな活動にはならないと思います
地域にリーダー(信用できる人)が必要。
どれか一つとは決められない。
あいさつ
お互い助け合いが大事とは思っているはず。ですが色々な方が、いざとなると難しいものです。
今年は自治会がないのです。どうなっているのでしょうか？
交流できる機会を増やす事が必要だと思いますが、自治会だけに任せるのは負担が大きいです。
交流活動は仕事の関係で土日は空いてない。ボランティアやサークル？も一人で行くのは年齢差もあって正直気まずい…日常のあいさつや立ち話したりを大切にしています。
住民一人一人の意識、そもそも人と関わろうという気持ちが必要
世代交替で住民同志のつながりは難しい
自分でできる事をする。
休日は体を休めたい。自治会で日帰り旅行など色々企画しているが参加できない日程であったり、魅力的ではない
就業時間の短縮
管理組合協同活動
さしさわりのかわりが多いので！これでうまくいっているから深く考えていない
交流をするために、施設へ出かける時に交通の便が悪くて参加できない。1人暮らしで車がない。公共交通機関は不便。使う人のことを考えていない。
地域活動できる状態ではない→本人の言葉
経済的、精神的、時間的ゆとり
現状、丁度良いきずなの深まりがある(私の回りでは)
他人に迷惑をかけない。近隣同士
1人ひとりの意識

問 30. 「8. その他」

住民同士のつながりによるトラブル、誤った知識・情報の拡散が懸念されるから。
昔と違い特殊な事件があり、また政党思想の違い、プライバシーが保てなくなり生活の安全が保てなくなる。
交流は個人が自由にするべきで、なくてはならないという考えに反対です。
つながり、きずなが必要なことって何ですか。なぜ積極的に作らなければならないのですか。必要な時には自然に出来ますよ。それとも必要な時では遅すぎるようなものなのですか。
自分達は、子供が同じ市内に住んでいるので娘に頼む
最低限のつながりは必要だがその分トラブルも増える時代です
古き良き時代のことを唱える人もいますが個人が自治体で決められていることを、守れば良いと思います。

問 31. 「11. その他」

病院
病院
回覧板
母子モアプリ
自治会の回覧板など
仕事のお客様から
社会福祉サービスについての第一線の相談機関は、積極的に情報を発信して下さい。
学校
自分であちこちに聞く(わからない事は)
正しい事をしたい人へ妨害をしているのは米大統領だ！やらせないこと！
スマホ
福祉サービスの事はぜんぜん分かりません
入手の必要がない
インターネットむり
主人が施設に入っている時に自分で動いたので、色々勉強になりました。
もっと広く周知してほしい。
親の会から
情報を入手しようと思ったことがない
書籍

テレビなど
情報を必要とした事がない
自分の職場(介護施設)
授業

問 33. 「11. その他」

足腰が悪く、スーパーが遠く困っている
わからない
会社の業務義務であれば行こう。
よくわからない
老人世帯だから関心はない。
よくわからない
活性化させる事は必要と思いますが、強制的に役をふり与えるのは困ります。それぞれ、得手、不得手があると思うからです
除雪きちんとやるならやってほしい
年齢的に良く解りません
わからない
わからない。
一軒家とマンションとでは違うので検討してほしい
子育てしやすい制度を沢山作ってほしい。
弱者にとって1人の人と長くかかわって理解してもらうことは、大変心強い。人がコロコロ変わるのは逆に困惑する。
日本政府は、しかたがないと言うか？仕方のない事は総てに亘って皆■正しい事が十分に言える場をつくることから総てが始まります。
多くの方は社会性をもって仲良く暮したいと思っているので一部マイペースの人の意識を変えていく効果がある施策の提案(会員の中には退会したいなどの声もあったりして役員泣かせ、役はなり手がない→現状、せめて役員をサポートする支援する気持ちがほしい)
わからない
養育環境を整える支援
必要性を感じないので感心を持っていないので、必要性を知らせる
交流は個人が自由にするべきで、なくてはならないという考えに反対です。
？
老人は一度や二度の誘いではダメです。具体的に本当に楽しいと思わせること。こんな表面的でなくもっと深く一緒に行きましょうぐらいの言葉まで…
よくわからない
活動場所に行く為の足(?)。車をやめた方とか、交通悪すぎ!!
自分の生活維持の為フルタイム就業しているので時間がない
わからない
外での立ち話などから長い時間をかけて何でも話し合える仲に。自分の心の使い方で、たった一人でも友を作って行く、ことかなと心がけてます
市民からのアイデア募集
過当競争による自己中心的な殺伐とした市場原理主義社会を見直さなければならない。
どんなに共生社会にと考えても働くだけで余裕がないのだと思います。
現状がどうなのかわからない。
どのような地域活動が行なわれているのかよくわかりません
町内会への加入を誘われた事もないのでこの地域の活動もサッパリわからない
自家用車がないと参加できないので公共交通機関の充実
わからない
わからない
快適な生活空間を、行政が作り上げる。不平等是正

問 34. 「14. その他」

市立病院の機能改善
現在はないが支援必要になった時期が不安
NHK がうるさい
別にない
まずは今あるサービスの利用のしやすさを。気軽に利用したいと思えるものに
困った事をないがしろにされる事が多く今のままだと頼りにならない。自分でどうにかするしかない。

他人事としか考えていないと思う。
総てにおいて、完全解決の道は必ずあるのだからその人の言う場をつくること
除雪体勢の強化。除雪車を購入するだけでは意味が無い。ロータリ除雪車を今年度も2台購入しているが、稼働率上げてほしい
単位自治会の課題を連合町内会で情報共有し連携して解決していく
わからない
生きるにはやはり「お金」が必要なので市民税の割引があると助かる。
健康でないと何も出来ないし、医療の充実が第一かと思う
環境(空気、水質など)の改善。スクールゾーンの旗、交差点のガードレール設置
知りたい情報が誰でもすぐわかる事
きちんとした総合病院
目的なしの自治会員の寄り合い出来る場所がほしい。人間関係を密にしたい、大切
買い物難民を作らないための細やかな支援
店、食料品の店が3店、4店ありますが全て遠すぎ。これが一番の悩み
早くから住んでいる人の権力が強く何をしても消され住みづらいです
バス代が高い。あけぼのから野幌に行くのに往復600円。
仕事がある地域
転入者の地域活動への理解と参加
お金
自分のからだを維持すること
わからない
他人に迷惑をかけない。人権意識の向上
春から夏の夜のバイクによる騒音

5 調査票

第4期江別市地域福祉計画策定のためのアンケート調査 ご協力のお願い

日頃から江別市の市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

江別市では、市民のみなさまの福祉活動やお住まいの地域での近隣活動の基本的な指針となる「第4期江別市地域福祉計画」（計画期間：令和2年度～令和6年度）の策定を進めています。

第3期江別市地域福祉計画は、平成27年に策定されましたが、本年度で計画期間が終了することに加え、地域福祉を取り巻く環境も大きく変化していることから、見直し作業を行うことといたしました。

このアンケート調査は、計画策定にあたり、「江別市自治基本条例」の理念に基づき、江別市の福祉行政に対する多くの市民の意見を反映させる上から、地域での福祉活動の状況や住民同士のつながりに対する考え方などを把握するために実施するものです。

つきましては、ご多忙中、大変恐縮ではございますが、調査の趣旨にご理解をいただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年 8月 江別市

ご記入にあたってのお願いと留意事項

- ・ このアンケート調査は、令和元年7月1日現在で江別市内に在住する18歳以上の方を対象として、無作為に抽出した3,000人の方をお願いしています。
- ・ この調査票は、原則として**宛名のご本人**が記入されるようお願いいたします。ただし、宛名の方が記入できない場合は、他の方が記入していただいてもかまいませんが、**宛名の方の立場**になって記入されるようお願いいたします。
- ・ この調査は**無記名**です。お名前を記入する必要はありませんので、率直なご意見をお聞かせください。
- ・ 回答は、設問の説明に沿ってボールペンか鉛筆などで、回答の選択肢の**冒頭の番号に○をつけるか、()内に直接、数字や言葉を記入**されるようお願いいたします。
- ・ 選択肢の「その他」に○をつけた場合は、()内にその内容を具体的に記入してください。
- ・ **回答できない設問や回答したくない設問などは、回答をとばしてください。**
- ・ アンケート調査の結果は統計的に処理し、目的以外に使用することはありません。
- ・ ご記入いただいた調査票は、同封の「返信用封筒」（切手不要）に入れていただき、

令和元年8月23日（金）までに 郵便ポストにご投函ください。

（返信用封筒にお名前を記入する必要はありません。）

【本調査に関する質問や問い合わせ先】

江別市役所 健康福祉部 管理課地域福祉担当

電話 011-381-1090（直通）・ファックス 011-381-1070

電子メール fukushi-kanri@city.ebetsu.lg.jp

問8 世帯の家計状況についてお答えください。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------------------|-------------|
| 1 現在の収入で生活することはできている |【問10へ】 |
| 2 現在の収入で生活することは困難であるため、相談・支援等を利用している | ...【問9へ】 |
| 3 現在の収入で生活することは困難なので、支援制度があれば相談したい | ...【問9へ】 |
| 4 現在の収入で生活することは困難だが、支援は受けたくない |【問9へ】 |

問9 **問8で、「2～4（現在の収入で生活することは困難）」を選んだ方**

収入が少ないことで、最も悪い影響を及ぼしていることは何ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 食生活が悪い | 6 地域活動に参加できない |
| 2 住宅改修ができない | 7 通院できない |
| 3 趣味活動ができない | 8 介護サービスを受けられない |
| 4 子どもの教育 | 9 その他 |
| 5 近所付き合いができない | [] |

問10 現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

- | | | |
|------|-------|------|
| 1 良い | 2 ふつう | 3 悪い |
|------|-------|------|

問11 普段の外出の状況についてお答えください。(○は1つ)

- | | |
|--|-----------|
| 1 仕事や学校で頻繁にまたは時々外出する | ...【問15へ】 |
| 2 普段は家にいるが、仕事や学校以外の用事で頻繁にまたは時々外出し、家族以外の人と会話することがある | ...【問15へ】 |
| 3 普段は家において、外出することもあるが、家族以外の人と会話することがほとんどない | ...【問12へ】 |
| 4 自室からは出るが、家からはほとんど出ない | ...【問12へ】 |
| 5 自室からほとんど出ない | ...【問12へ】 |

問12 **問11で、「3～5」を選んだ方**

現在の状態となってどれくらい経ちますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|------------|--------|
| 1 6ヶ月未満 | 2 6ヶ月～5年未満 | 3 5年以上 |
|---------|------------|--------|

問13 **問11で、「3～5」を選んだ方**

現在の状態について関係機関に相談したいと思いませんか。(○は1つ)

- | | | |
|------|-----------------|-------------|
| 1 思う | 2 思わない...【問14へ】 | 3 どちらともいえない |
|------|-----------------|-------------|

問14 **問13で、「2」を選んだ方**

相談したいと思わない理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|-----------|
| 1 自分のことを知られたくない | 4 特に理由はない |
| 2 相談機関がわからない | 5 その他 |
| 3 相談しても解決できないと思う | [] |

近所付き合いについて

問15 あなたは日頃、近所の人とどのような付き合いをしていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1 困っているとき、相談をしたり、助けあう | 5 その他 |
| 2 留守や外出のとき、声をかけあう | [|
| 3 会えば立ち話をする程度 | |
| 4 会えばあいさつする程度 | |
| | 6 付き合いは、ほとんどない |

問16 あなたは、困っていたとき、近所付き合いで受けた手助けで感謝しているものはどれですか。(いくつでも)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 ゴミを出す | 10 声かけ、安否確認 |
| 2 買い物 | 11 子どもを預かる |
| 3 食事の提供 | 12 介護 |
| 4 話し相手 | 13 各種手続き(年金、保険など) |
| 5 医療、福祉施設の送迎 | 14 パソコン操作 |
| 6 散歩、外出 | 15 電球の付け替え |
| 7 家の掃除 | 16 その他 |
| 8 庭の管理、草むしり | [|
| 9 除雪、雪下ろし | |
| | 17 とくにない |

問17 あなたは、近所に住んでいる高齢者や障がいのある方、子育てなどで困っている方に対して、手伝いをしたことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|-----------|
| 1 自分から進んで手伝った | ・・・【問18へ】 |
| 2 頼まれて、手伝った | ・・・【問18へ】 |
| 3 手伝いをしたことはない | ・・・【問19へ】 |

問18 **問17で、「1または2(手伝った)」を選んだ方**
どのような手伝いをしたことができましたか。(いくつでも)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 ゴミを出す | 9 除雪、雪下ろし |
| 2 買い物 | 10 声かけ、安否確認 |
| 3 食事の提供 | 11 子どもを預かる |
| 4 話し相手 | 12 介護 |
| 5 医療、福祉施設の送迎 | 13 各種手続き(年金、保険など) |
| 6 散歩、外出 | 14 パソコン操作 |
| 7 家の掃除 | 15 電球の付け替え |
| 8 庭の管理、草むしり | 16 その他 |
| | [|
| | |

問23 **問21で、「1（現在参加している／参加したことがある）」を選んだ方**

あなたは、問22で選択した団体でどのような分野の活動に参加していたことがありますか。
(いくつでも)

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1 高齢者支援 | 7 スポーツ、文化 |
| 2 障がい者（児）支援 | 8 子どもや青少年の健全育成 |
| 3 子育て支援 | 9 国際交流 |
| 4 まちづくり | 10 募金（赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金、日赤など） |
| 5 自然や動物保護 | 11 その他 |
| 6 環境整備、リサイクル活動 | 〔
〕 |

問24 **問21で、「2または3（参加したことがない）」を選んだ方**

活動に参加していない、最も大きな理由はどれですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1 仕事が忙しいから | 6 活動の内容に不満があるから |
| 2 自分の体力や健康に自信がないから | 7 自分の趣味を優先したいから |
| 3 家族の世話で余裕がないから | 8 地域活動に興味がないから |
| 4 活動に参加する機会がないから | 9 どこで活動をしているのかわからないから |
| 5 活動の内容がよくわからないから | 10 その他 |
| | 〔
〕 |

問25 **問21で、「2（参加したことがないが、機会があれば参加したい）」を選んだ方**

あなたは、今後、活動に参加するとしたら、どのような分野の活動をしたいと思いますか。
(いくつでも)

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1 高齢者支援 | 7 スポーツ、文化 |
| 2 障がい者（児）支援 | 8 子どもや青少年の健全育成 |
| 3 子育て支援 | 9 国際交流 |
| 4 まちづくり | 10 募金（赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金、日赤など） |
| 5 自然や動物保護 | 11 その他 |
| 6 環境整備、リサイクル活動 | 〔
〕 |

日常生活での不安や悩みについて

問26 あなたの日常生活において、問題や不安なことはありますか。(いくつでも)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 自分や家族の身体的な健康に関すること | 8 住まいに関すること |
| 2 自分や家族の精神的な健康に関すること | 9 人間関係に関すること |
| 3 自分や家族の老後に関すること | 10 災害時の備えに関すること |
| 4 子育てに関すること | 11 その他 |
| 5 介護に関すること | [] |
| 6 仕事に関すること | [] |
| 7 家計に関すること | 12 とくに問題や不安はない |

問27 あなたは、日常生活の問題や不安なことについて、誰に相談しますか。(いくつでも)

- | | |
|--------------------|-------------------------------------|
| 1 同居している家族 | 11 市役所などの相談窓口
(地域包括支援センター※を含む) |
| 2 別居している家族 | 12 社会福祉協議会 |
| 3 親戚 | 13 福祉や介護サービス事業所の職員 |
| 4 近所の人 | 14 学校、幼稚園の教諭、保育所の保育士 |
| 5 友人、知人 | 15 医師や保健師 |
| 6 職場の人 | 16 市議会議員 |
| 7 自治会の役員 | 17 その他 |
| 8 民生委員・児童委員、主任児童委員 | [] |
| 9 保護司 | 18 どこに相談したらいいかわからない/
相談できる相手がいない |
| 10 人権擁護委員 | 19 誰にも相談したくない |

※地域包括支援センターとは、地域において虐待防止、介護予防などの高齢者の総合的な支援を担う相談窓口

地域での生活について

問28 下のa～vの各項目について、誰が中心となって取り組むことが必要だと思いますか。

1（行政）～5（住民）で、そう思う段階に一つずつ○をつけてください。

項 目		1	2	3	4	5
		行政	どちらかといえ ば行政	どちらとも 言えない	どちらかといえ ば住民	住民
(例)		1	2	3	4	5
高齢者、 障がい者の 支援	a 在宅での介護サービス	1	2	3	4	5
	b 日常生活の支援(食事の世話、買い物、ゴミ出しなど)	1	2	3	4	5
	c 家の玄関から公道までの除雪	1	2	3	4	5
	d 声かけや安否確認	1	2	3	4	5
	e 通院、施設への送迎や外出の手伝い	1	2	3	4	5
子育て 支援	f 男女ともに家事、育児ができるための支援	1	2	3	4	5
	g 親の仕事の都合に合わせた保育サービスの充実	1	2	3	4	5
	h 親同士やボランティアによる地域の助け合い	1	2	3	4	5
	i 子育ての不安、悩みの相談や支援	1	2	3	4	5
	j 子どもの健康や発達に関する支援	1	2	3	4	5
	k 親子が自由に交流できる場の充実	1	2	3	4	5
	l 放課後の子育て支援	1	2	3	4	5
健康 づくり	m 寝たきりや認知症の予防	1	2	3	4	5
	n 健康に関する情報の提供	1	2	3	4	5
	o 運動を始めるきっかけづくり	1	2	3	4	5
安心 できる 地域 生活	p 失業や病気時などの経済支援（貸付金など）	1	2	3	4	5
	q 災害時の救援体制の整備	1	2	3	4	5
	r 振込詐欺や悪徳商法など消費者被害の防止	1	2	3	4	5
	s 孤立や引きこもりの予防活動 (近隣住民との交流活動やサロン活動)	1	2	3	4	5
	t 日常生活全般から医療や介護についての相談	1	2	3	4	5
	u 趣味活動など余暇を過ごす活動への参加	1	2	3	4	5
	v 経験や知識などを活かしたボランティア活動への参加	1	2	3	4	5

問29 あなたは、地域で生活する上で住民同士のお互いのつながりやきずなを深めていくために、
どんなことが最も必要だと思いますか。(○は1つ)

- 1 自治会が中心となって、地域住民の交流活動を進める
- 2 ボランティア団体などの活動への積極的な参加
- 3 仕事を持つ男性や退職世代の、地域の活動への積極的な参加
- 4 サークル活動など、市民参加による地域活動の活性化
- 5 江別市や社会福祉協議会による、地域の相談窓口と地域活動への支援の充実
- 6 企業に地域貢献活動への参加の働きかけ
- 7 わからない
- 8 その他 ()
- 9 つながりやきずなを深める必要はない【問30へ】

問30 **問29で、「9 (つながりやきずなを深める必要はない)」を選択した方**
住民同士のお互いのつながりやきずなを深める必要はないと思う理由はどれですか。(○は1つ)

- 1 自分の問題は、自分で解決したいから
- 2 近所付き合いは、わずらわしいから
- 3 プライバシーが保てなくなるから
- 4 現在の生活で、とくに必要とは思っていないから
- 5 人との付き合いは苦手だから
- 6 地域社会の課題は、行政や専門機関が対応すべきだから
- 7 わからない
- 8 その他 ()

福祉行政について

問31 あなたは福祉全般に係るサービスなどの情報をどのような方法で入手していますか。
(いくつでも)

- | | | |
|-------------------|--------------------|------------------|
| 1 市の広報誌 | 8 民生委員・児童委員、主任児童委員 | |
| 2 新聞、雑誌、チラシなど | 9 友人知人や近所の人 | |
| 3 インターネット | 10 家族、親戚 | |
| 4 福祉、医療、介護サービス事業所 | 11 その他 | |
| 5 市役所や市の出先機関 | } | |
| 6 社会福祉協議会の広報誌や窓口 | | 12 情報の入手方法がわからない |
| 7 自治会 | | 13 情報の入手先がない |

問32 あなたは、江別市では、市と住民（自治会、関係団体、機関、企業を含む）が一体となり、協力してまちぐるみの福祉活動が行われていると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 十分行われている | 4 あまり行われていない |
| 2 まあ行われている | 5 不十分である |
| 3 どちらともいえない | 6 わからない |

～ 地域共生社会を目指すために ～

少子高齢や人口減少が急速に進み、個人のライフスタイルが多様化するなか、地域でともに「支え合い」、「助け合う」という社会的なつながりが希薄になってきています。そのため、人と人、人と地域の社会資源を世代や分野を超えてつなぐことにより、市民一人ひとりのより良い暮らしを共につくりあげる社会（地域共生社会）を目指すことが必要とされています。

問33 今後、地域共生社会を目指していくうえで、地域活動を活性化するために力を入れるべきことは何だと思えますか。(いくつでも)

- | | |
|---|---|
| 1 活動場所の確保 |) |
| 2 活動費の支援 | |
| 3 活動に関する情報提供 | |
| 4 活動に関わる人材の発掘 | |
| 5 活動を指導できるような専門的な人材の養成 | |
| 6 活動や人を結びつけるコーディネート機関 | |
| 7 活動に関する相談窓口 | |
| 8 子どもへの活動体験や教育等による意識づけ | |
| 9 活動に関する各種研修（地域活動を知らない人から経験者まで、各レベルに合わせた研修） | |
| 10 今のままでよい | |
| 11 その他（ | |

問34 住み慣れた地域で、安心して暮らしていくには何が大切だと思いますか。(いくつでも)

- 1 福祉、医療、保健の連携による相談体制、支援体制の充実
- 2 交通の利便性の向上、商店街の活性化など、地域おこしによる暮らしやすさの追求
- 3 男女が対等なパートナーとして認め合う男女共同参画社会の実現
- 4 地域における防犯、防災体制の充実
- 5 話し相手や孤独、孤立への対応
- 6 ボランティア活動やNPO（様々な社会貢献活動を行う民間の非営利組織）による福祉サービスの健全な発展
- 7 福祉サービスに関する情報の提供
- 8 地域を支える人づくりのための学習機会の充実
- 9 自治会や地域住民相互の協力による助け合い
- 10 子育てを地域全体で支えていく環境づくり
- 11 地域福祉活動への住民の主体的な参加
- 12 生活困窮者等の社会的弱者への相談、支援体制の充実
- 13 引きこもりへの相談、支援体制の充実
- 14 その他（)

問35 誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めていくため、高齢者、障がい者、子育てなどの福祉に関するご意見がありましたら、自由にご記入ください。

◆◆◆ 調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。 ◆◆◆

回答もれがないかご確認の上、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて**8月23日（金）まで**に郵便ポストにお入れください。

第4期江別市地域福祉計画策定に係る
市民アンケート調査報告書

令和2年3月

発行 江別市

編集 江別市健康福祉部管理課

住所 〒067-8674 江別市高砂町6番地

管理課 電話 011-381-1090

FAX 011-381-1070

ホームページ <http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/>

